

事後調査報告書（工事の施行中その3）
－（仮称）神宮外苑地区市街地再開発事業－

調査項目 大気汚染、騒音・振動、土壌汚染、
生物・生態系（既存樹木の状況、
神宮外苑広場（建国記念文庫）の
樹木の保全状況、いちょう並木の
保全状況（4列））、自然との触れ
合い活動の場、廃棄物

環境影響評価書の提出 令和5年 1月10日

事後調査計画書の提出 令和5年 1月17日

1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

1.1 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名 称：三井不動産株式会社

代表者：代表取締役社長 植田 俊

所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

名 称：宗教法人明治神宮

代表者：宮司 九條 道成

所在地：東京都渋谷区代々木神園町1番1号

名 称：独立行政法人日本スポーツ振興センター

代表者：理事長 芦立 訓

所在地：東京都新宿区霞ヶ丘町4番1号

名 称：伊藤忠商事株式会社

代表者：代表取締役 小林 文彦

所在地：東京都港区北青山二丁目5番1号

1.2 代表する事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名 称：三井不動産株式会社

代表者：代表取締役社長 植田 俊

所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

2. 対象事業の名称及び種類

名 称：(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業

種 類：高層建築物の新築、自動車駐車場の設置

3. 対象事業の内容の概略

本事業は、東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部に位置する計画地面積約 174,700m²の土地に、スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等を主要な用途とする建築物を計画するものである。

対象事業の内容の概略は、表-1 に、建築計画の概要は、表-2 に、計画地の位置は、図-1 に、現況図は、図-2 に示すとおりである。

また、配置計画は、図-3 に、断面図は、図-4(1)～(4)に、緑化計画は、図-5 及び表-3 に示すとおりである。

表-1 対象事業の内容の概略

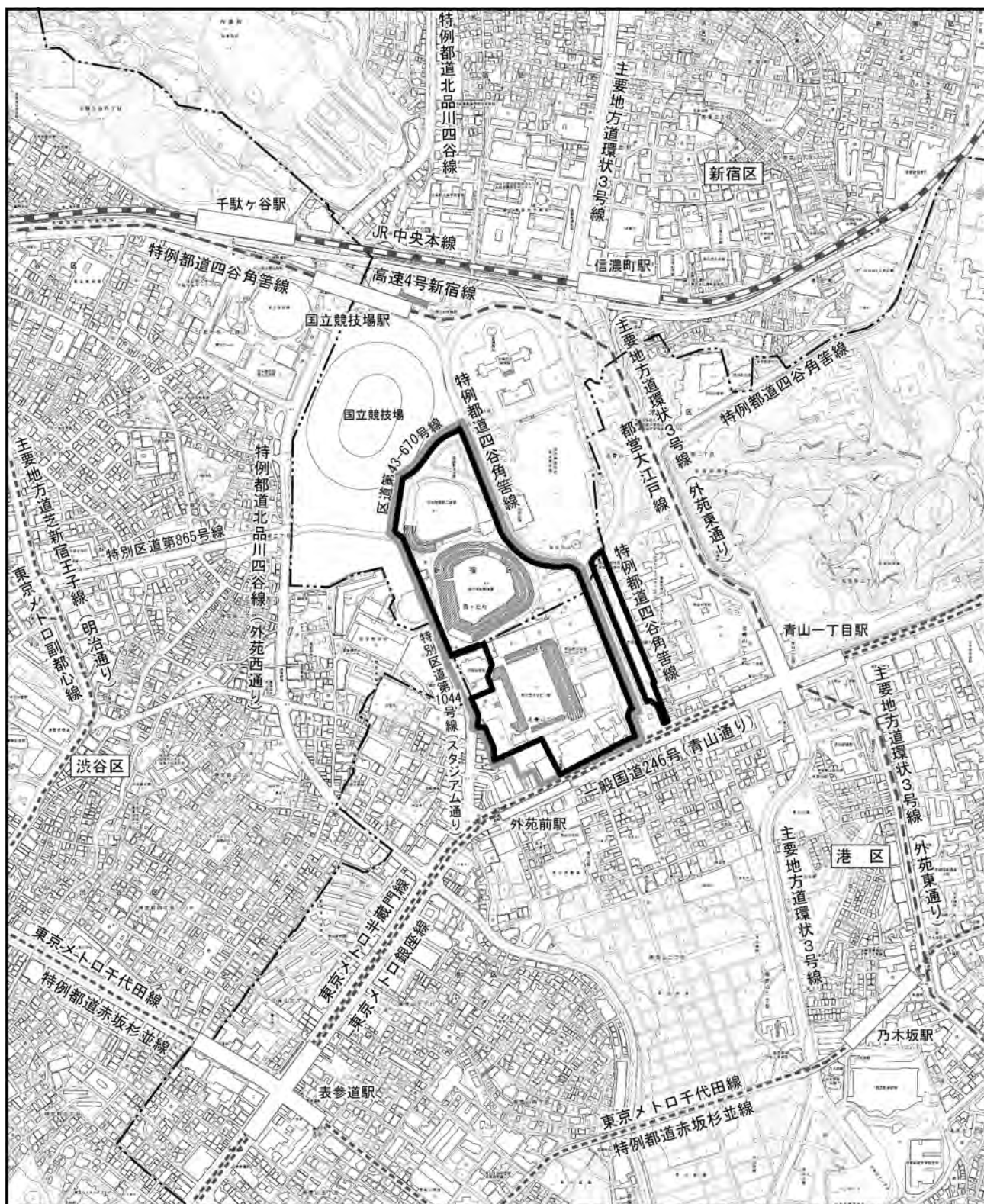
項 目	内 容
計 画 地	東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部
計 画 地 面 積	約174,700m ²
延 床 面 積	約560,800m ²
最 高 高 さ	約190m
主 要 用 途	スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等
駐 車 台 数	約1,070台
工事予定期間	2023年～2035年（令和5年～令和17年）
供 用 時 期	2035年（令和17年）（全体供用予定）

注）今後、関係者協議等により変更になることがある。

表-2 建築計画の概要

項 目	ラグビー場 棟	複合棟A	複合棟B	文化交流 施設棟	野球場棟及 び球場併設 ホテル棟	事務所棟
計画地面積	約174,700m ²					
延床面積	約72,500m ²	約127,300m ²	約30,300m ²	約2,000m ²	約115,700m ²	約213,000m ²
	合計 約560,800m ²					
最高高さ	約48m	約185m	約80m	約6m	約60m	約190m
主要用途	ラグビー 場、 文化交流施 設、商業、 駐車場等	オフィス、 商業、 駐車場等	宿泊施設、 スポーツ関 連施設、 駐車場等	公園支援施 設、 商業等	野球場、 宿泊施設、 商業、 駐車場等	オフィス、 商業、 駐車場等
階 数	地上8階 地下1階	地上40階、 地下2階、 塔屋1階	地上18階、 地下1階、 塔屋1階	地上1階	地上14階、 塔屋1階、 地下1階	地上38階、 地下5階
構 造	RC造、S造	S造、SRC造	S造、SRC造	S造、SRC造	RC造、SRC造	S造、SRC造
駐車台数	合計 約1,070台					

注) 今後、関係者協議等により変更になることがある。



凡 例



計画地



神宮外苑地区地区計画に定める神宮外苑地区（b区域）の範囲



区界

注) b区域とは、神宮外苑地区地区計画に定めた、神宮外苑地区内の緑豊かな風格ある都市景観を保全しつつ、スポーツクラスターと魅力ある複合市街地を実現することを目指し、既存スポーツ施設で現在行われている競技の継続に配慮しながら、関係者が相互に連携・協力してまちづくりを進める区域。



S=1/12,000

0 100 200 300m



図-1 計画地位置図

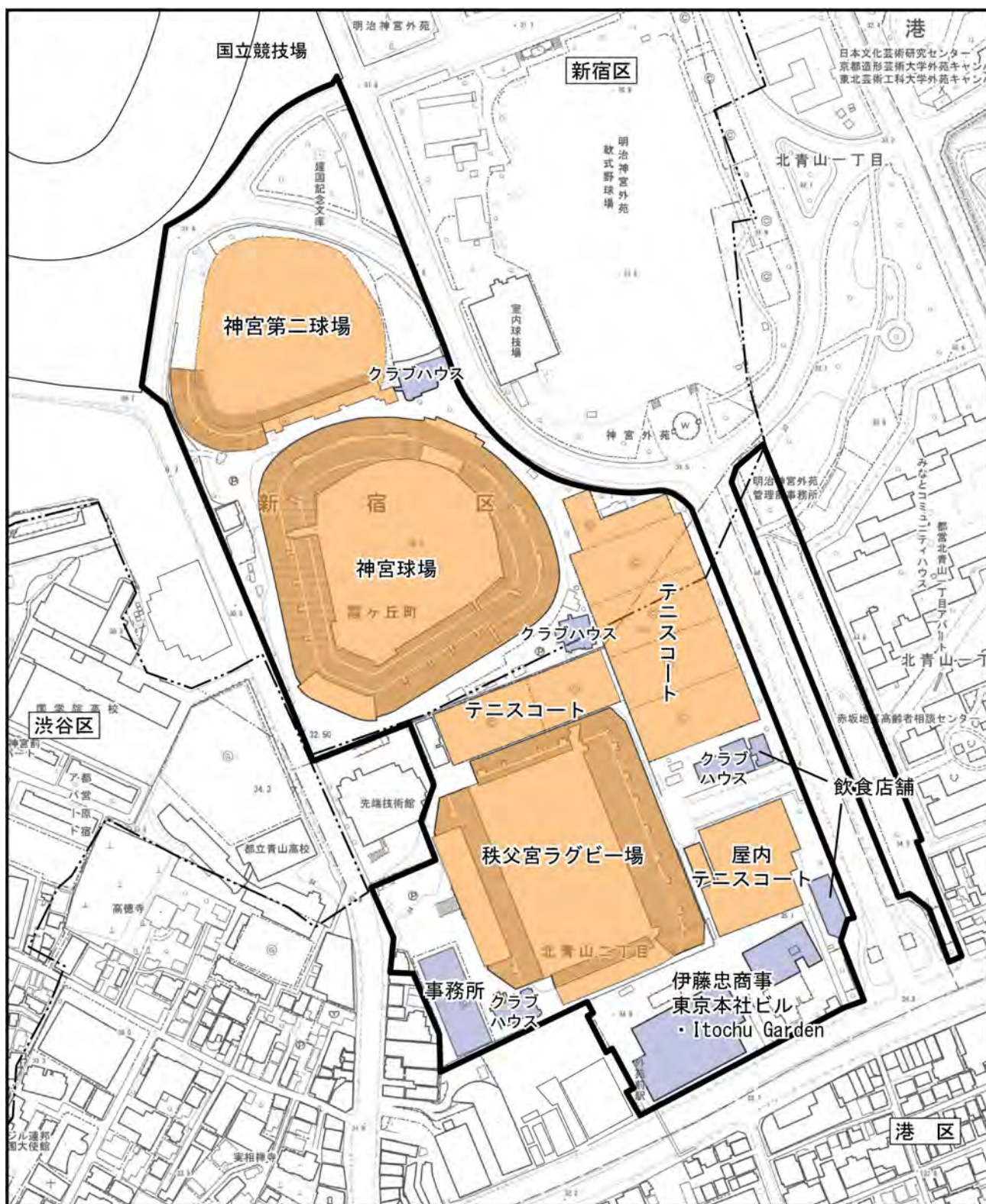
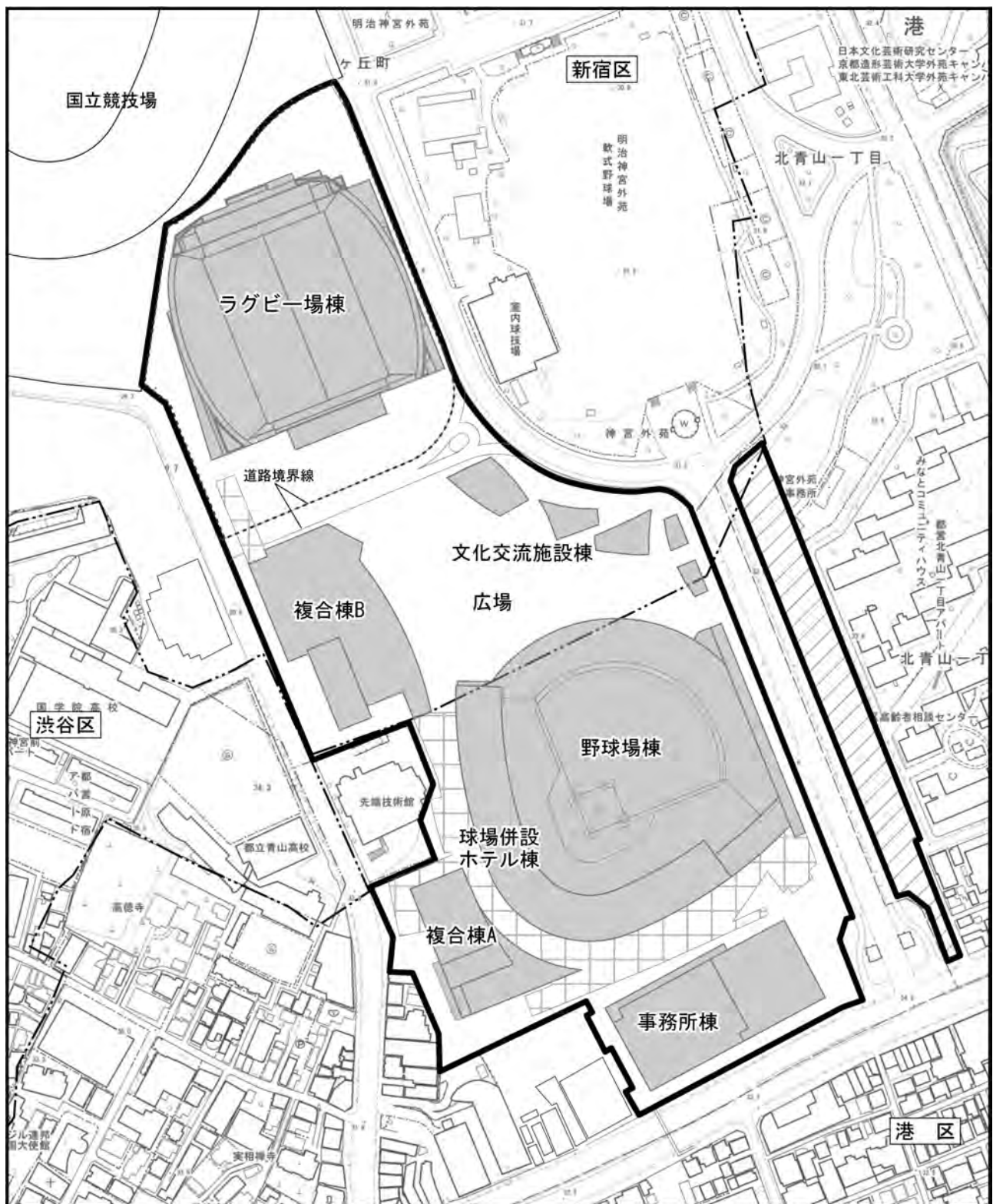


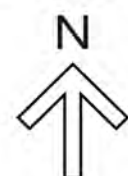
図-2 現況図



凡 例

-  計画地
-  区界
-  ラグビー場棟敷地範囲
-  建築物
-  デッキ
-  緑地

注) 計画については今後変更の可能性がある。



S = 1 / 4,000

0 40 80 120m

図-3 配置計画図

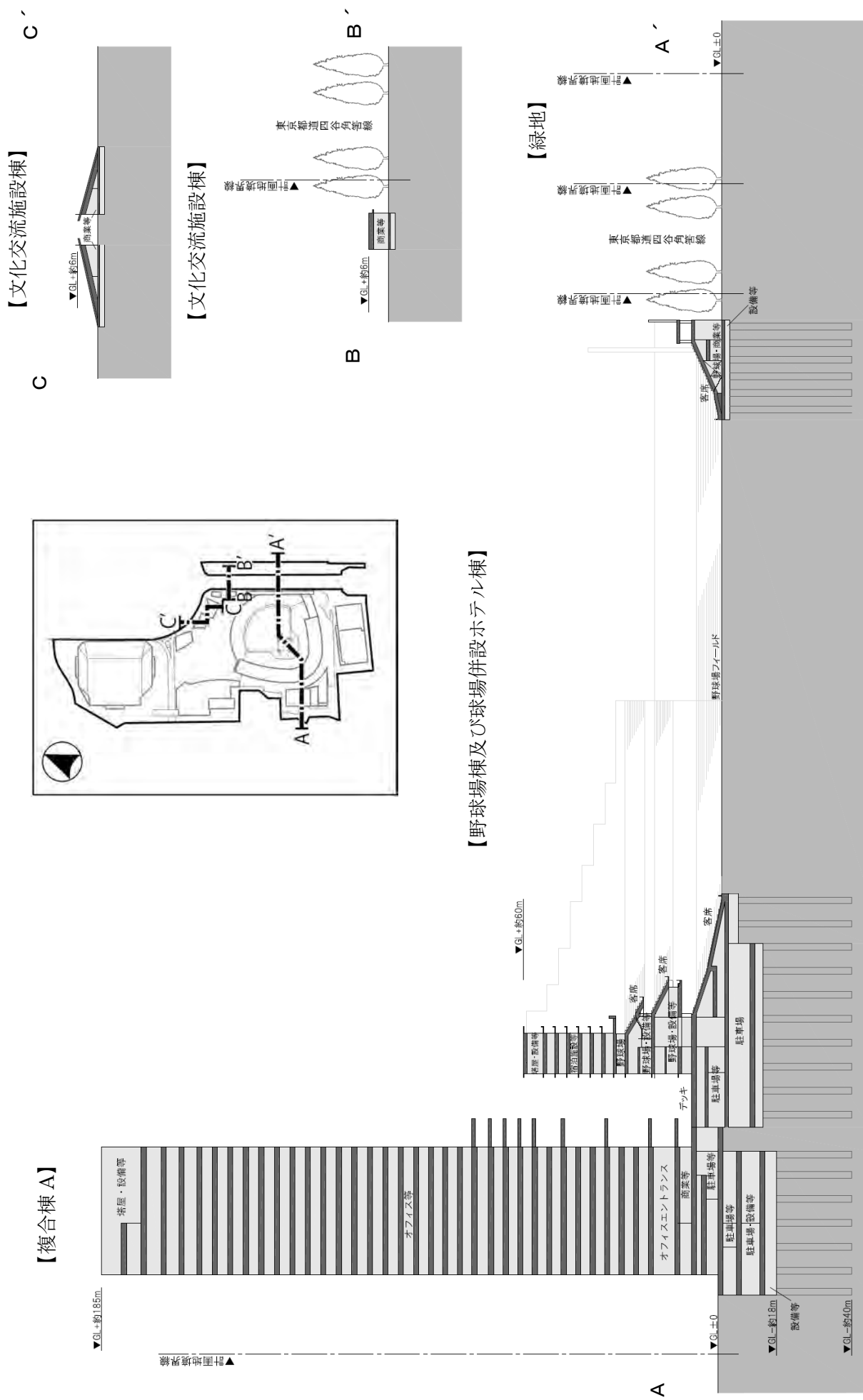
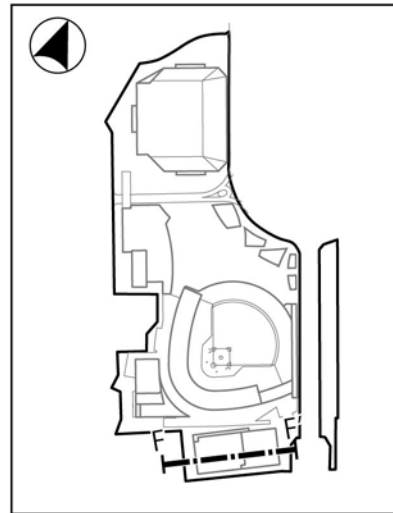


図-4(1) 断面図 (A-A'、B-B'、C-C') S=1/1,600



【事務所棟】

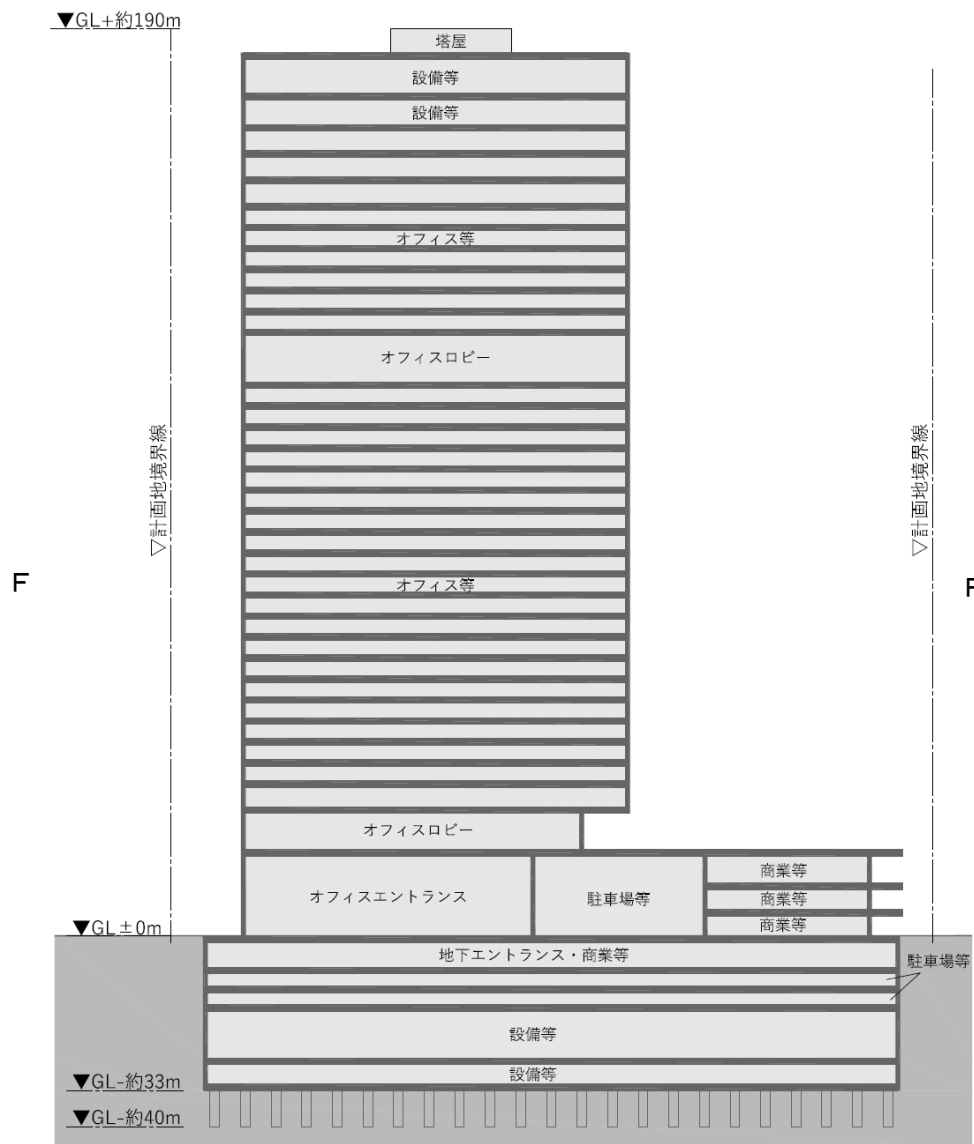
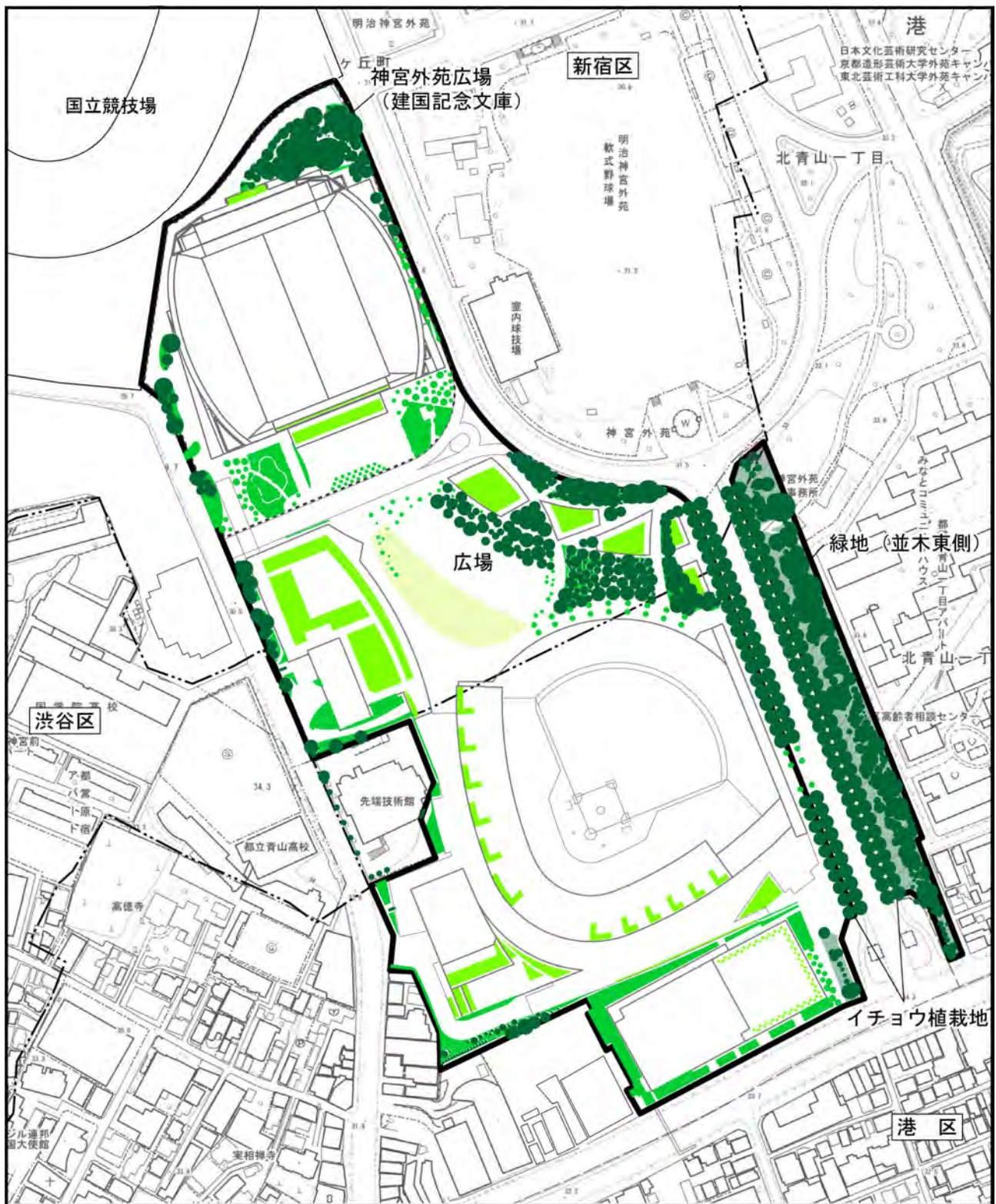


図-4(4) 断面図(F-F') S=1/1,600



凡 例

	計画地		地上部緑化 (既存または移植)		屋上緑化
	区界		地上部緑化 (既存) ^{注1}		芝生
	ラグビー場棟 敷地範囲		地上部緑化 (新規)		

注1) 既存のみどりを活用した緑地 (並木東側) エリア。
注2) 計画については今後変更の可能性がある。



S = 1/4,000

0 40 80 120m

図-5 緑化計画図

表-3 計画緑化面積及び必要緑化面積

根拠法令	計画緑化面積	必要緑化面積
「港区みどりを守る条例」	【緑化面積】 約 29,032m ² 注2) 【地上部緑化面積】 約 18,554m ² 注2) 【接道部緑化延長】 約 720m	・基準緑化面積 約 25,892m ² ・基準接道部緑化延長 約 665m
「新宿区みどりの条例」	【緑化面積】 約 9,217m ² 【地上部緑化面積】 約 6,546m ² 【接道部緑化延長】 約 503m	・基準緑化面積 約 9,036m ² ・基準接道部緑化延長 約 446m
「東京都都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準」 「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」	【合計緑化面積】 約 31,701m ² 【建築物上緑化面積】 約 9,311m ² 注1) 【地上部緑化面積】 約 22,390m ²	・合計緑化基準面積 約 29,423m ² ・建築物上緑化基準面積 約 12,169m ² ・地上部緑化基準面積 約 17,254m ²
「東京都風致地区条例による緑化基準」	【合計緑化面積】 約 30,705m ² 【建築物上緑化面積】 約 1,128m ² 【地上部緑化面積】 約 29,577m ²	・合計緑化基準面積 約 23,568m ²

注 1) 東京都都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準については、合計緑化面積が基準に適合しているかで判断される。

注 2) 計画地全体の緑化面積を記載しているため、港区みどりを守る条例の対象とならない並木東側敷地の緑地面積も含む。

注 3) 計画については今後変更の可能性がある。

4. 事後調査の結果

本事後調査は、工事施行中の令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの大気汚染、騒音・振動、土壌汚染及び、令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの生物・生態系（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））、令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの自然との触れ合い活動の場、廃棄物の調査結果である。ただし、生物・生態系のうち、既存樹木の状況については、令和 7 年 2 月末までとした。調査結果の概略を以下に示す。

4.1 大気汚染

建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度の予測値と事後調査結果との比較は、年平均値である予測結果に対し、事後調査結果は期間平均値（7 日間）であるため、単純な比較はできないが、1 週間の二酸化窒素の測定結果は、期間平均値で 0.025ppm であり、予測結果（年平均値）の 0.0255ppm と同程度であった。日平均値の期間最高値では 0.037ppm であり、予測結果（年間 98% 値）の 0.047ppm を下回った。

浮遊粒子状物質の測定結果は、期間平均値では 0.012mg/m³ であり、予測結果（年平均値）の 0.0199mg/m³ を下回った。日平均値の期間最高値では 0.021mg/m³ であり、予測結果（年間 2% 除外値）の 0.046mg/m³ を下回った。

また、大気汚染に係る環境基準の達成状況は、二酸化窒素については日平均値の年間 98% 値、浮遊粒子状物質については日平均値の年間 2% 除外値によって判断されるものであることから、環境基準と本調査結果との単純な比較はできないが、参考までに比較すると、調査期間における二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.037ppm であり、環境基準値（0.04ppm から 0.06ppm）を下回る。浮遊粒子状物質についても、調査期間における日平均値の最高値は 0.021mg/m³ であり、環境基準値（0.10mg/m³）を下回る。

4.2 騒音・振動

建設作業騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果は最大で 64dB であり、予測結果の 77dB を下回った。また、事後調査結果は、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」（平成 12 年 12 月東京都条例第 215 号（以下「環境確保条例」という））による「指定建設作業に適用する騒音の勧告基準」（85dB 以下）を下回った。予測結果を下回った理由としては、想定より解体作業に建設機械の台数を要さなかったこと等により、予測条件よりも稼働台数が下回ったことや、工事期間を通して、超低騒音型・低騒音型の建設機械の採用に努めたこと等が考えられる。

建設作業振動レベル（L₁₀）の事後調査結果は最大で 54dB であり、予測結果の 53dB と同程度であった。また、事後調査結果は、環境確保条例による「指定建設作業に適用する振動の勧告基準」（75dB 以下）を下回った。

なお、工事に際しては、1 日あたりのコンクリート塊の搬出量を平準化することにより、建設機械（バックホウ等）についても集中稼働しないよう調整する等、騒音・振動の低減に努めた。

4.3 土壌汚染

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場において、土壌汚染対策法第4条及び環境確保条例第117条に基づく土壌汚染調査を行った結果、鉛（含有量）による土壌汚染が見つかった。

土壌汚染が見つかった区画のうち、一部の区画（C4-7）については、土壌汚染対策法及び環境確保条例に基づき「汚染拡散防止計画書」を作成し、関係機関と調整を行ったうえで土壌汚染対策（掘削除去）を実施した。その区域については令和6年4月19日に「形質変更時要届出区域」の指定が解除された（東京都告示第573号）。

その他の区画については、今後の工事の施行中の事後調査報告書において適宜報告していく予定である。

4.4 生物・生態系

(1) 既存樹木の状況

計画地全体の既存樹木の状況については、下記の1)～4)に示すとおりである。なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び4列いちょう並木の状況については、「(2)神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況」「(3)いちょう並木の保全状況（4列）」に記載のとおりである。

1) 既存樹木の本数

既存樹木の本数については、変更届（令和6年9月）時点においては存置が616本、移植が193本、移植検討が19本、伐採が511本であったが、令和6年9月以降、枯損等（立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）が5本増加したことに伴い、存置が615本、移植が193本、移植検討が19本、伐採が507本となった。枯損等により、存置が1本、伐採が4本減少している。

また、ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。

2) 保全管理の状況及び保全管理方針

樹勢が弱っている樹木に対しては、施肥を実施するとともに、病虫害防除策（キクイムシ侵入防除策）を実施している。

今後も保全管理方針として、樹勢が弱っている樹木に対して施肥の実施、定期巡回による病虫害被害状況を確認するとともに、病虫害防除策の実施、定期剪定による樹木の生育環境の保全を実施する予定である。

3) 秩父宮ラグビー場東側の港区道等のイチョウの移植検討のための調査概要

ア) 目的

秩父宮ラグビー場東側に所在する港区道等のイチョウ（19 本）^{注)}は、環境影響評価書において「移植を検討する樹木」として位置づけており、新球場の工事着手前までに野球場棟北側エリアに移植することを想定している。

他の移植予定樹木と異なり、歩道上に植栽されており植栽樹が小さく、根系域が限定されていることから、移植に向けて適正な根鉢を確保するために、樹木医等専門家の立ち会いのもと下記に示す調査を継続的に実施する。

イ) 調査概要

移植を検討するにあたり、まずイチョウ 2 本に対し、樹木医等専門家の立会いのもと、根や土壌の現況を確認した上で、樹木周囲の一部の根回しと樹勢助長措置を試験的に実施する。その後数年にわたり、維持管理と継続調査により根回しや樹勢助長措置の効果を検証した上で、残りの 17 本を含む 19 本に対して最適な樹勢助長措置を実施し、さらに全 19 本を対象に維持管理と継続調査を行い、その結果を踏まえて移植を検討する。

ウ) 調査の結果

令和 7 年 2 月に調査を行った。

歩道側においては歩道面から約 20cm 下、車道側においては車道面から約 20cm 下まで掘削し、調査したところ、（関東地方に広く分布する）ローム層であったことから、樹木の生育に適した土壌であった。また、歩道側・車道側ともに舗装面の下部の地山には良好な根系が発達しており、いちょうの生育は良好である。

また、調査と合わせてイチョウの一部について、根回しと樹勢助長措置も実施した。

樹勢助長措置は、主に歩道側の舗装・碎石を撤去し良質土への入れ替えを行った。引き続き効果検証のための維持管理及び継続調査を実施していく。

^{注)} 港区道イチョウ 18 本及び港区道北側神宮外苑敷地内イチョウ 1 本、合計 19 本

(2) 神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場の移植樹木については、移植に向けて根回しや養生を行っており、その状況は事後調査報告書（工事の施行中その1及びその2）において報告を行った。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木については、対象樹木の移植、伐採作業に着手するとともに、移植が未実施の樹木については養生を行っている。

移植木の養生の状況については、事後調査報告書（工事の施行中その2）で報告したとおり、根鉢上に稲藁にてマルチングを行うとともに、灌水を週2回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草及び病害防除対策を適宜実施している。なお、移植未実施の樹木について、枯損しているものはない。

樹木については日常管理として、巡回を毎日実施するとともに、枝葉の剪定や、枯枝除去を行っている。

また、これらの作業のため、神宮外苑広場（建国記念文庫）へ仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。

なお、保全エリアの拡大の状況については、変更届（令和6年9月）で報告したとおり、ラグビー場棟を計画変更することにより、神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全する樹木本数やエリアを増やすとともに、生育環境を良化する計画とした。

(3) いちょう並木の保全状況（4列）

4列いちょう並木の活力度調査は、事後調査計画では工事の施行中の毎年6月頃に調査を実施する予定であるが、令和6年については令和5年と同様に事後調査計画の調査回数を変更し、春（5月）、夏（7月）、秋（10月）の3回調査を実施した。活力度の状況を詳細に把握するため、いちょう並木の景観を維持する目的で剪定により樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とした。

4列いちょう並木の活力度は、令和6年5月時点では活力度A（正常なもの）が74本、活力度B（普通、正常に近い）が53本、活力度C（悪化のかなり進んだもの）が1本、活力度D（顕著に悪化の進んでいるもの）が0本であった。令和6年7月時点では活力度Aが74本、活力度Bが50本、活力度Cが4本、活力度Dが0本であった。令和6年10月時点では活力度Aが75本、活力度Bが49本、活力度Cが4本、活力度Dが0本であった。

活力度Cとなった4本のいちょうについては、先端部（頂部）は活力度C～Dであるのに対し、それ以外の部分（頂部以外）は活力度B～Cであり、先端部（頂部）の活力度がそれ以外の部分（頂部以外）に対して悪くなっている。

令和5年5月時点と令和6年5月時点を比較すると、活力度Aが1本から74本に増加するとともに、活力度Cが2本から1本に減少しており、活力度の改善がみられ、7月及び10月時点においても同様に活力度の改善がみられる。これについては、ヘデラの除去や稲藁マルチング、灌水など、樹勢回復措置の実施の効果も考えられる。

また、平成31（令和元）年春季調査に比べて活力度Cが出現しているが、2020年代（令和2年～令和6年）の東京（千代田区）の6月～9月の最高気温（月間平均）が過去30年間（平成3年～令和2年）に比べて6月は1.4℃、7月は1.4℃、8月は1.6℃、9月は1.3℃上昇するなど、気候変動の影響等も考えられる。

春季、夏季、秋季ともに、4列のいちょう並木のうち、東側2列は活力度AまたはBである。西から2列目については概ね活力度AまたはBであるが、西から1列目の一部で活力度Cが出現している。

上記の活力度Cとなっているいちょうは、令和5年の活力度調査で活力度CまたはDと診断されたいちょうであり、「工事の施行中その2」において報告したとおり、検査機関に照会した結果、病虫害ではないことが確認されている。

また、「工事の施行中その2」で報告したとおり、活力度の低下したいちょうに対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施するとともに、4列いちょう並木西側1列（縁石から約10.5mまで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、下記に示す樹勢回復措置を継続実施中である。

- ・稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
- ・自動灌水装置の設置（4列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）

さらに、土壌水分の測定や成長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果の確認のため幹周を測定する観測装置（デンドロメーター）を設置し、定期的にモニタリングを実施している。

なお、下記に示す樹勢回復措置を実施済みである。

- ・ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
- ・埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
- ・4 列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

4.5 自然との触れ合い活動の場

ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。これに伴い、神宮外苑広場（建国記念文庫）を囲む歩道の閉鎖を行っているが、交通整理員を配置するとともに迂回路への誘導を行い、歩行者の通行に支障がないように配慮している。

それ以外の場については、周辺の緑地や広場について改変は行われておらず、上記以外の場所の歩道の閉鎖は行っていないため、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている。

以上のことから、予測結果のとおり、自然との触れ合い活動の場までの利用経路に著しい影響を及ぼしていないものとする。

4.6 廃棄物

令和 6 年 11 月末時点では第二球場の解体工事の途中段階であり、全ての解体工事が終了した時点で予測結果との比較を行うが、参考までに令和 6 年 11 月末時点で比較すると、建設廃棄物の総発生量は予測結果のコンクリート塊 150,560m³、それ以外が 38,230t に対して事後調査結果がコンクリート塊 9,140m³、それ以外が 126t であり、事後調査結果が予測結果を下回っている。

また、「工事の施行中その 2」で報告したとおり、解体工事に伴い石綿含有産業廃棄物が発生した。石綿含有産業廃棄物については、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」（令和 6 年 2 月改正 厚生労働省、環境省）、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」（令和 4 年 3 月 東京都）等に基づき撤去し、適正に処分を行った。

5. その他

5.1 事後調査を実施した者及び受託者の名称、代表者の氏名並びに主たる事務所の所在地

[実施者]

名 称：三井不動産株式会社

代表者：代表取締役社長 植田 俊

所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

名 称：宗教法人明治神宮

代表者：宮司 九條 道成

所在地：東京都渋谷区代々木神園町1番1号

名 称：独立行政法人日本スポーツ振興センター

代表者：理事長 芦立 訓

所在地：東京都新宿区霞ヶ丘町4番1号

名 称：伊藤忠商事株式会社

代表者：代表取締役 小林 文彦

所在地：東京都港区北青山二丁目5番1号

[受託者]

名 称：株式会社 日建設計

代表者：代表取締役社長 大松 敦

所在地：東京都千代田区飯田橋二丁目 18 番 3 号

5.2 添付資料等一覧

5.2.1 事後調査結果

- (1) 事後調査結果 大気汚染（別紙 1）（p. 21～p. 36）
騒音・振動（別紙 2）（p. 37～p. 48）
土壌汚染（別紙 3）（p. 49～p. 54）
生物・生態系（別紙 4）（p. 55～p. 88）
自然との触れ合い活動の場（別紙 5）（p. 89～p. 96）
廃棄物（別紙 6）（p. 97～p. 104）
- (2) 環境影響評価手続等の状況（別添）（p. 105）
- (3) 許認可の状況（別添）（p. 105）
- (4) 工事及び事後調査の進捗状況（別添）（p. 106～p. 117）
- (5) 資料編（p. 119～p. 177）

5.3 連絡先

名称：三井不動産株式会社

住所：東京都中央区日本橋室町 3-2-1

担当部署及び連絡先：神宮外苑地区まちづくり準備室 03-6695-0539

事後調査結果

調 査 項 目：大気汚染

予測した事項：建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

1. 調査地域

調査地域は、建設機械の稼働に伴う、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中の濃度に影響が及ぶと考えられる、計画地及び計画地周辺とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

- 1) 建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

(2) 予測条件の状況

- 1) 気象の状況（風向・風速）
- 2) バックグラウンド濃度の状況
- 3) 建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間）

(3) 環境保全のための措置の実施状況

- 1) 建設機械に関する保全のための措置
- 2) 工事用車両に関する保全のための措置

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

- 1) 建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

建設機械の稼働による大気質への影響が最大となる時点(予測時期②※：工事着工後 11 ヶ月目)とし、令和 5 年 12 月 19 日(火)0 時～令和 5 年 12 月 25 日(月)24 時の 7 日間連続測定とした。

(2) 予測条件の状況

- 1) 気象の状況（風向・風速）

建設機械の稼働による大気質への影響が最大となる時点における、最大となる地点（公定法）での測定時間に合わせ、令和 5 年 12 月 19 日(火)0 時～令和 5 年 12 月

※ 予測時期②：ラグビー場棟 I 期工事（解体工事を含む）の期間である。

25 日(月)24 時とした。

2) バックグラウンド濃度の状況

「1) 気象の状況(風向・風速)」と同様とした。

3) 建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間)

建設機械の稼働による大気汚染が最大となる第二球場の解体工事实施中の令和 5 年 12 月 20 日(水)(予測時期②: 工事着工後 11 ヶ月目)とした。調査の時間帯は、建設機械の稼働時間及びその前後 1 時間を含む 7 時~19 時までの 12 時間とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

1) 建設機械に関する保全のための措置

令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの工事施行中の適時とした。

2) 工事用車両に関する保全のための措置

令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの工事施行中の適時とした。

2.3 調査地点

(1) 予測した事項

1) 建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

調査地点は、図 1-1 に示す地点とした。

(2) 予測条件の状況

1) 気象の状況(風向・風速)

調査地点は、東京管区气象台とした。

2) バックグラウンド濃度の状況

計画地周辺の大気汚染常時観測局(国設東京新宿、渋谷区宇田川町、麻布、本庁※)とした。

3) 建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間)

図 1-1 に示す計画地内とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

1) 建設機械に関する保全のための措置

図 1-1 に示す計画地及び計画地周辺とした。

2) 工事用車両に関する保全のための措置

図 1-1 に示す計画地及び計画地周辺とした。

※ 本庁：新宿区役所

2.4 調査方法

(1) 予測した事項

- 1) 建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

ア．二酸化窒素(NO_2)

計画地内において、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和 53 年 7 月環境庁告示第 38 号)に定める方法(オゾンを用いる化学発光法(JIS B 7953))による測定を行った。

イ．浮遊粒子状物質(SPM)

計画地内において、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和 48 年 5 月環境庁告示第 25 号)に定める方法(ベータ線吸収法(JIS B 7954))による測定を行った。

(2) 予測条件の状況

- 1) 気象の状況(風向・風速)

東京管区気象台の観測値の整理により行った。

- 2) バックグラウンド濃度の状況

計画地周辺の大気汚染常時観測局の観測値の整理により行った。

- 3) 建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間)

現地調査及び関連資料の整理により行った。

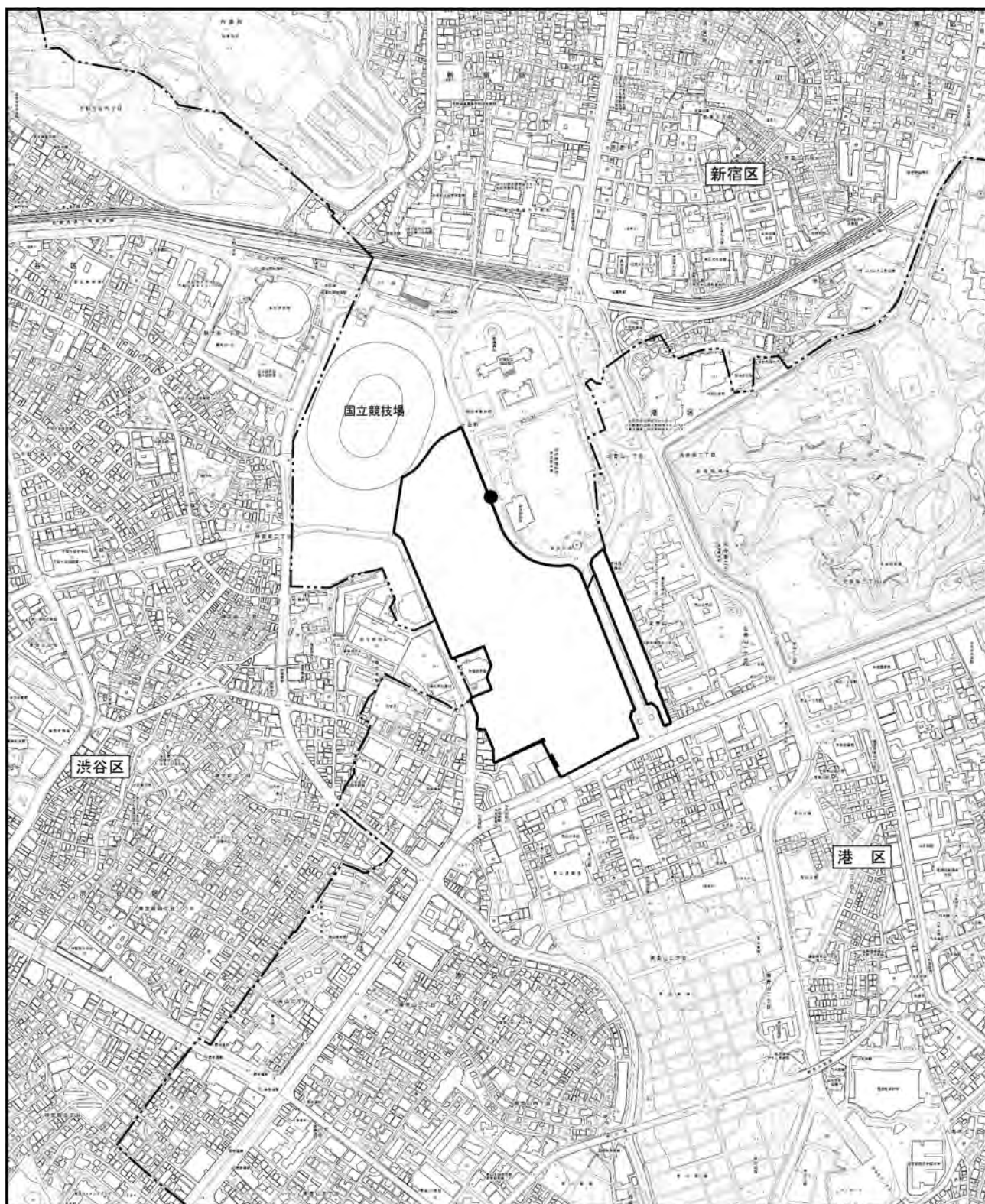
(3) 環境保全のための措置の実施状況

- 1) 建設機械に関する保全のための措置

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理により行った。

- 2) 工事用車両に関する保全のための措置

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理により行った。



凡 例

- 計画地
- 区界
- 調査地点



S=1/12,000

0 100 200 300m

図 1-1 建設機械の稼働に伴う大気汚染の調査地点（予測時期②）

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

- 1) 建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

建設機械の稼働に伴う大気質の調査結果は、表 1-1 に示すとおりである。

公定法による二酸化窒素(NO_2)の期間平均値(7日間)は、0.025ppmであった。日平均値は0.016～0.037ppm、1時間値の最高値は0.026～0.070ppmであった。浮遊粒子状物質(SPM)の期間平均値(7日間)は、0.012 mg/m^3 であった。日平均値は0.004～0.021 mg/m^3 、1時間値の最高値は0.010～0.049 mg/m^3 であった。

表 1-1 建設機械の稼働に伴う大気質の調査結果(公定法): 予測時期②

項 目		12/19 (火)	12/20 (水)	12/21 (木)	12/22 (金)	12/23 (土)	12/24 (日)	12/25 (月)	期間 平均値
二酸化窒素 (ppm)	日平均値	0.024	0.035	0.020	0.016	0.022	0.020	0.037	0.025
	1時間値の最高値	0.032	0.059	0.043	0.026	0.049	0.029	0.070	-
浮遊粒子状 物質 (mg/m^3)	日平均値	0.012	0.021	0.009	0.004	0.007	0.013	0.017	0.012
	1時間値の最高値	0.027	0.049	0.032	0.010	0.047	0.023	0.033	-

注 1) 各調査日の値は、0 時～24 時の値である。

注 2) 太枠は、期間最大値を示す。

注 3) 詳細は、資料編 p. 119～120 参照。

(2) 予測条件の状況

1) 気象の状況（風向・風速）

気象の状況の調査結果は、表 1-2 に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う大気質の調査期間における主風向は北西で、平均風速は 2.0m/s、日最大風速は 5.2m/s、静穏率(風速 0.4m/s 以下を静穏とした)は 0.0%であった。

表 1-2 気象観測結果(東京管区气象台)

項 目		建設機械の稼働に伴う大気質の調査期間							期間値
		12/19 (火)	12/20 (水)	12/21 (木)	12/22 (金)	12/23 (土)	12/24 (日)	12/25 (月)	
風向 (16 方位)	最多風向	北	西北西	南西	北西	北西	北	北西	北西
	最多風向 出現率(%)	33.3	20.8	41.7	25.0	29.2	25.0	41.7	22.0
	静穏率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
風速 (m/s)	最大値	2.8	3.0	5.2	5.1	3.5	2.6	3.5	5.2
	最小値	0.8	0.9	0.8	1.0	0.8	0.6	0.8	0.6
	平均値	1.6	1.7	2.9	2.8	1.7	1.6	1.8	2.0

注 1) 各調査日の値は、0 時～24 時の値である。

注 2) 詳細は、資料編 p. 121～122 参照。

2) バックグラウンド濃度の状況

建設機械の稼働に伴う大気質の調査結果を計画地周辺の大気汚染常時観測局と比較したものは、図 1-2(1)～(2)に示すとおりである。

二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに、計画地と周辺の常時観測局は同様な変動をしていた。

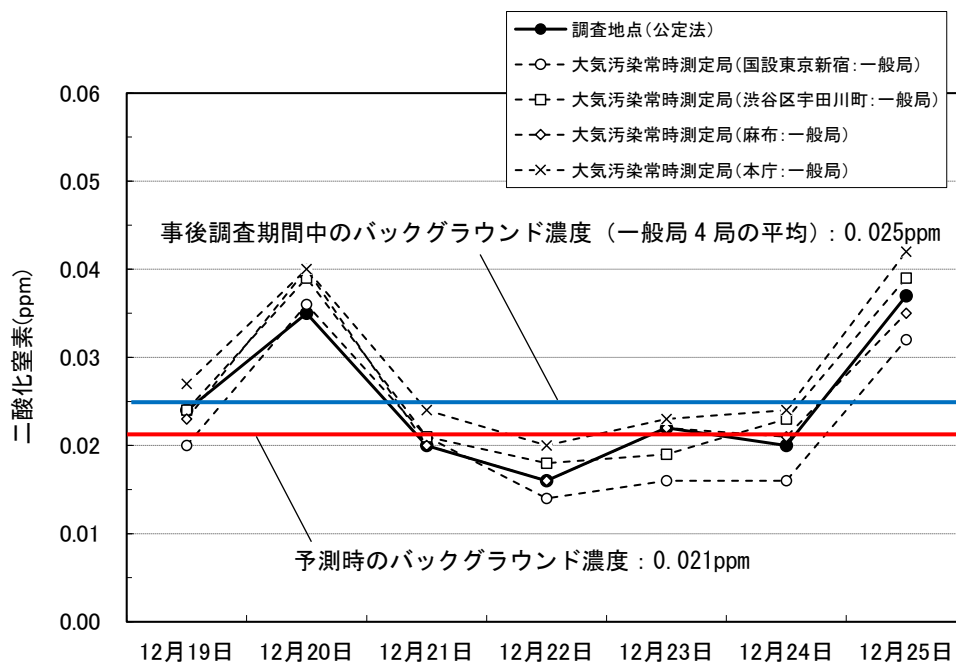


図 1-2(1) 事後調査結果と大気汚染常時測定局の測定値の比較(二酸化窒素)

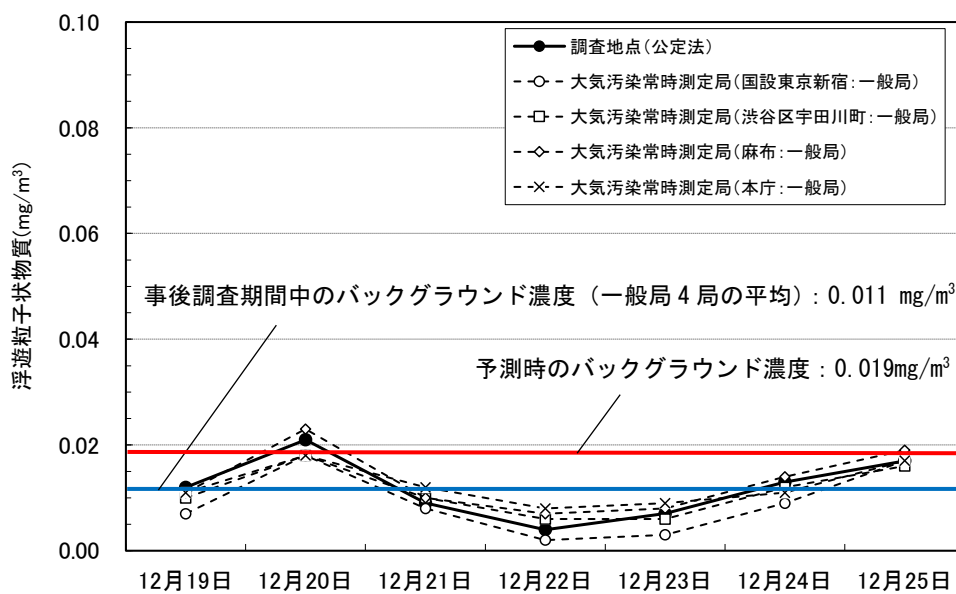


図 1-2(2) 事後調査結果と大気汚染常時測定局の測定値の比較(浮遊粒子状物質)

3) 建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間）

建設機械の稼働状況は、表 1-3 及び図 1-3 に示すとおりである。

予測時期②の解体時の 2023 年 12 月 20 日（水）においては、バックホウ 27 台、油圧破碎機 25 台、クローラークレーン 2 台、発電機 1 台の合計 55 台が稼働する状態を想定していたが、事後調査時においては、想定より解体作業に建設機械の台数を要さなかったこと等により、予測条件よりも稼働台数が下回り、発電機 1 台、バックホウ 6 台の合計 7 台が稼働していた。

表 1-3 建設機械の稼働状況：予測時期②解体時（調査日：令和 5 年 12 月 20 日（水））

種 類	予測時の台数	事後調査時の台数	時 間																
			7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19				
バックホウ（0.1m ³ ）	3	—		←→					←→										
バックホウ（0.45m ³ ）	12	—		←→					←→										
バックホウ（0.7m ³ ）	—	4		←→					←→										
バックホウ（0.8m ³ ）	12	—		←→					←→										
バックホウ（1.2m ³ ）	—	1		←→					←→										
バックホウ（1.6m ³ ）	—	1		←→					←→										
油圧破碎機（大型）	10	—		←→					←→										
油圧破碎機（中型）	10	—		←→					←→										
油圧破碎機（小型）	5	—		←→					←→										
クローラークレーン（50t）	2	—		←→					←→										
発電機	1	1		←→					←→										
合 計	55	7																	

注) ←→ は、建設作業時間帯を示す。



凡 例

- 計画地
- 区界
- 仮囲い

- バックハウ (0.7m³)
- ◎ バックハウ (1.2m³)
- バックハウ (1.6m³)
- ★ 発電機



図 1-3 建設機械の稼働状況（予測時期②：令和 5 年 12 月 20 日（水））

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 1-4、1-5 に示すとおりである。

なお、令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの間に大気汚染に関する苦情は寄せられなかった。

表 1-4 大気汚染に係る環境保全のための措置の実施状況(建設機械)

環境保全のための措置	実施状況
排出ガス対策型建設機械（第 2 次基準値）を使用する。	建設機械の稼働にあたっては、工事期間を通して、排出ガス対策型建設機械の採用に努めた。(写真1-1、1-2)
仮囲い(高さ 3.0m)を設置する。	工事区域内には、仮囲い（高さ3.0m）を設置し、周辺への大気汚染の影響の低減に努めた。(写真1-3)
建設機械の集中稼働を行わないよう、作業の平準化に努める。	工事用車両(主にダンプトラック等)の総量を調整することにより、それらに連動する建設機械(バックホウ等)についても集中稼働しないよう調整した。
最新の排出ガス対策型建設機械（特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律、第 3 次基準値）の使用に努める。	第3次基準値及び特定特殊自動車排出ガス規制等に関する法律（オフロード法）に適合した建設機械の使用に努めた。(写真1-4)
必要に応じて散水の実施、粉じん飛散防止シートの設置等、粉じんの飛散防止対策を講じる。	粉じんの飛散防止対策として、散水を行った(写真1-5)。
良質な燃料を使用する。	建設機械（ディーゼルエンジン仕様）に使用する燃料は、日本工業規格（JIS）に適合したものを使用するよう指導を行った。
アイドリングストップの厳守を徹底する。	アイドリングストップの厳守について、現場内に掲示を行うとともに、朝礼等の場で作業員に指導を行った（写真1-6）。

表 1-5 大気汚染に係る環境保全のための措置の実施状況(工事用車両)

環境保全のための措置	実施状況
工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、出入口付近への洗車施設の設置等を行う。	工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、出入口付近に洗車施設を設けてタイヤ等に付着した泥の洗浄を行う等、土砂・粉じんの飛散防止に努めた。
低公害型の工事用車両の採用に努める。	工事用車両については事前に車検証を確認し、故障や異常がないことを確認した上で採用するとともに、使用する燃料は「揮発油等の品質の確保等に関する法律」に適合したものを使用するよう指導を行った。
不必要なアイドリング防止を徹底する。	アイドリングストップの徹底について、運転者に指導を行った。
工事用車両の出入口付近には、適宜、清掃員を配置し、路面の清掃に努める。	工事用車両の出入口付近（出入口周辺及び出入口前の車道）について、適宜清掃を実施している（写真1-7）。



写真 1-1 排出ガス対策型建設機械（オフロード法）の使用状況（バックホウ）



写真 1-2 排出ガス対策型建設機械（オフロード法）の使用状況（バックホウ）



写真 1-3 仮囲い（高さ 3.0m）の設置状況

撮影日：令和6年4月10日



撮影日：令和6年4月10日



写真 1-4 排出ガス対策型建設機械（第3次基準値）の使用状況（発電機）

撮影日：令和6年4月10日



写真 1-5 散水の状況

撮影日：令和6年4月10日



写真 1-6 アイドリングストップ等の掲示の状況



写真 1-7 清掃の状況

3.2 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

- 1) 建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度の予測値と事後調査結果との比較は、表 1-6(1)～(2)に示すとおりである。

年平均値である予測結果に対し、事後調査結果は期間平均値（7 日間）であるため、単純な比較はできないが、1 週間の二酸化窒素の測定結果は、期間平均値で 0.025ppm であり、予測結果（年平均値）の 0.0255ppm と同程度であった。日平均値の期間最高値では 0.037ppm であり、予測結果（年間 98%値）の 0.047ppm を下回った。

浮遊粒子状物質の測定結果は、期間平均値では 0.012mg/m³であり、予測結果（年平均値）の 0.0199mg/m³を下回った。日平均値の期間最高値では 0.021mg/m³であり、予測結果（年間 2%除外値）の 0.046mg/m³を下回った。

また、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る環境基準を表 1-7 に示す。大気汚染に係る環境基準の達成状況は、二酸化窒素については日平均値の年間 98%値、浮遊粒子状物質については日平均値の年間 2%除外値によって判断されるものであることから、環境基準と本調査結果との単純な比較はできないが、参考までに比較すると、調査期間における二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.037ppm であり、環境基準値(0.04ppm から 0.06ppm)を下回る。浮遊粒子状物質についても、調査期間における日平均値の最高値は 0.021mg/m³であり、環境基準値（0.10mg/m³）を下回る。

表 1-6(1) 建設機械の稼働に伴う大気汚染の予測結果と事後調査結果との比較:予測時期②

項 目	調査方法	予測結果 (年平均値)	事後調査結果 (期間平均値)
二酸化窒素 (ppm)	公定法	0.0255	0.025
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	公定法	0.0199	0.012

表 1-6(2) 建設機械の稼働に伴う大気汚染の予測結果と事後調査結果との比較:予測時期②

項 目	調査方法	予測結果 (年間 98%値) ^{注)}	事後調査結果 (日平均値の 期間最高値)
二酸化窒素 (ppm)	公定法	0.047	0.037
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	公定法	0.046	0.021

注) 浮遊粒子状物質は 2%除外値を示す。

表 1-7 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る環境基準

項 目	環境基準
二酸化窒素	1時間値の日平均値が0.04ppmから0.06ppmのゾーン内又はそれ以下であること。
浮遊粒子状物質	1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下で、かつ1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。

出典:「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月環境庁告示第38号)
「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月環境庁告示第25号)

事後調査結果

調 査 項 目：騒音・振動

予測した事項：建設機械の稼働に伴う建設作業騒音
建設機械の稼働に伴う建設作業振動

1. 調査地域

調査地域は、建設機械の稼働に伴う建設作業騒音、振動の影響が及ぶと考えられる計画地及び計画地周辺とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

- 1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音
- 2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動

(2) 予測条件の状況

- 1) 建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）

(3) 環境保全のための措置の実施状況

- 1) 建設機械に関する保全のための措置
- 2) 工事用車両に関する保全のための措置

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

- 1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音

建設機械の稼働による騒音・振動が最大となる第二球場の解体工事実施中の令和5年12月20日（水）（予測時期②※：工事着工後11ヶ月目）とした。調査の時間帯は、建設機械の稼働時間及びその前後1時間を含む7時～19時までの12時間とした。

- 2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動

「1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音」と同様とした。

(2) 予測条件の状況

- 1) 建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）

建設機械の稼働による騒音・振動が最大となる第二球場の解体工事実施中の令和5年12月20日（水）（予測時期②※：工事着工後11ヶ月目）とした。調査の時間帯は、建設機械の稼働時間及びその前後1時間を含む7時～19時までの12時間とした。

※ 予測時期②：ラグビー場棟Ⅰ期工事（解体工事を含む）の期間である。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

1) 建設機械に関する保全のための措置

令和5年2月から令和6年11月末までの工事施行中の適時とした。

2) 工事用車両に関する保全のための措置

令和5年2月から令和6年11月末までの工事施行中の適時とした。

2.3 調査地点

(1) 予測した事項

1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音

調査地点は、図2-1に示す敷地境界付近とした。

2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動

「(1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音」と同様とした。

(2) 予測条件の状況

1) 建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）

図2-2に示す計画地内とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

1) 建設機械に関する保全のための措置

図2-1に示す計画地内とした。

2) 工事用車両に関する保全のための措置

図2-1に示す計画地内及び計画地周辺とした。

2.4 調査方法

(1) 予測した事項

1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音

騒音の測定は、環境確保条例施行規則に定める測定方法(JIS Z8731)に準拠した測定を行い、騒音レベルの90%レンジの上端値(L_{A5})で評価を行った。測定高さは、地上1.2mとした。

2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動

振動の測定は、環境確保条例施行規則に定める測定方法(JIS Z8735)に準拠した測定を行い、振動レベルの80%レンジの上端値(L_{10})で評価を行った。測定高さは、地盤面とした。

(2) 予測条件の状況

1) 建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）

現地調査及び関連資料の整理により行った。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

1) 建設機械に関する保全のための措置

現地調査（写真撮影等）及び関連資料（建設作業日報等）の整理により行った。

2) 工事用車両に関する保全のための措置

現地調査（写真撮影等）及び関連資料（建設作業日報等）の整理により行った。



凡 例



計画地



区界



建設作業騒音・振動の調査地点



S=1/12,000

0 100 200 300m



図 2-1 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音・振動の調査地点（予測時期②）【解体時】

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音

建設機械の稼働に伴う騒音の調査結果は、表 2-1 に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う建設作業騒音レベル(L_{A5})は、10時台及び15時台が最大で、64dBであった。

表 2-1 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音レベル(L_{A5})：予測時期②解体時

測定日：令和 5 年 12 月 20 日（水）

測定時間	建設作業騒音レベル(L _{A5}) (dB)	建設機械の 稼働状況
7:00- 8:00	50	準 備
8:00- 9:00	61	・ 解体工事
9:00-10:00	58	
10:00-11:00	64	
11:00-12:00	61	
12:00-13:00	54	昼休み
13:00-14:00	62	・ 解体工事
14:00-15:00	62	
15:00-16:00	64	
16:00-17:00	61	
17:00-18:00	57	後片付け
18:00-19:00	56	

注 1) 太枠は最大値を示す。

注 2) 詳細は資料編 p. 123 参照。

2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動

建設機械の稼働に伴う振動の調査結果は、表 2-2 に示すとおりである。

建設機械の稼働に伴う建設作業振動レベル(L₁₀)は、15 時台が最大で、54dB であった。

表 2-2 建設機械の稼働に伴う建設作業振動レベル(L₁₀)：予測時期②解体時

測定日：令和 5 年 12 月 20 日（水）

測定時間	建設作業振動レベル(L ₁₀) (dB)	建設機械の 稼働状況
7:00- 8:00	28	準 備
8:00- 9:00	43	・ 解体工事
9:00-10:00	50	
10:00-11:00	53	
11:00-12:00	49	
12:00-13:00	33	昼休み
13:00-14:00	50	・ 解体工事
14:00-15:00	51	
15:00-16:00	54	
16:00-17:00	47	
17:00-18:00	36	後片付け
18:00-19:00	35	

注 1) 太枠は最大値を示す。

注 2) 詳細は資料編 p. 124 参照。

(2) 予測条件の状況

1) 建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）

建設機械の稼働状況は、表 2-3 及び図 2-2 に示すとおりである。

予測時期②の解体時の令和 5 年 12 月 20 日（水）においては、バックホウ 27 台、油圧破碎機 25 台、クローラークレーン 2 台、発電機 1 台の合計 55 台が稼働する状態を想定していたが、事後調査時には、想定より解体作業に建設機械の台数を要さなかったこと等により、予測条件よりも稼働台数が下回り、発電機 1 台、バックホウ 6 台の合計 7 台が稼働していた。

表 2-3 建設機械の稼働状況：予測時期②解体時（調査日：令和 5 年 12 月 20 日（水））

種 類	予測時の台数	事後調査時の台数		時 間															
				7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19			
バックホウ（0.1m ³ ）	3	—			←→					←→									
バックホウ（0.45m ³ ）	12	—			←→					←→									
バックホウ（0.7m ³ ）	—	4	超低		←→					←→									
バックホウ（0.8m ³ ）	12	—			←→					←→									
バックホウ（1.2m ³ ）	—	1	低		←→					←→									
バックホウ（1.6m ³ ）	—	1	低		←→					←→									
油圧破碎機（大型）	10	—			←→					←→									
油圧破碎機（中型）	10	—			←→					←→									
油圧破碎機（小型）	5	—			←→					←→									
クローラークレーン（50t）	2	—			←→					←→									
発電機	1	1	超低		←→					←→									
合 計	55	7																	

注 1) ←→ は、建設作業時間帯を示す。

注 2) 低：低騒音型、超低：超低騒音型の建設機械を示す。



凡 例

- 計画地
- 区界
- 仮囲い

- バックハウ (0.7m³)
- ◎ バックハウ (1.2m³)
- バックハウ (1.6m³)
- ★ 発電機



図 2-2 建設機械の稼働状況 (予測時期②: 令和 5 年 12 月 20 日 (水))

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表2-4、2-5に示すとおりである。

なお、令和5年2月から令和6年11月末までの間に騒音・振動に関する苦情は寄せられなかった。

表 2-4 騒音・振動に係る環境保全のための措置の実施状況(建設機械)

環境保全のための措置	実施状況
仮囲い(高さ 3.0m)を設置する。	工事区域内には、仮囲い（高さ3.0m）を設置し、周辺への騒音の影響の低減に努めた。（写真2-1）
低騒音型建設機械を採用する。	建設機械の稼働にあたっては、工事期間を通して、超低騒音・低騒音型の建設機械の採用に努めた。（写真2-2、2-3）
建設機械の集中稼働を行わないよう、建設機械の分散稼働に努める。	工事用車両(主にダンプトラック等)の総量を調整することにより、それらに連動する建設機械(バックホウ等)についても集中稼働しないよう調整した。
建設機械のアイドリングストップを厳守するよう徹底する。	アイドリングストップの徹底について、現場内に掲示を行うとともに、朝礼等の場で作業員に指導を行った（写真2-4）。
作業時間及び作業手順は、周辺に著しい影響を及ぼさないように、事前に工事工程を十分検討する。	工事に際しては、事前に施工計画の詳細検討を行い、その結果を工事作業計画に反映させ、周辺への影響の低減に努めた。

表 2-5 騒音・振動に係る環境保全のための措置の実施状況(工事用車両)

環境保全のための措置	実施状況
規制速度を遵守する。	工事用車両の走行に際しては、規制速度を遵守するよう、新規入場教育時、作業打合せ、朝礼、昼礼時に作業員に指導を行った。
資材の搬出入に際しては、走行ルートの限定、安全走行等により、騒音及び振動の低減に努める。	工事用車両については走行ルートを限定するとともに、安全走行について指導を行い、騒音及び振動の低減に努めた。
アイドリングストップ等の実施を周知・徹底する。	アイドリングストップの徹底について、運転者に指導を行った。
工事用車両が一時的に集中しないよう、工事工程の平準化に努める。	1日あたりのコンクリート塊の搬出量を平準化し搬出することにより、工事用車両台数の平準化に努めた。



写真 2-1 仮囲い（高さ 3.0m）の設置状況



写真 2-2 超低騒音型建設機械の使用状況（バックハウ）



写真 2-3 低騒音型建設機械の使用状況（バックハウ）

撮影日：令和6年4月10日



写真 2-4 アイドリングストップ等の掲示の状況

3.2 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音

建設機械の稼働に伴う騒音の予測結果と事後調査結果との比較は、表 2-6 に示すとおりである。

建設作業騒音レベル (L_{A5}) の事後調査結果は最大で 64dB であり、予測結果の 77dB を下回った。また、事後調査結果は、環境確保条例による「指定建設作業に適用する騒音の勧告基準」(85dB 以下)を下回った。

予測結果を下回った理由としては、想定より解体作業に建設機械の台数を要さなかったこと等により、予測条件よりも稼働台数が下回ったことや、工事期間を通して、超低騒音型・低騒音型の建設機械の採用に努めたこと等が考えられる。

なお、工事に際しては、1 日あたりのコンクリート塊の搬出量を平準化することにより、建設機械（バックホウ等）についても集中稼働しないよう調整する等、騒音の低減に努めた。

表 2-6 予測結果と事後調査結果との比較（予測時期②解体時）

項 目	建設作業騒音レベル (L_{A5})		勧告基準 (dB)
	予測結果 (dB)	事後調査結果 (dB)	
騒音レベル最大値 (L_{A5})	77	64	85 以下

注) 予測結果は評価書の予測結果である。

2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動

建設機械の稼働に伴う振動の予測結果と事後調査結果との比較は、表 2-7 に示すとおりである。

建設作業振動レベル (L_{10}) の事後調査結果は最大で 54dB であり、予測結果の 53dB と同程度であった。また、事後調査結果は、環境確保条例による「指定建設作業に適用する振動の勧告基準」(75dB 以下)を下回った。

なお、工事に際しては、1 日あたりのコンクリート塊の搬出量を平準化することにより、建設機械（バックホウ等）についても集中稼働しないよう調整する等、振動の低減に努めた。

表 2-7 予測結果と事後調査結果との比較（予測時期②解体時）

項 目	建設作業振動レベル (L_{10})		勧告基準 (dB)
	予測結果 (dB)	事後調査結果 (dB)	
振動レベル最大値 (L_{10})	53	54	75 以下

注) 予測結果は評価書の予測結果である。

事後調査の結果

調 査 項 目：土壌汚染

調査した事項：汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度

1. 調査地域

計画地内とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

1) 汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事等の状況（掘削工事の実施状況）

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

1) 汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度
令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの期間とした。

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事の状況
令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの期間とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの工事の施行中の随時とした。

2.3 調査地点

- (1) 予測した事項
 - 1) 汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度
計画地内とした。
- (2) 予測条件の状況
 - 1) 掘削工事の状況
計画地内とした。
- (3) 環境保全のための措置の実施状況
計画地内とした。

2.4 調査方法

- (1) 予測した事項
 - 1) 汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度
関連資料の整理による方法とした。
- (2) 予測条件の状況
 - 1) 掘削工事の状況
関連資料の整理による方法とした。
- (3) 環境保全のための措置の実施状況
関連資料の整理による方法とした。

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

1) 汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場において、土壌汚染対策法第4条及び環境確保条例第117条に基づく土壌汚染調査を行った結果、図3-1に示すオレンジ色の区画において鉛（含有量）による土壌汚染が見つかった。基準値の超過の状況は、表3-1に示すとおりである。

本調査結果をもとに、汚染が認められた区画について土壌汚染対策法第14条に基づく指定の申請を行い、令和4年2月16日に土壌汚染対策法に基づく「形質変更時要届出区域」（指定番号：指-1284号）に指定された（東京都告示第164号）。

このうち、一部の区域（C4-7）については土壌汚染対策工事（掘削除去：掘削土量185.88m³）の実施が完了しており、その区域については令和6年4月19日に「形質変更時要届出区域」の指定が解除された（東京都告示第573号）。なお、他の区域については今後、土壌汚染対策法第12条（形質変更時届出区域内における土地の形質の変更）及び第16条（汚染土壌の区域外搬出）に基づく届出を行った上で土壌汚染対策工事を行う予定である。

表3-1 土壌汚染の状況

区画	鉛（含有量）	
	調査結果	基準値
F3-2	170 mg/kg	150 mg/kg
H4-4	210 mg/kg	
G4-9	180 mg/kg	
C4-7	270 mg/kg	

表3-2 「土壌汚染対策法」による「形質変更時要届出区域」の指定及び解除の状況

区域区分	形質変更時要届出区域 ^{注1)}			特定有害物質の種類 ^{注2)}
	指定年月日	解除年月日	指定番号	
F3-2、H4-4、G4-9、C4-7	令和4年2月16日	一部解除（C4-7）：令和6年4月19日	指-1284号	鉛（含有量）

注1) 詳細は都の「土壌汚染情報の公開」を閲覧することにより確認できる。（閲覧場所等は都のホームページ（<https://www.dojou.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/SoilPollution/Search/Home/Top#>））

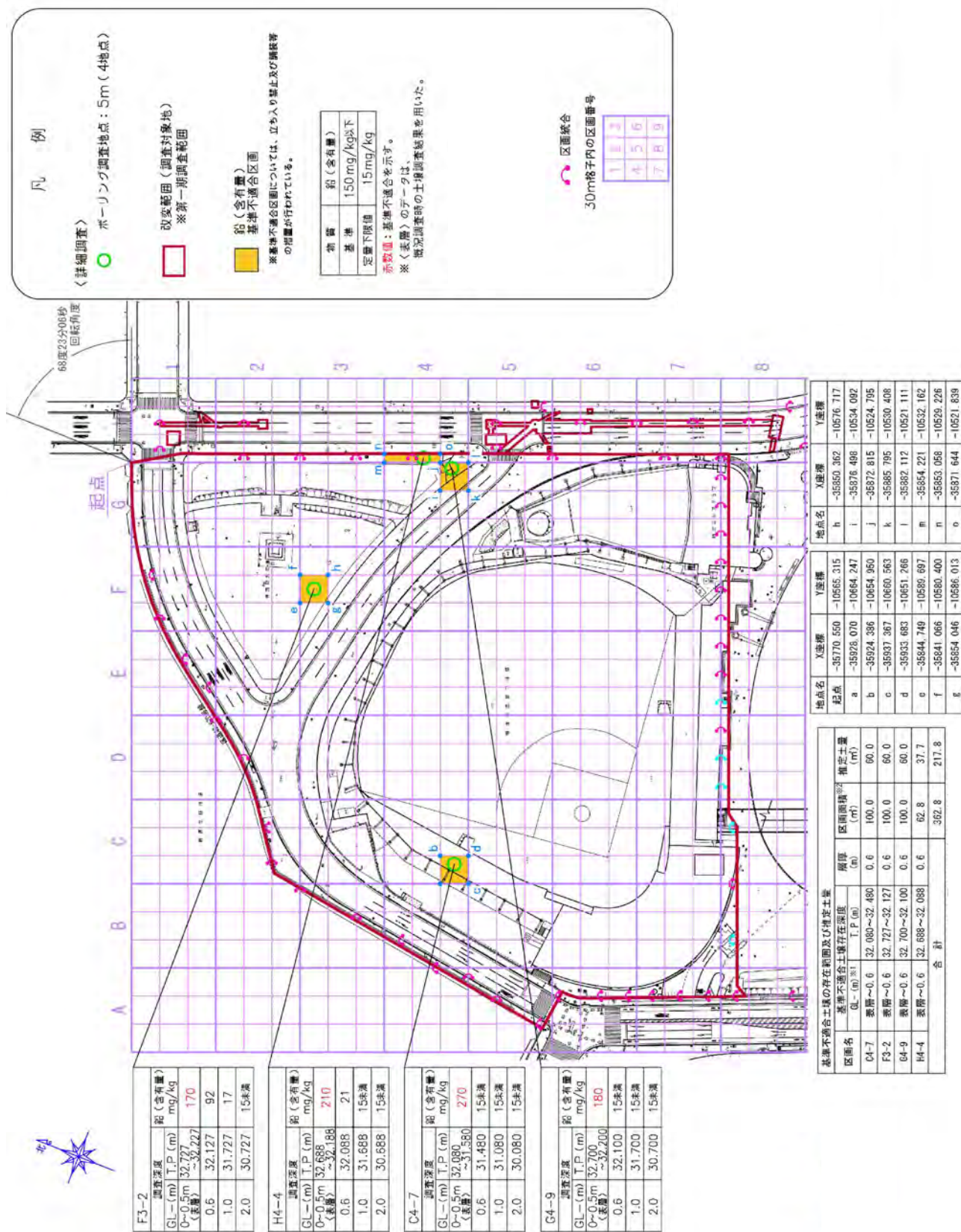


図 3-1 土壌汚染調査結果（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場）

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事の状況

現時点では建設工事（新築工事）には着手しておらず、建設工事に伴う掘削は行っていない。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 3-2 に示すとおりである。

令和 5 年 2 月から令和 6 年 11 月末までの間に、土壌汚染に関する苦情はなかった。

表3-2 土壌汚染に係る環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置	実施状況
土壌汚染対策法第 4 条及び環境確保条例第 117 条に基づく手続き、調査を実施する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場において、土壌汚染対策法第 4 条及び環境確保条例第 117 条に基づく土壌汚染調査を行い汚染状況を確認した。
土壌汚染状況調査の結果、汚染土壌の存在が確認された場合には、「土壌汚染対策法」及び「環境確保条例」に基づき「汚染拡散防止計画書」を作成し、関係機関と調整を行ったうえで汚染拡散防止措置を実施するとともに、その内容を事後調査において明らかにする。	土壌汚染が見つかった区画のうち、一部の区画（C4-7）については、土壌汚染対策法及び環境確保条例に基づき「汚染拡散防止計画書」を作成し、関係機関と調整を行ったうえで土壌汚染対策（掘削除去）を実施した。 その区域については令和 6 年 4 月 19 日に「形質変更時要届出区域」の指定が解除された（東京都告示第 573 号）。

3.2 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

1) 汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場において、土壌汚染対策法第4条及び環境確保条例第117条に基づく土壌汚染調査を行った結果、鉛（含有量）による土壌汚染が見つかった。

土壌汚染が見つかった区画のうち、一部の区画（C4-7）については、土壌汚染対策法及び環境確保条例に基づき「汚染拡散防止計画書」を作成し、関係機関と調整を行ったうえで土壌汚染対策（掘削除去）を実施した。その区域については令和6年4月19日に「形質変更時要届出区域」の指定が解除された（東京都告示第573号）。

その他の区画については、今後の工事の施行中の事後調査報告書において適宜報告していく予定である。

事後調査の結果

調 査 項 目：生物・生態系

予測した事項：植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））

1. 調査地域

調査地域は、既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況については計画地内とし、いちょう並木の保全状況（4列）については計画地内及び計画地周辺とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

- 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））

(2) 予測条件の状況

- 1) 緑地の保全状況
- 2) 計画地内の緑化の状況
- 3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況
- 4) 計画地周辺の緑地の分布状況

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

- 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））

既存樹木の状況については、令和6年6月上旬～令和7年2月下旬の期間とした。神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況については、令和6年5月上旬～令和6年11月下旬の期間とした。いちょう並木の保全状況（4列）については、令和6年5月上旬～令和6年11月下旬の期間とし、そのうち活力度の状況は令和6年5月、7月、10月とした。

(2) 予測条件の状況

- 1) 緑地の保全状況

「(1)予測した事項 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））」と同様とした。

- 2) 計画地内の緑化の状況

「(1)予測した事項 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））」と同様とした。

3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況

「(1) 予測した事項 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちよう並木の保全状況（4 列))」と同様とした。

4) 計画地周辺の緑地の分布状況

「(1) 予測した事項 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちよう並木の保全状況（4 列))」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

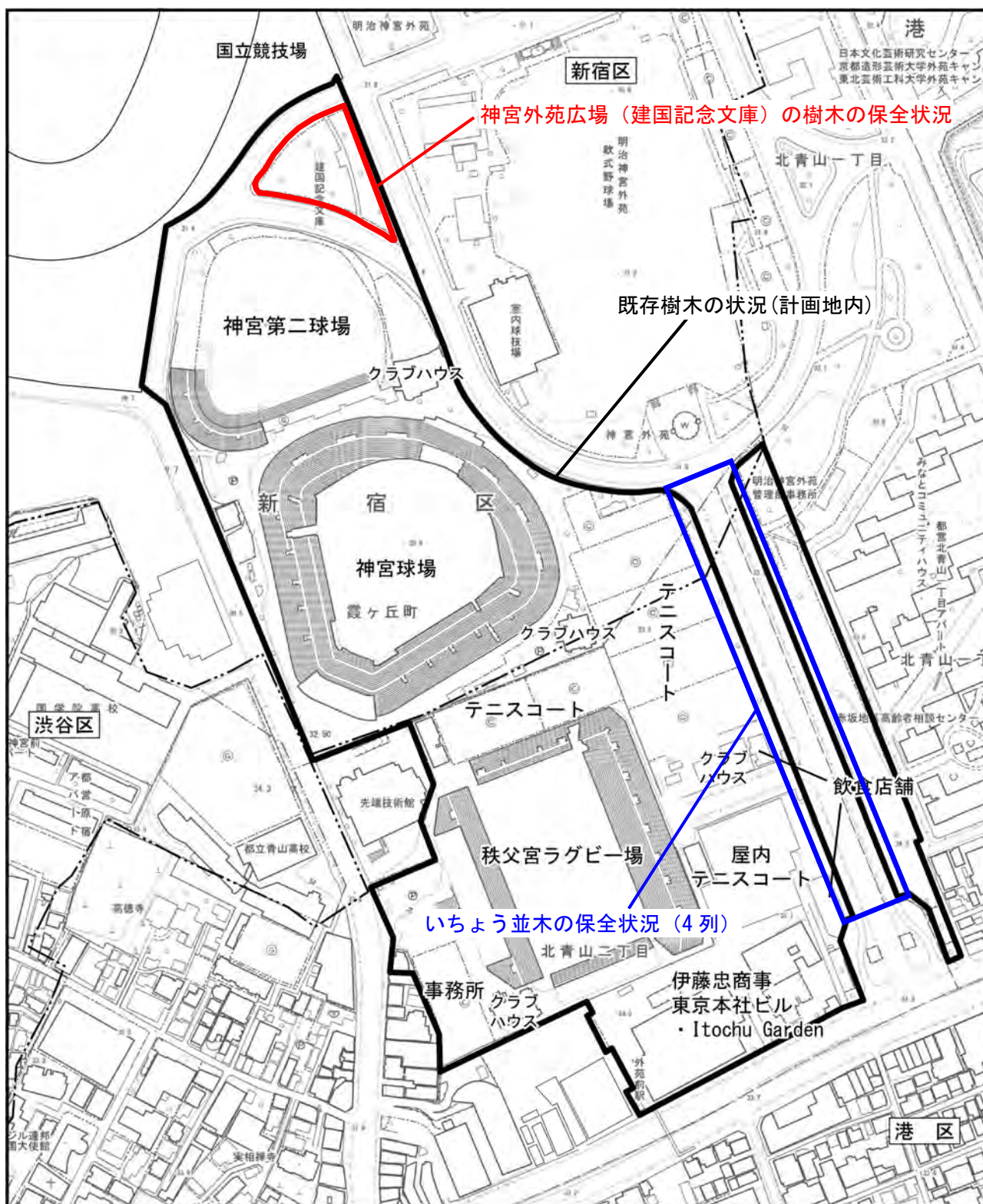
「(1) 予測した事項 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度(既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちよう並木の保全状況（4 列))」と同様の期間とし、工事施行中の随時とした。

2.3 調査地点

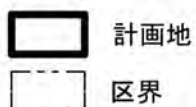
(1) 予測した事項

- 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちよう並木の保全状況（4 列））

調査地点は、図 4-1 に示したとおりである。



凡 例



S = 1 / 4,000

0 40 80 120m

図 4-1 調査地点

(2) 予測条件の状況

- 1) 緑地の保全状況
計画地内とした。
- 2) 計画地内の緑化の状況
計画地内とした。
- 3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況
計画地内とした。
- 4) 計画地周辺の緑地の分布状況
計画地周辺とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

計画地内及び計画地周辺とした。

2.4 調査方法

(1) 予測した事項

1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

ア. 既存樹木の状況

現地調査（写真撮影等）及び関連資料により、既存樹木（移植木を含む）の本数、養生の状況を整理する方法とした。また、秩父宮ラグビー場東側の港区道等のイチョウの移植検討のための調査方法及び調査結果を整理する方法とした。

イ. 神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

現地調査（写真撮影等）及び関連資料により、樹木の保全状況を整理する方法とした。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアの拡大のための計画建築物（ラグビー場棟）の設計等の配慮事項及び圧迫感の低減措置については、変更届（令和6年9月）で報告した内容を整理する方法とした。

ウ. いちょう並木の保全状況（4列）

いちょう並木の活力度の状況については、科学技術庁資源調査会の基準等による活力度調査によった。調査にあたっては、活力度の状況を詳細に把握するため、いちょう並木の景観を維持するために剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とする方法によった。また、それらの結果を反映した保育管理の状況について、関連資料の整理による方法とした。

なお、計画建築物（野球場棟）の設計及び施工計画等（地下構造物、ネット及びフェンス等を含む）への配慮事項の検討状況については、今後、野球場棟の詳細な形状について決定した時期に報告する。また、いちょうの根系保全範囲を縁石から約17mに設定することに伴い、野球場棟や文化交流施設棟の着工の約1年前に、約17mの位置での根の状況を手掘りにて確認し、事後調査報告書において報告する。

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

2) 計画地内の緑化の状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

4) 計画地周辺の緑地の分布状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施設計画、施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

- 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））

ア. 既存樹木の状況

計画地全体の既存樹木の状況については、下記の(ア)～(エ)に示すとおりである。なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び4列いちょう並木の状況については、「イ. 神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況」「ウ. いちょう並木の保全状況（4列）」に記載のとおりである。

(ア) 既存樹木の本数

既存樹木の本数については、表 4-1 に示すとおりである。また、保存、移植、伐採樹木の分布状況は、図 4-2 に示すとおりである。

既存樹木の本数については、変更届（令和 6 年 9 月）時点においては存置が 616 本、移植が 193 本、移植検討が 19 本、伐採が 511 本であったが、令和 6 年 9 月以降、枯損等（立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）が 5 本増加したことに伴い（資料編 p. 125 参照）、存置が 615 本、移植が 193 本、移植検討が 19 本、伐採が 507 本となった。なお、評価書時点以降、枯損等が 47 本となり、これらを合計すると 1,381 本である。

このうち、ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。

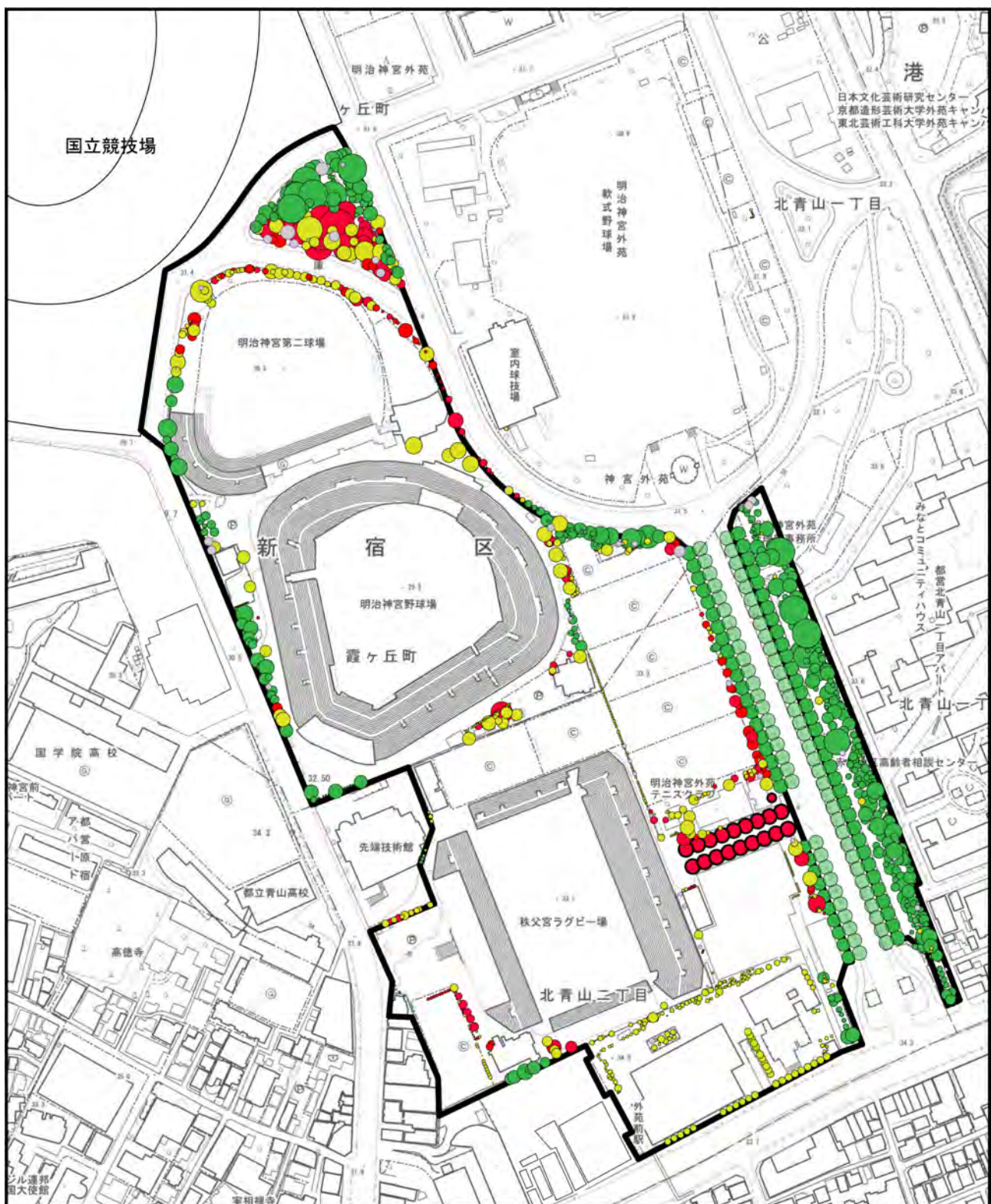
表 4-1 既存樹木の本数

本数	存置	移植	移植検討	伐採	枯損等	合計
変更届 (令和 6 年 9 月)	616 本	193 本	19 本	511 本	42 本	1,381 本
事後調査結果	615 本	193 本	19 本	507 本	47 本	1,381 本

(イ) 保全管理の状況及び保全管理方針

樹勢が弱っている樹木に対しては、施肥を実施するとともに、病虫害防除策（キクイムシ侵入防除策）を実施している（写真 4-1、4-2 参照）。

今後も保全管理方針として、樹勢が弱っている樹木に対して施肥の実施、定期巡回による病虫害被害状況を確認するとともに、病虫害防除策の実施、定期剪定による樹木の生育環境の保全を実施する予定である。



凡 例



計画地

● 保存樹木

● 移植樹木

● 伐採樹木

● 枯損等



S=1/4,000

0 40 80 120m

注1) 計画については今後変更の可能性がある。

注2) 太線の丸で示す樹木(既存区道のイチョウ)は移植を検討している樹木である。

図 4-2 保存、移植、伐採樹木の分布状況



写真 4-1 施肥の状況



写真 4-2 病虫害防除策
(キクイムシ侵入防除策) の状況

(ウ) 秩父宮ラグビー場東側の港区道等のイチョウの移植検討のための調査概要

ア) 目的

秩父宮ラグビー場東側に所在する港区道等のイチョウ（19 本）^{注）}は、環境影響評価書において「移植を検討する樹木」として位置づけており、新球場の工事着手前までに野球場棟北側エリアに移植することを想定している。

他の移植予定樹木と異なり、歩道上に植栽されており植栽樹が小さく、根系域が限定されていることから、移植に向けて適正な根鉢を確保するために、樹木医等専門家の立ち会いのもと下記に示す調査を継続的に実施する。

イ) 調査概要

移植を検討するにあたり、まずイチョウ 2 本に対し、樹木医等専門家の立会いのもと、根や土壌の現況を確認した上で、樹木周囲の一部の根回しと樹勢助長措置を試験的に実施する。その後数年にわたり、維持管理と継続調査により根回しや樹勢助長措置の効果を検証した上で、残りの 17 本を含む 19 本に対して最適な樹勢助長措置を実施し、さらに全 19 本を対象に維持管理と継続調査を行い、その結果を踏まえて移植を検討する。



ウ) 調査時期

2025 年 2 月～

注) 港区道イチョウ 18 本及び港区道北側神宮外苑敷地内イチョウ 1 本、合計 19 本

エ) 先行調査対象樹木（2本）

樹木匠等専門家の意見を参考に、また通行の妨げにならないよう配慮した上で、北側と南側で環境が異なる2本を対象とした。



図 4-5 調査対象位置図

カ) 調査方法・措置

①根や土壌の現況確認

舗装・砕石を撤去し、歩道や車道に伸びている根や土壌の状況、一部舗装下の根系の密度や伸長状況を調査した。

②樹木周囲の一部の根回し

根回しを実施した場合の効果（根の発根状況等）を測定するため、歩道側の太根の一部を環状剥皮し、樹木周囲の一部について根回しを実施した。

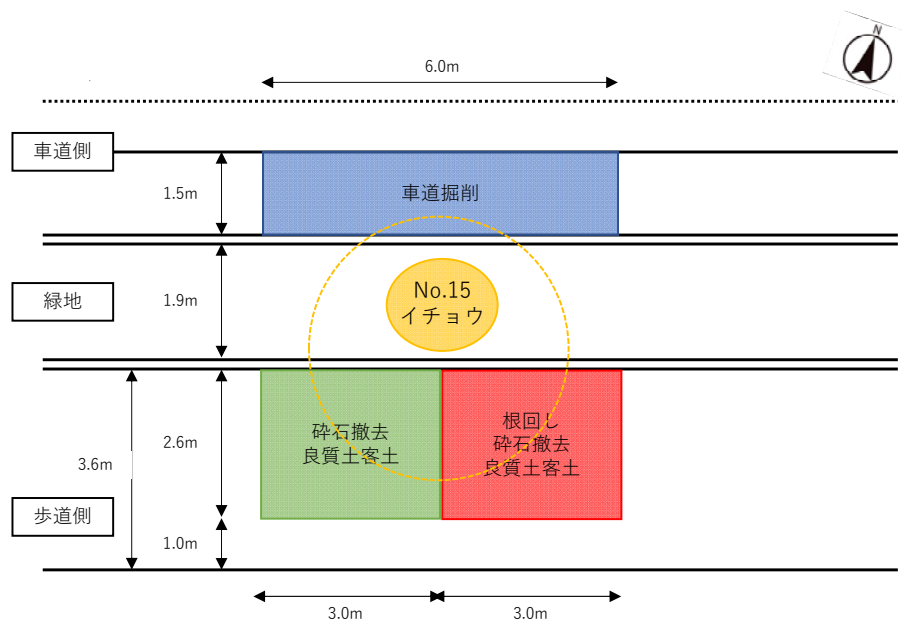


図 4-6 措置の範囲図 (No. 15 イチョウ)

③樹勢助長措置

歩道側の碎石中に伸長していると想定される根の環境を改善し、根の発根や伸長を促すため、根を残しながら碎石を人力またはエアースコップ等で撤去し、良質土に入れ替えた上で、稲藁マルチングを敷設した。また、イチョウへの水分供給を改善するため、調査範囲のヘデラ・下草は除去した。

④維持管理・継続調査

②と③の効果を検証するため、発根調査、外観診断、デンドロメーターによる幹周変化の比較等を実施する。

表 4-2 調査及び調査後の処置等のスケジュール

対象 2 本 (今回調査)	(1) 根や土壌の現況確認、樹木周囲一部の根回し、樹勢助長措置 (2) 効果検証のための維持管理・継続調査
対象 19 本	(3) 根や土壌の現況確認、樹勢助長措置 (4) 効果検証のための維持管理・継続調査 (5) 移植の検討

か) 調査の結果

令和7年2月に調査を行った。根系の状況は資料写真4-3～4-4に示すとおりである。

歩道側においては歩道面から約20cm下、車道側においては車道面から約20cm下まで掘削し、調査したところ、(関東地方に広く分布する)ローム層であったことから、樹木の生育に適した土壌であった。また、歩道側・車道側ともに舗装面の下部の地山には良好な根系が発達しており、いちょうの生育は良好である。

また、調査と合わせてイチョウの一部について、根回しと樹勢助長措置も実施した。根回しに伴う環状剥皮(No.15:4本、No.22:5本)の状況は写真4-5、調査樹木保全の状況は写真4-6に示すとおりである。

樹勢助長措置は、主に歩道側の舗装・碎石を撤去し良質土への入れ替えを行った。

引き続き効果検証のための維持管理及び継続調査を実施していく。



(歩道側)



(車道側)

写真 4-3 根系の状況 (樹木 No. 15 (南側列))



(歩道側)



(車道側)

写真 4-4 根系の状況 (樹木 No. 22 (北側列))

港区道イチョウNo.15



港区道イチョウNo.22



写真 4-5 環状剥皮の状況 注)○は環状剥皮箇所を示す。



写真 4-6 調査樹木保全の状況（樹木 No. 15（南側列））

イ. 神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場の移植樹木については、移植に向けて根回しや養生を行っており、その状況は事後調査報告書（工事の施行中その 1 及びその 2）において報告を行った。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木については、対象樹木の移植、伐採作業に着手するとともに、移植が未実施の樹木については養生を行っている。

移植木の養生の状況については、事後調査報告書（工事の施行中その 2）で報告したとおり、根鉢上に稲藁にてマルチングを行うとともに、灌水を週 2 回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草及び病害防除対策を適宜実施している。なお、移植未実施の樹木について、枯損しているものはない。

樹木については日常管理として、巡回を毎日実施するとともに、枝葉の剪定や、枯枝除去を行っている。

また、これらの作業のため、神宮外苑広場（建国記念文庫）へ仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。

なお、保全エリアの拡大の状況については、変更届（令和 6 年 9 月）で報告したとおり、ラグビー場棟を計画変更することにより、神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全する樹木本数やエリアを増やすとともに、生育環境を良化する計画とした。

ウ. いちよう並木の保全状況（4 列）

4 列いちよう並木の活力度調査の結果は、表 4-3 及び図 4-7 に示すとおりである。

4 列いちよう並木の活力度調査は、事後調査計画では工事の施行中の毎年 6 月頃に調査を実施する予定であるが、令和 6 年については令和 5 年と同様に事後調査計画の調査回数を変更し、春（5 月）、夏（7 月）、秋（10 月）の 3 回調査を実施した。活力度の状況を詳細に把握するため、いちよう並木の景観を維持する目的で剪定により樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とした。

4 列いちよう並木の活力度は、令和 6 年 5 月時点では活力度 A（正常なもの）が 74 本、活力度 B（普通、正常に近い）が 53 本、活力度 C（悪化のかなり進んだもの）が 1 本、活力度 D（顕著に悪化の進んでいるもの）が 0 本であった。令和 6 年 7 月時点では活力度 A が 74 本、活力度 B が 50 本、活力度 C が 4 本、活力度 D が 0 本であった。令和 6 年 10 月時点では活力度 A が 75 本、活力度 B が 49 本、活力度 C が 4 本、活力度 D が 0 本であった。

春季、夏季、秋季ともに、4 列のいちよう並木のうち東側 2 列は活力度 A または B である。西から 2 列目については概ね活力度 A または B であるが、西から 1 列目の一部で活力度 C が出現している（図 4-7 参照）。

上記の活力度 C となっているいちようは、令和 5 年の活力度調査で活力度 C または D と診断されたいちようであり、「工事の施行中その 2」において報告したとおり、検査機関に照会した結果、病虫害ではないことが確認されている。

また、「工事の施行中その 2」で報告したとおり、活力度の低下したいちように対しては、いちよう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施するとともに、4 列いちよう並木西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、

下記に示す樹勢回復措置を継続実施中である。

- ・ 稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
- ・ 自動灌水装置の設置（4列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）

さらに、土壌水分の測定や成長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果の確認のため幹周を測定する観測装置（デンドロメーター）を設置し、定期的にモニタリングを実施している。

なお、下記に示す樹勢回復措置を実施済みである。

- ・ ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
- ・ 埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
- ・ 4列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

表 4-3 4列いちょう並木の活力度調査結果

活力度	A	B	C	D	合計
事後調査結果 (令和6年5月時点)	74本	53本	1本	0本	128本
事後調査結果 (令和6年7月時点)	74本	50本	4本	0本	128本
事後調査結果 (令和6年10月時点)	75本	49本	4本	0本	128本



写真 4-7 施肥（液体肥料）の実施状況

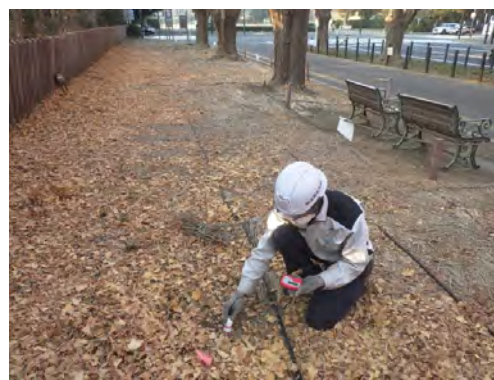
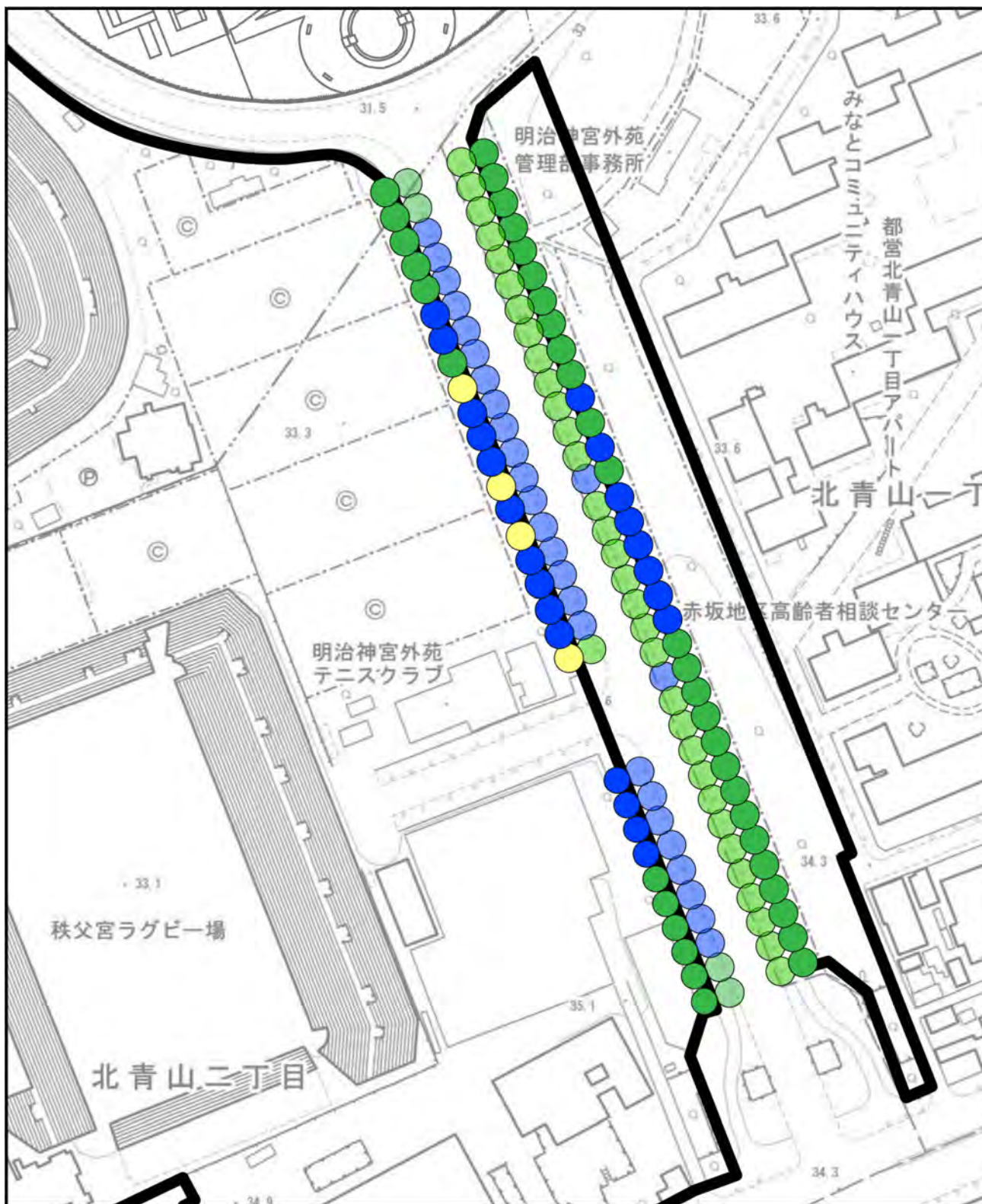


写真 4-8 土壌水分の測定状況



凡 例



計画地

● 活力度A

● 活力度B

● 活力度C

N



S=1/2,000

0 20 40 60m

注1) 4列いちょう並木及び既存区道のイチョウは令和6年10月時点の調査結果である。

注2) 計画地外のイチョウは薄い色で示している。

図4-7 4列いちょう並木の活力度調査結果

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況

計画地内の保存する樹木（存置樹木及び移植樹木）については日常管理として、巡回を毎日実施するとともに、通行等に支障をきたす恐れのある枝葉の剪定や、枯枝除去を行っている。また、樹勢が弱っている樹木に対しては、施肥を実施するとともに、病虫害防除策（キクイムシ侵入防除策）を実施している。

ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手するとともに、移植が未実施の樹木については養生を行っている。また、これらの作業や神宮第二球場の解体のため神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場については仮囲いを設置し（図 4-9 参照）、閉鎖管理を行っている。

養生の状況については、根鉢上に稲藁にてマルチング、養生を行うとともに、灌水を週 2 回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草を適宜実施している。

上記以外の緑地については評価書時点と変わっておらず、保全されている（図 4-8 参照）。

また、「工事の施行中その 2」で報告したとおり、活力度の低下したいちょうに対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施するとともに、4 列いちょう並木西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、下記に示す樹勢回復措置を継続実施中である。

- ・稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
- ・自動灌水装置の設置（4 列いちょう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）

また、事後調査報告書（工事の施行中その 2）において報告したとおり、下記に示す樹勢回復措置を実施済みである。

- ・ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
- ・埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
- ・4 列いちょう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

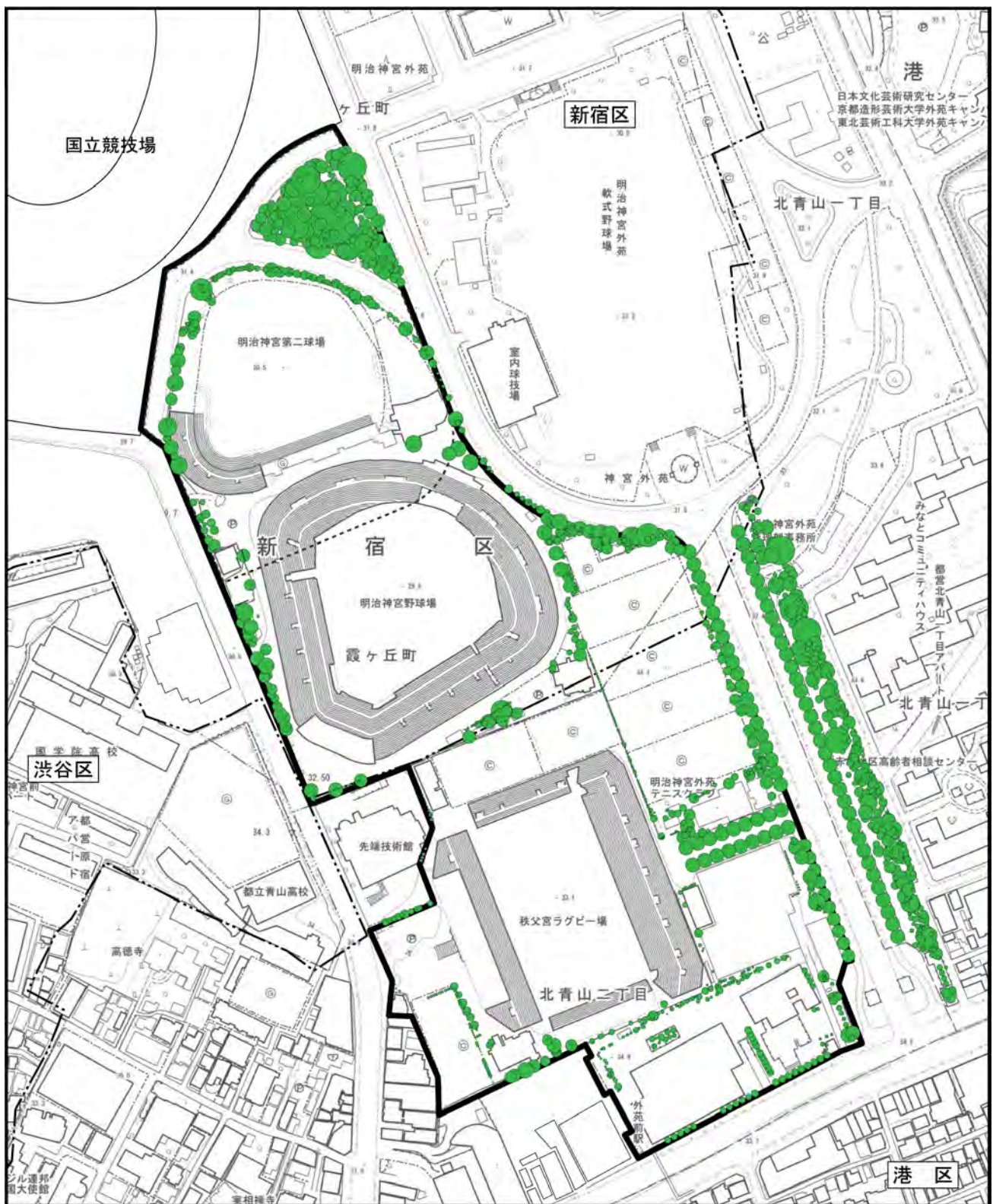


図 4-8 緑地の分布状況



図 4-9 仮囲いの設置範囲（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺）

2) 計画地内の緑化の状況

計画地内の現状の緑化の状況について、「1）緑地の保全状況」に記載のとおり、ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手するとともに、移植が未実施の樹木については養生を行っている。また、これらの作業のため神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場については仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。

3) 文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの整備状況

新たに創出する文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りの緑地について、現時点では整備に着手していない。

4) 計画地周辺の緑地の分布状況

計画地周辺の緑地の分布状況について、評価書時点からの変更はない。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 4-4 に示すとおりである。

表 4-4(1) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
(計画地全般に関する保全措置について)

環境保全のための措置		実施状況
今後詳細な設計を実施するにあたり、存置する既存樹木の生育に影響が及ばないように、既存樹木の根鉢と計画建物の地下躯体との離隔を保持する等、計画建物の配置等に配慮する。		ラグビー場棟については変更届（令和6年9月）で報告したとおり、北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らした。 また、4 列のいちよう並木の西側1 列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書においては約8m としていたが、根系調査結果を踏まえ、いちようの根系保全範囲は縁石から約17mとし、約17m未満の位置に存在する根については全て切断せずに保護する方針とした。
計画地中央部に開放的な広場空間を整備し、その周辺の文化交流施設棟やラグビー場棟等も含め歩行者動線とも連携して芝生や高木等を配置するとともに、動植物の生息にも配慮した植栽計画とする。		計画地中央部に整備予定の広場空間や、その周辺の歩行者動線については工事に着手していない。
計画・設計に関する事項	今後、設計に際しては、樹木保全への配慮を施設設計仕様に盛り込むことや、詳細設計の前倒し等により文化交流施設棟などにおける隅切りや外形線の変更などの建物の形状、新たな緑地を創出する文化交流施設棟の設計などの工夫を行う。	変更届（令和6年9月）で報告したとおり、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らした。 また、4 列のいちよう並木の西側1 列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書においては約8m としていたが、根系調査結果を踏まえ、いちようの根系保全範囲は縁石から約17mとし、約17m未満の位置に存在する根については全て切断せずに保護する方針とした。 それ以外の施設については、今後詳細設計を実施する予定である。
	保存する既存のまとまりのある緑について、緑地（並木東側）については改変を行わない。また、神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアの拡大について、施設設計の深度化と併せて継続的に検討し、可能な限り保全エリアを拡大するとともに、ラグビー場の配置、構造等の詳細設計において生物・生態系への影響を回避・最小化する措置について具体的な内容を検討する。	緑地（並木東側）については改変を行っていない。 ラグビー場棟については変更届（令和6年9月）で報告したとおり、北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らした。 また、ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日照時間を増やし、樹木の生育環境を良化する計画とした。

表 4-4(2) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況

(計画地全般に関する保全措置について)

	環境保全のための措置	実施状況
計画・設計に関する事項	各施設の設計及び施工計画の詳細を決定していく中で、施工方法の工夫や樹木の保全に配慮した仕様とする。	ラグビー場棟については変更届（令和6年9月）で報告したとおり、北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らした。 また、ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日照時間を増やし、樹木の生育環境を良化する計画とした。 4 列のいちよう並木の西側1 列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書においては約8m としていたが、根系調査結果を踏まえ、いちようの根系保全範囲は縁石から約17mとし、約17m未満の位置に存在する根については全て切断せずに保護する方針とした。 なお、施工に関する樹木の保全への配慮事項については、今後詳細を検討する予定である。
	詳細調査の結果、樹木の生育状況や周辺状況などを現地にてきめ細かく把握したうえで、樹木匠が総合的に判断し、85 本の樹木については伐採から移植とする。	樹木の移植に備え、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植予定樹木について根回しを行うとともに、継続して養生を実施している。また、移植計画を策定し、事後調査報告書（工事の施行中その2）で報告を行った。
	存置、移植の本数に加え、さらに 439 本の樹木を新植する計画である（詳細調査の結果反映後）。新植樹木については、植栽時の樹高は 3m～8m 程度とし、カシ、ケヤキ、サクラ、アオダモやモミジ類などに加え、神宮外苑の特徴ある樹種でもあるヒトツバタゴなどの樹種も取り入れる計画とする。	新植樹木も含めて樹種及び緑化計画の詳細設計を行っている。
	計画地内で確認された注目される植物種として、トサミズキ、ヒトツバタゴ、コムラサキ、シランが確認されている。4 種共に人為的に植栽しているものであり、このうちトサミズキ、コムラサキ及びシランについては緑地（並木東側）などに確認されており、計画建築物が建設される箇所では確認されていないことから、現位置で保全する計画であるが、今後、詳細な施工計画を決定する中で改変することとなった場合は移植する計画である。ヒトツバタゴについては計画建築物が建設される箇所の一部確認されているが、別の場所に継続して植栽を行うか、今後の緑化計画において検討する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植により保全するヒトツバタゴ13本については根回しを実施済みであり、移植に向けた養生を行っている。 また、緑地（並木東側）など、トサミズキ、コムラサキ、シランが確認されている箇所については改変は行っていない。

表 4-4(3) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況

(計画地全般に関する保全措置について)

環境保全のための措置		実施状況
計画・設計に関する事項	計画地中央部の広場空間と連続する文化交流施設棟及びラグビー場棟南側の緑地については、文化交流施設棟の高さを抑えることにより、日照の確保及び緑の生育促進に努める。	文化交流施設棟については評価書に記載のとおり高さ約6mで計画しており、高さを抑えることにより、日照の確保及び緑の生育促進に努める計画である。
	植栽樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を行う。	樹種も含めて緑化計画の詳細設計を行っている。
施工に関する事項	施工に際しては、樹木医・設計者・施工者が一体となり設計及び施工計画の深度化を進める中で、樹木の伐採を回避し、保全を図る。保全が困難な場合には、可能な限り移植できるように努める。	ラグビー場棟については変更届（令和6年9月）で報告したとおり、北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らした。 4列のいちよう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書においては約8mとしていたが、根系調査結果を踏まえ、いちようの根系保全範囲は縁石から約17mとし、約17m未満の位置に存在する根については全て切断せずに保護する方針とした。 なお、施工に関する樹木の保全への配慮事項については、今後詳細を検討する予定である。
	工事の施行にあたっては存置樹木を傷つけないように、存置樹木近くに重機を通さないよう工事ヤードを設定するとともに、重機作業員に対して十分な離隔を確保するよう要請する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の既存樹木については、工事エリアに仮囲いを設置しており、立ち入りによる踏み固めを制限している。
	工事中においても適宜、樹木医等の立ち会い指導を受ける。	移植樹木の根回し及び養生においては樹木医の立ち会い指導の下、作業を実施している。
	樹木の状態を把握しながら、適切な時期に施行できるよう、工程に余裕をもって対応する。	樹木の移植に備えて、令和5年2月～5月及び令和6年3月～4月に根回しを行うとともに、継続して養生を実施している。 また、ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。
	透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の厚み及び範囲を確保するとともに、作業時の踏み固めや雨天時の作業を控えるなどの配慮を行う。	根回しの実施に際し、作業時の踏み固めや雨天時の作業を控えるなどの配慮を行った。

表 4-4(4) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況

(計画地全般に関する保全措置について)

環境保全のための措置		実施状況
施工に関する事項	樹木の移植及び新植にあたっては、植付に適した時期に留意するとともに、事前に適切な時期に必要な応じて根回しを行う。	樹木の移植に備えて、令和5年2月～5月及び令和6年3月～4月に根回しを行うとともに、継続して養生を実施している。 また、ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。
	工事発注に際し、上記の環境保全措置を特記仕様書に記載し、設計・施工者、樹木医、事業者が一体となり、環境・樹木保全への配慮を確実に遂行するよう設計・施工者に対して要請していく。	工事に際しては、環境影響評価書及び事後調査計画書に記載の環境保全のための措置の内容を踏まえ、作業を行っている。
管理に関する事項	移植樹及び新植樹には支柱を設置し、根の活着を図るとともに、倒木、傾き等を防止する。	移植樹については支柱を設置する予定である。
	既存（移植）樹木の根周りが歩行者等により踏み固められないよう、歩行可能な場所を限定し、樹木の保全に努める。	神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の工事エリアに仮囲いを設置しており、立ち入りによる踏み固めを制限している。
	存置・移植された既存樹木及び創出した緑地については、適正な管理育成を行い、豊かな樹林の形成に努める。	存置・移植された既存樹木及び創出した緑地については、剪定等の人為的な手入れは倒木、枝折れなど被害が発生する恐れがある場合や人の通行などに支障がある場合など必要最低限とし、自然な樹形や状態を維持するよう育成を進めることで、将来は高木等の成長によりまとまったみどり空間を創出する計画である。 神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の移植木については、根鉢上に稲藁にてマルチングを行うとともに、灌水の実施等、適正な管理育成を行っている。
	保全管理方針に基づきムラサキシジミが好む暗くて階層構造を有する樹林・林縁を保全するとともに、生物種のモニタリングと併せて状況に応じた維持管理（順応的管理）を行う。	存置・移植された既存樹木及び創出した緑地については、剪定等の人為的な手入れは倒木、枝折れなど被害が発生する恐れがある場合や人の通行などに支障がある場合など必要最低限とし、自然な樹形や状態を維持するよう育成を進めることで、将来は高木等の成長によりまとまったみどり空間を創出する計画である。 神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の移植木については、根鉢上に稲藁にてマルチングを行うとともに、灌水の実施等、適正な管理育成を行っている。

表 4-4(5) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況

(保存するいちよう並木について)

環境保全のための措置	実施状況
青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館前へと続く特例都道四谷角筈線沿いの4列のいちよう並木を保存する。	青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館前へと続く特例都道四谷角筈線沿いの4列のいちよう並木を保存する。
保存する4列のいちよう並木は既存建築物よりもセットバックして計画建築物を配置し、いちよう並木から離隔をとることにより、いちようの生育に配慮する。	4列いちよう並木の西側1列の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちよう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする。
野球場棟のネットフェンスやスコアボード、照明やひさし等構築物による、日照及び景観への影響が懸念されることから、構築物の配置や素材・色彩の決定に当たっては十分配慮し、影響の低減に努める。	野球場棟による日照及び景観への影響を低減するため、ネットフェンス等の構築物の配置や素材・色彩の検討を行っている。
4列のいちよう並木の西側1列について根系調査を行い、事後調査報告書において報告する。	4列のいちよう並木の西側1列について、根系調査を実施した結果、「10 cmメッシュ内に直径30 mm以上の根が4 本以上ある」箇所は見つからなかった。その旨、事後調査報告書（工事の施行中その2）で報告を行った。
根系調査の段階から、設計者、樹木医、事業者が一体となり、根系の状態に応じた基礎構造、施工方法等を精査する。	4列いちよう並木の西側1列の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちよう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする。
樹勢に応じた保育管理状況、及び根系調査の結果を踏まえ、建築計画及び施工計画における環境保全のための措置を具体的に示すとともに、事後調査報告書等において報告する。	樹勢に応じた保育管理として、ヘデラ除去、灌水、液体肥料の施肥を継続実施中であり、本事後調査報告書において報告を行った。 4列いちよう並木の西側1列の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちよう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする。その旨、事後調査報告書（工事の施行中その2）で報告を行った。
根系調査の結果、いちようの健全な生育へ影響を与えるような根が複数確認された場合は、根を避けるため野球場棟の該当箇所の壁面後退等施設計画の工夫を行う。	4列いちよう並木の西側1列の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちよう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする。

表 4-4(6) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況

(保存するいちょう並木について)

環境保全のための措置	実施状況
4 列のいちょう並木の西側に列植されている既存樹木については移植または伐採する計画であり、その掘り取りによるいちょうへの影響について、前述の根系調査により既存樹木の根系の状態についても合わせて確認を行い、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら必要に応じて対応を行う。	4列のいちょう並木の西側に列植されている既存樹木については、いちょう並木の根系調査結果及び既存樹木の根系の状態を踏まえ、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら必要に応じて対応を行っていく。
扁平基礎やピットの一部縮小などの構造上の対応により、計画建物の工事において杭工事を除き掘り返す深さは、4 列いちょう並木沿いについては 2 メートル程度に抑えられることから、2 メートルより深い部分にある根は保全することができる。ただし、既存施設の基礎は深さ 1.5 メートル程度となっており、また既存施設がない区域もあることから、1.5 メートルより浅い箇所に根が張っている可能性もある。この場合においては、樹木医等の見解を踏まえ、地下部への影響を最小限に抑える施工方法を採用する。このほか、太い根が長く伸びており切断する場合については、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら夏季期間を避ける時期に環状剥皮処理を行う等の検討を行うなど、設計・施工両面から精査し、4 列のいちょう並木を確実に保全する。	扁平基礎やピットの一部縮小などの構造上の対応により、計画建物の工事において杭工事を除き掘り返す深さは、4列いちょう並木沿いについては2メートル程度に抑えられることから、2メートルより深い部分にある根は保全することができる。ただし、既存施設の基礎は深さ1.5メートル程度となっており、また既存施設がない区域もあることから、1.5メートルより浅い箇所に根が張っている可能性もある。この場合においては、樹木医等の見解を踏まえ、地下部への影響を最小限に抑える施工方法を採用する。このほか、太い根が長く伸びており切断する場合については、樹木医などの専門家の指示を仰ぎながら夏季期間を避ける時期に環状剥皮処理を行う等の検討を行うなど、設計・施工両面から精査し、4列のいちょう並木を確実に保全する。
杭基礎の位置・間隔、断面積、断面形状については、根系調査等の結果を受けて、設計、施工計画に反映し柔軟に対応する。	杭基礎の位置・間隔、断面積、断面形状については、根系調査等の結果を受けて、設計、施工計画に反映し柔軟に対応する。
いちょうの健全な生育へ影響を与えるような根が複数確認され、環状剥皮処理が不適当な場合は、根を避けるため該当箇所の壁面を後退させる等の施設計画の工夫等を行い、いちょうを保全する。	いちょう並木の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする。
基礎梁をプレキャスト化、杭は既成杭等を検討する。	基礎梁をプレキャスト化、杭は既成杭等を検討する。
環状剥皮処理を行う場合は、夏季期間を確実に避けられるよう、施工適期までに余裕を持った調査及び処理工程とする。	環状剥皮処理を行う場合は、夏季期間を確実に避けられるよう、施工適期までに余裕を持った調査及び処理工程とする。
樹木の生育に必要な根系範囲を設定し、この範囲内の根系を保護する。根系範囲内の掘削は、人力施工等により行い、根の切断を防ぐよう配慮する。	4列いちょう並木の西側1列の根系調査結果を踏まえ、環境影響評価書においては約8mとしていた4列のいちょう並木の西側1列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、更に約10.3mセットバックし、約18.3mとする。 また、根系範囲内の掘削は、人力施工等により行い、根の切断を防ぐよう配慮する。

表 4-4(7) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
(保存するいちょう並木について)

環境保全のための措置	実施状況
樹木の周辺の舗装は浮き床方式を採用し、支持基礎についても最小限で検討する。	樹木の周辺の舗装は浮き床方式を採用し、支持基礎についても最小限で検討する。
工事中においても適宜、樹木医等の立ち会い指導を受ける。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列いちょう並木周辺の工事にあたっては適宜、樹木医の立合いを実施する計画である。
工事の施行にあたっては存置樹木を傷つけないように、存置樹木近くに重機を通さないよう工事ヤードを設定するとともに、重機作業者に対して十分な離隔を確保するよう要請する。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列いちょう並木周辺の工事にあたっては工事ヤードの設定など、踏み固めに配慮する計画である。
施工にあたっては根への負担を軽減するため、工事用車両の出入りに際しても、4列のいちょう並木沿いの歩道を跨がないよう出入口を配置し、施工は球場の内側から行うことで、根への負担を軽減する。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列のいちょう並木沿いの歩道を跨がないよう出入口を配置し、施工は球場の内側から行う計画である。
仮囲いは置基礎タイプとして打ち込まず根に配慮する。	現時点では野球場棟の工事に着手していないが、4列いちょう並木周辺の仮囲いは置基礎タイプとする計画である。
野球場棟の防球ネットによる4列のいちょう並木への日影の影響については、今後、安全性も考慮した上で防球ネットの透過性等の詳細を検討する中で日影についても配慮し検討を行う。	野球場棟による日影への影響を低減するため、防球ネットの透過性等の検討を行っている。
工事の施行中及び完了後の一定期間にわたり、いちょう並木の活力度調査などモニタリングを実施し、状況に応じた環境保全のための措置を継続し、保育管理を実施することで、将来にわたり4列のいちょう並木を健全に育成する。	4列いちょう並木については工事中の毎年及び工事の完了後において活力度調査を実施する計画であり、令和5年分（5月、7月、10月）については事後調査報告書（工事の施行中その2）で報告を行った。令和6年分（5月、7月、10月）については本事後調査報告書において報告する。 また、現在テニスコートとなっている土壌のうち、縁石から約10.5m～17mの表層土（20～30cm）について、良質客土に置換するとともに、その下層1mまでは水圧式の土壌改良等を行う計画であり、これにより根系の伸長可能な領域を現在の緑地幅（約10.5m）より60～70%増加させることが可能となる。さらに、毎年実施する4列いちょう並木の活力度調査結果を踏まえ、活力度の低下したいちょう等に対しては、いちょう周囲の灌水、液体肥料の施肥や、必要に応じてヘデラ除去を実施するなど、樹勢に応じた樹木の保育管理を継続し、保全していく計画である。

表 4-4(8) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
(神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地について)

環境保全のための措置	実施状況
神宮外苑広場（建国記念文庫）等の植栽樹は、存置もしくは移植により極力残す計画とする。	ラグビー場棟については変更届（令和6年9月）で報告したとおり、北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らした。 また、ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日照時間を増やし、樹木の生育環境を良化する計画とした。
神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地が一部改変されるが、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りにおいて、神宮外苑広場（建国記念文庫）等から約 112 本の樹木を移植し、新たに新植樹木も配置することで神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元するとともに、次の 100 年に受け継ぐ緑地環境を整備する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場周辺の移植樹木については根回し及び養生を実施するとともに、移植作業に着手している。 これらの樹木の一部は仮移植を経て、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りに本移植し、次の100年に受け継ぐ緑地環境を整備する計画である。
仮移植期間中及び本移植後においては定期的に樹木医によるモニタリングを行い、必要な処置を講じた上で事後調査報告書にて報告する。	仮移植期間中及び本移植後においては毎年度、活力度調査を行い、必要な処置を講じた上で毎年度、事後調査報告書にて報告する。
計画の深度化に伴い、移植時期、方法、現況の土壌環境の状況を踏まえた植栽基盤確保の考え方、仮移植期間における養生計画及び養生期間中のモニタリング結果を反映した本移植計画等については今後、事後調査報告書等において報告する。	ラグビー場棟敷地内において、移植時期、方法、現況の土壌環境の状況を踏まえた植栽基盤確保の考え方、仮移植期間における養生計画について、事後調査報告書(工事の施行中その2)で報告を行った。

表 4-4(9) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
(神宮外苑広場(建国記念文庫)等の緑地について)

環境保全のための措置	実施状況
ラグビー場の詳細な形状については今後、新ラグビー場設計者に対して、圧迫感や閉鎖性の緩和、既存樹木の保全等に留意したデザインなどを、引き続き検討するよう要請する。また、改めて既存樹木について設計・施工の両面からの工夫等により保存又は移植を検討し、自然環境の保全に努めるよう要請する。	ラグビー場棟については変更届(令和6年9月)で報告したとおり、北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らした。 また、ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日照時間を増やし、樹木の生育環境を良化するとともに、圧迫感や閉鎖性の緩和を図る計画とした。
ラグビー場棟の東側及び北側には都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の保存や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮し、設計・建設等の各段階において関係機関と協議を行う。	変更届(令和6年9月)で報告したとおり、ラグビー場棟の東側及び北西側には都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の存置や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮する計画とした。

表 4-4(10) 生物・生態系に関する環境保全のための措置の実施状況
(予測に反映しなかった措置)

環境保全のための措置	実施状況
植栽後の樹木の状況(植栽状況、生育状況等)について確認するとともに、灌水や剪定等適切な管理を実施することにより、動植物の生育・生息環境の維持に配慮する。	移植樹木を含めて予測対象とした全数の樹木については活力度調査を実施し、その結果を事後調査報告書(工事の施行中その2)に掲載するとともに、調査結果を受けて病害防除対策等の処置を実施した。また、神宮外苑広場(建国記念文庫)及び神宮第二球場周辺については樹木の保全及び安全対策のため仮囲いを設置して閉鎖管理を行うとともに、養生として灌水や稲藁によるマルチングを敷設して乾燥防止に努めている。
陸上植物、陸上動物及び生育・生息環境、生態系への影響の程度は不確実性を伴うことから、事後調査により事業の実施による影響を確認し、必要に応じて一層の環境保全措置を講じるとともに、その内容を事後調査報告書において報告する。	植物相及び動物相についてはラグビー場棟、野球場棟の竣工後、及び工事の完了後に事後調査を実施する計画である。また、ラグビー場棟の竣工後については神宮外苑広場(建国記念文庫)の保全管理方針を、野球場棟の竣工後についてはいちょう並木(4列)の保全管理方針を事後調査報告書において報告する計画である。

3.2 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

- 1) 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4列））

ア．既存樹木の状況

計画地全体の既存樹木の状況については、下記の(ア)～(エ)に示すとおりである。なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び4列いちょう並木の状況については、「イ．神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況」「ウ．いちょう並木の保全状況（4列）」に記載のとおりである。

(ア) 既存樹木の本数

既存樹木の本数について、予測結果（変更届（令和6年9月））と事後調査結果の比較は、表4-5に示すとおりである。既存樹木の本数については、変更届（令和6年9月）時点においては存置が616本、移植が193本、移植検討が19本、伐採が511本であったが、令和6年9月以降、枯損等（立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）が5本増加したことに伴い、存置が615本、移植が193本、移植検討が19本、伐採が507本となった。枯損等により、存置が1本、伐採が4本減少している。

また、ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。

(イ) 保全管理の状況及び保全管理方針

樹勢が弱っている樹木に対しては、施肥を実施するとともに、病虫害防除策（キクイムシ侵入防除策）を実施している。

今後も保全管理方針として、樹勢が弱っている樹木に対して施肥の実施、定期巡回による病虫害被害状況を確認するとともに、病虫害防除策の実施、定期剪定による樹木の生育環境の保全を実施する予定である。

表 4-5 既存樹木の本数

本数	存置	移植	移植検討	伐採	枯損等	合計
①評価書における予測結果	615 本	191 本	19 本	556 本	—	1,381 本
②変更届（令和6年9月）	616 本	193 本	19 本	511 本	42 本	1,381 本
③事後調査結果	615 本	193 本	19 本	507 本	47 本	1,381 本
差分（③－②）	－1 本	0 本	0 本	－4 本	＋5 本	0 本

(ウ) 秩父宮ラグビー場東側の港区道等のイチョウの移植検討のための調査概要

ア) 目的

秩父宮ラグビー場東側に所在する港区道等のイチョウ（19本）^{注）}は、環境影響評価書において「移植を検討する樹木」として位置づけており、新球場の工事着手前までに野球場棟北側エリアに移植することを想定している。

他の移植予定樹木と異なり、歩道上に植栽されており植栽樹が小さく、根系域が限定されていることから、移植に向けて適正な根鉢を確保するために、樹木医等専門家の立ち会いのもと下記に示す調査を継続的に実施する。

イ) 調査概要

移植を検討するにあたり、まずイチョウ2本に対し、樹木医等専門家の立ち会いのもと、根や土壌の現況を確認した上で、樹木周囲の一部の根回しと樹勢助長措置を試験的に実施する。その後数年にわたり、維持管理と継続調査により根回しや樹勢助長措置の効果を検証した上で、残りの17本を含む19本に対して最適な樹勢助長措置を実施し、さらに全19本を対象に維持管理と継続調査を行い、その結果を踏まえて移植を検討する。

ウ) 調査時期

2025年2月～

エ) 先行調査対象樹木（2本）

樹木医等専門家の意見を参考に、また通行の妨げにならないよう配慮した上で、北側と南側で環境が異なる2本を対象とした。

オ) 調査方法・措置

①根や土壌の現況確認

舗装・砕石を撤去し、歩道や車道に伸びている根や土壌の状況、一部舗装下の根系の密度や伸長状況を調査した。

②樹木周囲の一部の根回し

根回しを実施した場合の効果（根の発根状況等）を測定するため、歩道側の太根の一部を環状剥皮し、樹木周囲の一部について根回しを実施した。

③樹勢助長措置

歩道側の砕石中に伸長していると想定される根の環境を改善し、根の発根や伸長を促すため、根を残しながら砕石を人力またはエアースコップ等で撤去し、良質土に入れ替えた上で、稲藁マルチングを敷設した。また、イチョウへの水分供給を改善するため、調査範囲のヘデラ・下草は除去した。

④維持管理・継続調査

注） 港区道イチョウ18本及び港区道北側神宮外苑敷地内イチョウ1本、合計19本

②と③の効果を検証するため、発根調査、外観診断、デンドロメーターによる幹周変化の比較等を実施する。

カ) 調査の結果

令和7年2月に調査を行った。

歩道側においては歩道面から約20cm下、車道側においては車道面から約20cm下まで掘削し、調査したところ、(関東地方に広く分布する) ローム層であったことから、樹木の生育に適した土壌であった。また、歩道側・車道側ともに舗装面の下部の地山には良好な根系が発達しており、いちょうの生育は良好である。

また、調査と合わせてイチョウの一部について、根回しと樹勢助長措置も実施した。

樹勢助長措置は、主に歩道側の舗装・砕石を撤去し良質土への入れ替えを行った。

引き続き効果検証のための維持管理及び継続調査を実施していく。

イ. 神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況

神宮外苑広場（建国記念文庫）及び神宮第二球場の移植樹木については、移植に向けて根回しや養生を行っており、その状況は事後調査報告書（工事の施行中その1及びその2）において報告を行った。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木については、対象樹木の移植、伐採作業に着手するとともに、移植が未実施の樹木については養生を行っている。

移植木の養生の状況については、事後調査報告書（工事の施行中その2）で報告したとおり、根鉢上に稲藁にてマルチングを行うとともに、灌水を週2回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草及び病害防除対策を適宜実施している。なお、移植未実施の樹木について、枯損しているものはない。

樹木については日常管理として、巡回を毎日実施するとともに、枝葉の剪定や、枯枝除去を行っている。

また、これらの作業のため、神宮外苑広場（建国記念文庫）へ仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。

なお、保全エリアの拡大の状況については、変更届（令和6年9月）で報告したとおり、ラグビー場棟を計画変更することにより、神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全する樹木本数やエリアを増やすとともに、生育環境を良化する計画とした。

ウ. いちょう並木の保全状況（4列）

4列いちょう並木の活力度調査は、事後調査計画では工事の施行中の毎年6月頃に調査を実施する予定であるが、令和6年については令和5年と同様に事後調査計画の調査回数を変更し、春（5月）、夏（7月）、秋（10月）の3回調査を実施した。活力度の状況を詳細に把握するため、いちょう並木の景観を維持する目的で剪定により樹形を整えている先端部（頂部）と、自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とした。

4列いちょう並木の活力度は、令和6年5月時点では活力度A（正常なもの）が74本、活力度B（普通、正常に近い）が53本、活力度C（悪化のかなり進んだもの）が1本、活力度D（顕著に悪化の進んでいるもの）が0本であった。令和6年7月時点では活力度Aが74本、活力度Bが50本、活力度Cが4本、活力度Dが0本であった。令和6年10月時点では活力度Aが75本、活力度Bが49本、活力度Cが4本、活力度Dが0本であった。

活力度Cとなった4本のいちょうについては、先端部（頂部）は活力度C～Dであるのに対し、それ以外の部分（頂部以外）は活力度B～Cであり、先端部（頂部）の活力度がそれ以外の部分（頂部以外）に対して悪くなっている（資料編 p. 141～170 参照）。

令和5年5月時点と令和6年5月時点と比較すると、活力度Aが1本から74本に増加するとともに、活力度Cが2本から1本に減少しており、活力度の改善がみられ（表4-6参照）、7月及び10月時点においても同様に活力度の改善がみられる（表4-7(2)～(3)参照）。これについては、ヘデラの除去や稲藁マルチング、灌水など、樹勢回復措置の実施の効果も考えられる。

また、平成31（令和元）年春季調査に比べて活力度Cが出現しているが（表4-6参照）、2020年代（令和2年～令和6年）の東京（千代田区）の6月～9月の最高気温（月間平均）

が過去 30 年間（平成 3 年～令和 2 年）に比べて 6 月は 1.4℃、7 月は 1.4℃、8 月は 1.6℃、9 月は 1.3℃上昇するなど、気候変動の影響等も考えられる。

春季、夏季、秋季ともに、4 列のいちよう並木のうち東側 2 列は活力度 A または B である。西から 2 列目については概ね活力度 A または B であるが、西から 1 列目の一部で活力度 C が出現している。

上記の活力度 C となっているいちようは、令和 5 年の活力度調査で活力度 C または D と診断されたいちようであり、「工事の施行中その 2」において報告したとおり、検査機関に照会した結果、病虫害ではないことが確認されている。

また、「工事の施行中その 2」で報告したとおり、活力度の低下したいちように対しては、いちよう周囲の灌水、液体肥料の施肥等を実施するとともに、4 列いちよう並木西側 1 列（縁石から約 10.5m まで）のうち秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分について、下記に示す樹勢回復措置を継続実施中である。

- ・稲藁マルチングによる乾燥防止等の対応
- ・自動灌水装置の設置（4 列いちよう並木西側店舗前においては舗装ブロックを外し灌水装置を設置）

さらに、土壌水分の測定や成長量の把握及び樹勢回復措置に伴う効果の確認のため幹周を測定する観測装置（デンドロメーター）を設置し、定期的にモニタリングを実施している。

なお、下記に示す樹勢回復措置を実施済みである。

- ・ヘデラとの水分競合をなくすため、ヘデラを除去するとともに、土壌をほぐす等の土壌改良措置（水圧穿孔）を実施
- ・埋設されている旧通路等を撤去し、根系域を確保
- ・4 列いちよう並木西側店舗テラス部分のインターロッキングを撤去し、根系への踏圧対策を目的とした浮き床構造のウッドデッキを設置

表 4-6 4 列いちよう並木の活力度調査結果（2019 年春季調査との比較）

活力度		A	B	C	D	合計
①	平成 31（令和元）年 春季調査	126 本	2 本	0 本	0 本	128 本
②	事後調査結果 （令和 5 年 5 月時点）	1 本	125 本	2 本	0 本	128 本
③	事後調査結果 （令和 6 年 5 月時点）	74 本	53 本	1 本	0 本	128 本
③－①	平成 31（令和元）年 春季調査と 令和 6 年 5 月時点 との差分	－52 本	＋51 本	＋1 本	0 本	－

注）事後調査結果（②～③）のいちよう並木の活力度について、上部は一般的ではないイチョウの樹形で維持されているため、剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて詳細に調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とする方法によった。

表 4-7(1) 4 列いちょう並木の活力度調査結果（春季）

活力度		A	B	C	D	合計
①	事後調査結果 (令和 5 年 5 月時点)	1 本	125 本	2 本	0 本	128 本
②	事後調査結果 (令和 6 年 5 月時点)	74 本	53 本	1 本	0 本	128 本
②－①	令和 5 年 5 月時点と 令和 6 年 5 月時点 との差分	73 本	－72 本	－1 本	0 本	－

注) 事後調査結果（①～②）のいちょう並木の活力度について、上部は一般的ではないイチョウの樹形で維持されているため、剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて詳細に調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とする方法によった。

表 4-7(2) 4 列いちょう並木の活力度調査結果（夏季）

活力度		A	B	C	D	合計
①	事後調査結果 (令和 5 年 7 月時点)	4 本	119 本	3 本	2 本	128 本
②	事後調査結果 (令和 6 年 7 月時点)	74 本	50 本	4 本	0 本	128 本
②－①	令和 5 年 7 月時点と 令和 6 年 7 月時点 との差分	70 本	－69 本	＋1 本	－2 本	－

注) 事後調査結果（①～②）のいちょう並木の活力度について、上部は一般的ではないイチョウの樹形で維持されているため、剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて詳細に調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とする方法によった。

表 4-7(3) 4 列いちょう並木の活力度調査結果（秋季）

活力度		A	B	C	D	合計
①	事後調査結果 (令和 5 年 10 月時点)	52 本	71 本	1 本	4 本	128 本
②	事後調査結果 (令和 6 年 10 月時点)	75 本	49 本	4 本	0 本	128 本
②－①	令和 5 年 10 月時点と 令和 6 年 10 月時点 との差分	23 本	－22 本	＋3 本	－4 本	－

注) 事後調査結果（①～②）のいちょう並木の活力度について、上部は一般的ではないイチョウの樹形で維持されているため、剪定をして樹形を整えている先端部（頂部）と自然な樹形を整えているそれ以外の部分（頂部以外）に分けて詳細に調査した上で、評価書と同様に全ての項目の平均評点を総合評価とする方法によった。

事後調査の結果

調 査 項 目：自然との触れ合い活動の場

調査した事項：自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

1. 調査地域

計画地内及びその周辺とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

- 1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

(2) 予測条件の状況

- 1) 緑地の保全状況及び緑化の状況
- 2) 工事の実施状況
- 3) 歩行者動線の状況

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

- 1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間とした。

(2) 予測条件の状況

- 1) 緑地の保全状況及び緑化の状況
令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間とした。
- 2) 工事の実施状況
「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。
- 3) 歩行者動線の状況
「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの工事の施行中の随時とした。

2.3 調査地点

- (1) 予測した事項
 - 1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
計画地内及びその周辺とした。
- (2) 予測条件の状況
 - 1) 緑地の保全状況及び緑化の状況
計画地内及びその周辺とした。
 - 2) 工事の実施状況
 - 「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。
 - 3) 歩行者動線の状況
 - 「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。
- (3) 環境保全のための措置の実施状況
計画地内及びその周辺とした。

2.4 調査方法

- (1) 予測した事項
 - 1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
計画地内及びその周辺の歩行者動線等を踏査し、目視で確認する方法とした。
- (2) 予測条件の状況
 - 1) 緑地の保全状況及び緑化の状況
現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。
 - 2) 工事の実施状況
 - 「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。
 - 3) 歩行者動線の状況
 - 「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」と同様とした。
- (3) 環境保全のための措置の実施状況
現地調査(写真撮影等)及び関連資料(施工計画、建設作業日報等)の整理による方法とした。

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

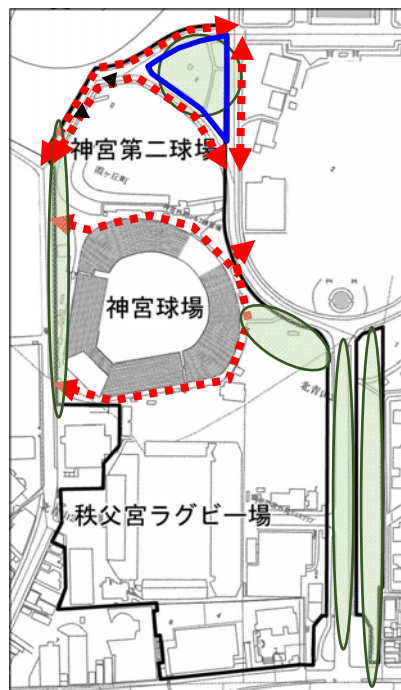
1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手するとともに、第二球場の解体工事を実施している。これに伴い、神宮外苑広場（建国記念文庫）を囲む歩道の閉鎖を行っているが、交通整理員を配置するとともに迂回路への誘導を行い、歩行者の通行に支障がないように配慮している（写真 5-1 参照）。

それ以外の場については、周辺の緑地や広場について改変は行われておらず（図 5-2 及び写真 5-2 参照）、上記以外の場所の歩道の閉鎖は行っていないため、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている（図 5-1 参照）。

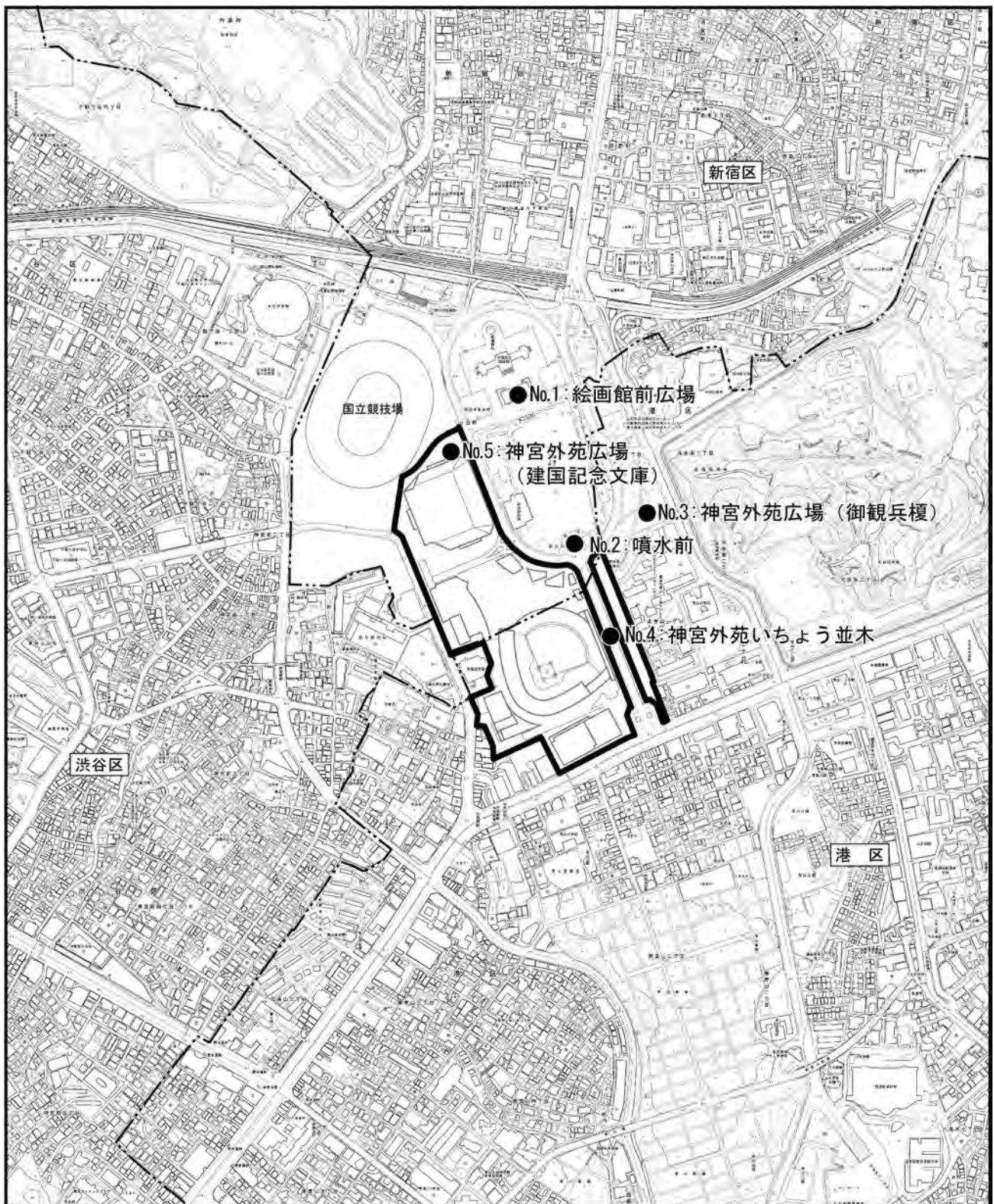


写真 5-1 交通整理員の配置及び迂回路への誘導状況



- ◀---▶ : 歩行者動線（地上レベル） ● : 緑地
—— : 歩道閉鎖区間 ▶ : 工事用車両出入口

図 5-1 歩行者動線及び広場の状況



凡 例



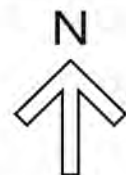
計画地



区界



自然との触れ合い活動の場の調査地点 (No.1～5)



S=1/12,000

0 100 200 300m



図 5-2 自然との触れ合い活動の場の調査地点



No. 1 : 絵画館前広場



No. 2 : 噴水前



No. 3 : 神宮外苑広場（御観兵榎）



No. 4 : 神宮外苑いちよう並木



No. 5 : 神宮外苑広場（建国記念文庫）

写真5-2 計画地及び周辺の自然との触れ合い活動の場の状況

(2) 予測条件の状況

1) 緑地の保全状況及び緑化の状況

計画地内の保存する樹木（存置樹木及び移植樹木）については日常管理として、巡回を毎日実施するとともに、通行等に支障をきたす恐れのある枝葉の剪定や、枯枝除去を行っている。また、樹勢が弱っている樹木に対しては、施肥を実施するとともに、病虫害防除策（キクイムシ侵入防除策）を実施している。

ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手するとともに、移植が未実施の樹木については養生を行っている。

養生の状況については、根鉢上に稲藁にてマルチング、養生を行うとともに、灌水を週2回実施している。これにより、根鉢周りの乾燥を防ぎ、土壌の温度調整を行っている。また、除草を適宜実施している。

これらの作業のため神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場については仮囲いを設置し、閉鎖管理を行っている。

4 列のいちよう並木のうち、秩父宮ラグビー場東側の港区道より北側部分については、稲藁マルチングや灌水装置の設置など、樹勢回復措置を継続実施中である。

上記以外の緑地については評価書時点と変わっておらず、保全されている。

2) 工事の実施状況

工事の実施状況としては、現在、第二球場の地上部の解体が終了しており、第二球場については今後、外構等の解体を予定している。

また、「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」に記載したとおり、ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。また、これらの作業のため神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場については仮囲いを設置している。

3) 歩行者動線の状況

「1) 緑地の保全状況及び緑化の状況」に記載したとおり、神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場については仮囲いを設置するとともに、神宮外苑広場（建国記念文庫）を囲む歩道の閉鎖を行っており、これらの場所については歩行者の通行が出来ない状況となっている。そのため、神宮外苑広場（建国記念文庫）については道路を挟んで反対側の歩道に歩行者の誘導を行っている。

それ以外の場については、本事業により歩道の閉鎖は行っておらず、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 5-1 に示すとおりである。

令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの間に、自然との触れ合い活動の場に関する苦情はなかった。

表5-1 自然との触れ合い活動の場に係る環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置	実施状況
工事用車両の出入口に交通整理員を配置することにより、周囲の歩道を利用する一般の歩行者の円滑な通行を確保する。	工事用車両の出入の際には出入口に交通整理員を配置し、一般の歩行者の円滑な通行を確保している。
工事の施行により周辺の歩道が通行できなくなる場合は迂回路を設置し、歩行者の通行に支障がないよう配慮する。	神宮外苑広場（建国記念文庫）を囲む歩道の閉鎖を行っているが、交通整理員を配置するとともに迂回路への誘導を行い、歩行者の通行に支障がないように配慮している（写真 5-1 参照）。
今後詳細な設計を実施するにあたり、存置する既存樹木の生育に影響が及ばないよう、既存樹木の根鉢と計画建物の地下躯体との離隔を保持する等、計画建物の配置等に留意する。	ラグビー場棟の詳細な形状については変更届（令和 6 年 9 月）において報告したとおり、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らす等の配慮を行った。 また、4 列のいちよう並木の西側 1 列の縁石から野球場棟や文化交流施設棟の地下躯体までの距離は、環境影響評価書においては約 8m としていたが、根系調査結果を踏まえ、いちようの根系保全範囲は縁石から約 17m とし、約 17m 未満の位置に存在する根については全て切断せずに保護する方針とした。 それ以外の施設については、今後詳細設計を実施する予定である。
既存（移植）樹木の根周りが歩行者等により踏み固められないよう、歩行可能な場所を限定し、樹木の保全に努める。	神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮第二球場周辺の工事エリアに仮囲いを設置しており、立ち入りによる踏み固めを制限している（写真 5-2 の No. 5 地点参照）。

3.2 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

1) 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

ラグビー場棟敷地内（神宮外苑広場（建国記念文庫）及び第二球場の一部、野球場三塁側の一部）については対象樹木の移植、伐採作業に着手している。これに伴い、神宮外苑広場（建国記念文庫）を囲む歩道の閉鎖を行っているが、交通整理員を配置するとともに迂回路への誘導を行い、歩行者の通行に支障がないように配慮している。

それ以外の場については、周辺の緑地や広場について改変は行われておらず、上記以外の場所の歩道の閉鎖は行っていないため、自然との触れ合い活動の場までの利用経路は確保されている。

以上のことから、予測結果のとおり、自然との触れ合い活動の場までの利用経路に著しい影響を及ぼしていないものと考ええる。

事後調査の結果

調 査 項 目：廃棄物

調査した事項：解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用率及び処理・処分
の方法
建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用率及び処理・処分
の方法

1. 調査地域

計画地内とした。

2. 調査手法

2.1 調査事項

(1) 予測した事項

- 1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用率及び処理・処分の
方法
- 2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用率及び処理・処分の
方法

(2) 予測条件の状況

- 1) 掘削工事等の状況（掘削部分の面積、深度等）
- 2) 撤去建造物等の状況
- 3) 事業計画（延床面積）
- 4) 再資源化・再利用等の状況

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2.2 調査時点

(1) 予測した事項

- 1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用率及び処理・処分の
方法
令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間とした。
- 2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用率及び処理・処分の
方法
令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間とした。

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）

令和6年5月から令和6年11月末までの期間とした。

2) 撤去建造物等の状況

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）」と同様とした。

3) 事業計画（延床面積）

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）」と同様とした。

4) 再資源化・再利用等の状況

「1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

令和6年5月から令和6年11月末までの工事の施行中の随時とした。

2.3 調査地点

(1) 予測した事項

- 1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用率及び処理・処分の方法
計画地内とした。
- 2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用率及び処理・処分の方法
計画地内とした。

(2) 予測条件の状況

- 1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）
計画地内とした。
- 2) 撤去建造物等の状況
「1）掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）」と同様とした。
- 3) 事業計画（延床面積）
「1）掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）」と同様とした。
- 4) 再資源化・再利用等の状況
「1）掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）」と同様とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

計画地内とした。

2.4 調査方法

(1) 予測した事項

- 1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用率及び処理・処分の方法
関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。
- 2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用率及び処理・処分の方法
関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

(2) 予測条件の状況

1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

2) 撤去建造物等の状況

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

3) 事業計画（延床面積）

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

4) 再資源化・再利用等の状況

関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

現地調査（写真撮影等）及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

3. 調査結果

3.1 事後調査の結果の内容

(1) 予測した事項

- 1) 解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用率及び処理・処分の方法

令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間において、撤去建造物の排出はなかった。

- 2) 建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用率及び処理・処分の方法

現時点では建設工事（新築工事）には着手しておらず、建設工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出はない。

(2) 予測条件の状況

- 1) 掘削工事の状況（掘削部分の面積、深度等）

現時点では建設工事（新築工事）には着手しておらず、建設工事に伴う掘削は行っていない。

- 2) 撤去建造物等の状況

解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出はない（表 6-2 参照）。

- 3) 事業計画（延床面積）

延床面積は約 565,000m²であり、評価書の記載に変更はない。

- 4) 再資源化・再利用等の状況

解体工事に伴う撤去建造物及び建設工事に伴う建設廃棄物の排出はない（表 6-2 参照）。

(3) 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 6-1 に示すとおりである。

令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの間に、廃棄物に関する苦情はなかった。

表6-1(1) 廃棄物に係る環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置	実施状況
計画建築物の建設に伴い発生する建設廃棄物については、分別収集し、再利用可能なものについては、極力、再利用を図る。	現時点では神宮第二球場の解体工事を行っており、新築工事には着手していない。 また、令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間において、撤去建造物の排出はなかった。
建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、排出、再利用促進及び不要材の減量等を図る。再利用できないものは、運搬・処分 of 許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。	令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間において、撤去建造物の排出はなかった。また、再利用可能なものについては、極力、再利用を図ることとしている。
既存建築物に使用されているアスベストについては、解体工事に先立ち、「石綿障害予防規則」、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」、「港区建築物の解体工事等の事前周知等に関する要綱」に従い、既存建築物設計図による調査、現地での目視調査等を実施し、必要に応じて材質分析調査を併用して、状況に応じた対策を講じながら除去作業を実施する。	令和 6 年 5 月から令和 6 年 11 月末までの期間において、アスベストを含めて撤去建造物の排出はなかった。
除去したアスベストについては、「石綿障害予防規則」、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」に従い、粉じんが発生しないよう、堅固な容器や確実な包装を施し、運搬するまでの間、隔離作業場外に設けた一時保管場所に適切に保管する。	
アスベストの運搬・処分にあたっては、「建築物の解体又は改修工事において発生する石綿を含有する廃棄物の適正処理に関する指導指針」に従い、許可を得た業者に委託するとともに、マニフェストにより確認する。	

表6-1(2) 廃棄物に係る環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置	実施状況
伐採樹木については計画地内での利活用を行うほか、チップ化して堆肥や土壌改良剤等としてリサイクルする等、適切に処理する。	令和6年5月から令和6年11月末までの期間において、伐採樹木を含む廃棄物の排出はなかった。 伐採樹木については計画地内での利活用を行うほか、チップ化して対比や土壌改良剤としてリサイクルする等、適切に処理する計画である。
伐採した樹木のストックの方法については、計画地内で保管できる容量を超えるものについては計画地外で保管することとし、工事計画に沿って適切な保管が可能な場所において保管を行う。	伐採した樹木のストックの方法については、計画地内で保管できる容量を超えるものについては計画地外で保管することとし、工事計画に沿って適切な保管が可能な場所において保管を行う計画である。
コンクリート型枠材については、非木材系型枠の採用や部材のプレハブ化等により木材系型枠材の使用量を低減する。	現時点では建設工事（新築工事）には着手しておらず、建設工事に伴うコンクリート型枠材の使用はない。
建設廃棄物の排出量を低減するような施工計画を検討し、施工業者に遵守させる。	令和6年5月から令和6年11月末までの期間において、建設廃棄物の排出はなかった。 建設廃棄物については朝礼での全体講習会のほか、廃棄物管理責任者による勉強会等、廃棄物のさらなる発生抑制の指導を徹底させることを施工計画に盛り込み、廃棄物の低減化に努める計画である。
「建設リサイクル法」に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、可能な限り現場内利用に努め、現場で利用できないものは現場外で再資源化を行う。	令和6年5月から令和6年11月末までの期間において、建設廃棄物の排出はなかった。 コンクリート塊及び木くず等については分別を徹底し、産業廃棄物処理業者に委託して再資源化に努める計画である。
施設整備にあたっては、リサイクル材料を積極的に使用する。	道路やコンクリート構造物の整備にあたって、再生アスファルト合材や再生骨材の利用を検討する計画である。
特別管理廃棄物について、工事の実施にあたりその存在が確認された場合には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等関係法令に基づき、適切に処理する。	P C B製品の使用やP C B廃棄物など、アスベスト以外の特別管理廃棄物の保管は確認されなかった。

3.2 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 予測した事項

1) 解体工事に伴い生じる廃棄物の発生量

建設廃棄物の排出量の予測結果と事後調査結果との比較は、表 6-2 に示すとおりである。令和 6 年 11 月末時点では第二球場の解体工事の途中段階であり、全ての解体工事が終了した時点で予測結果との比較を行うが、参考までに令和 6 年 11 月末時点で比較すると、建設廃棄物の総発生量は予測結果のコンクリート塊 150,560m³、それ以外が 38,230t に対して事後調査結果がコンクリート塊 9,140m³、それ以外が 126t であり、事後調査結果が予測結果を下回っている。

また、「工事の施行中その 2」で報告したとおり、解体工事に伴い石綿含有産業廃棄物が発生した。石綿含有産業廃棄物については、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」（令和 6 年 2 月改正 厚生労働省、環境省）、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」（令和 4 年 3 月 東京都）等に基づき撤去し、適正に処分を行った。

表6-2 予測結果と事後調査結果との比較（撤去建造物）

種 別	予測結果		事後調査結果			
			工事の施行中その 3		累計	
	廃棄物発生量	再資源化量	廃棄物発生量	再資源化量	廃棄物発生量	再資源化量
コンクリート塊	150,560m ³	149,054m ³	—	—	9,140m ³ 注 1)	9,140m ³ 注 1)
木くず	5,646t	5,590t	—	—	42t	42t
金属くず	18,820t	18,444t	—	—	—	—
混合廃棄物	3,764t	3,124t	—	—	84t	84t
伐採樹木	10,000t	—	—	—	—	—
合 計 (コンクリート塊以外)	38,230t	27,158t	—	—	126t	126t

注 1) コンクリートの比重 (2.3t/m³) を用いて m³ に換算した。

2) 金属くずは分別を行い、全て有価物として売却しているため、廃棄物としての発生はない。

環境影響評価手続等の状況

(1) 環境影響評価手続の状況

環境影響評価の手続の状況は、別添表-1 に示すとおりである。

別添表-1 環境影響評価の手続の状況

環境影響評価の手続	提出年月日	備 考
環境影響評価書	令和 5 (2023) 年 1 月 10 日	—
事後調査計画書	令和 5 (2023) 年 1 月 17 日	—
工事着手届 (着工届)	令和 5 (2023) 年 1 月 17 日	—
事後調査報告書(工事の施行中その 1)	令和 5 (2023) 年 7 月 6 日	生物・生態系 (根回しの状況、養生の状況、仮移植計画)
事後調査報告書(工事の施行中その 2)	令和 6 (2024) 年 9 月 30 日	生物・生態系 (既存樹木の状況、神宮外苑広場 (建国記念文庫) の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況 (4 列)、自然との触れ合い活動の場、廃棄物)
変更届 (事業計画の変更)	令和 6 (2024) 年 9 月 30 日	事業計画の変更 (ラグビー場棟の施設計画)

(2) 許認可の状況

本事業に係る許認可の状況は、別添表-2 に示すとおりである。

別添表-2 本事業に係る許認可の状況

許認可等	根拠法令	年月日
建築物の確認	建築基準法 第 6 条第 1 項 または 第 6 条の 2	—
第一種市街地再開発事業	都市再開発法 第 7 条の 9	令和 5 (2023) 年 2 月 17 日 告示
地区計画	都市計画法 第 12 条の 5	令和 4 (2022) 年 3 月 10 日 告示

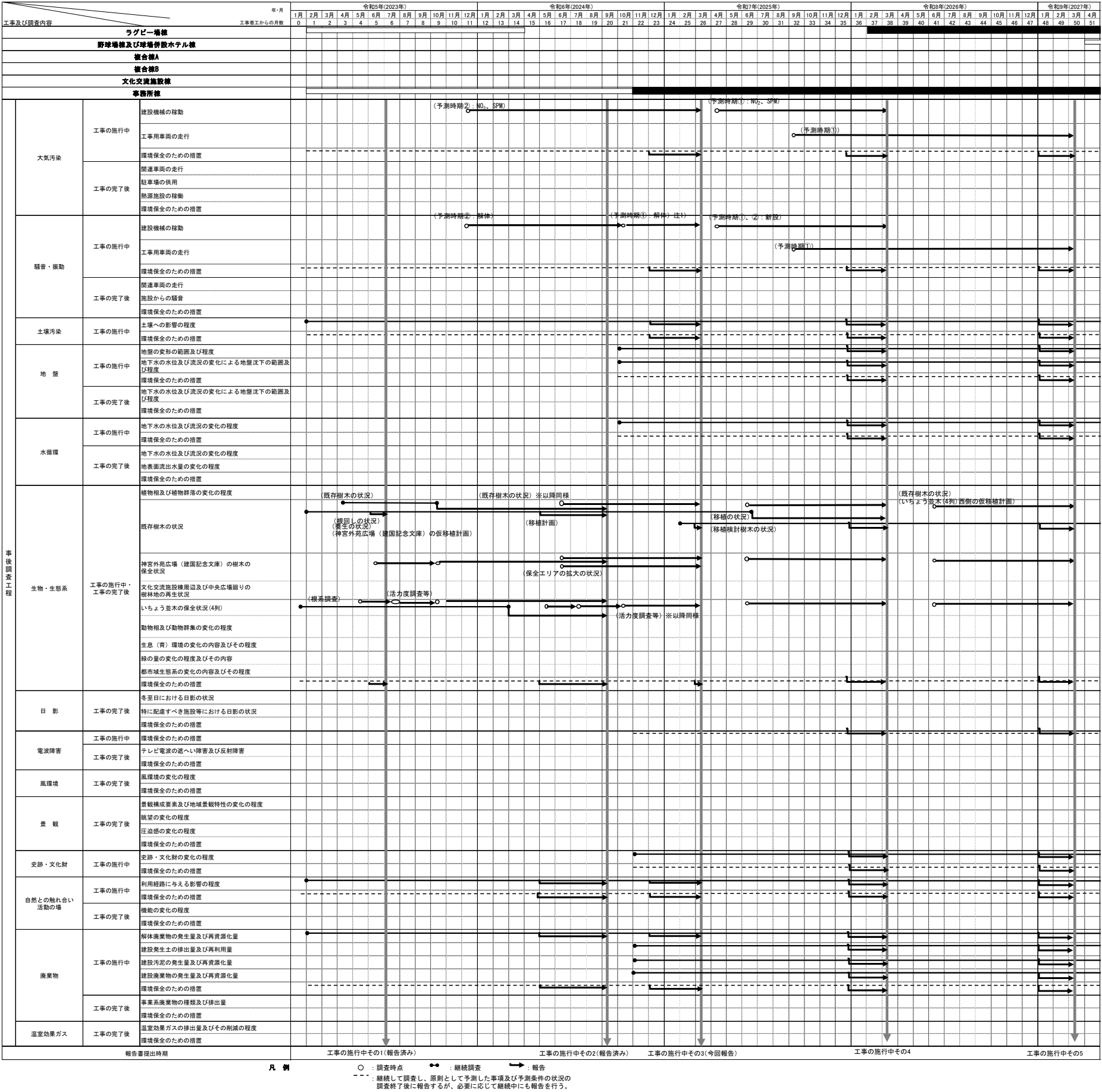
(3) 工事及び事後調査の進捗状況

工事工程及び事後調査の工程は、別添表-3～5 に示すとおりである。

工事の施行中その3では工事施行中の大気汚染、騒音・振動、土壌汚染、生物・生態系（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちよう並木の保全状況（4列））、自然との触れ合い活動の場、廃棄物の状況を報告する。

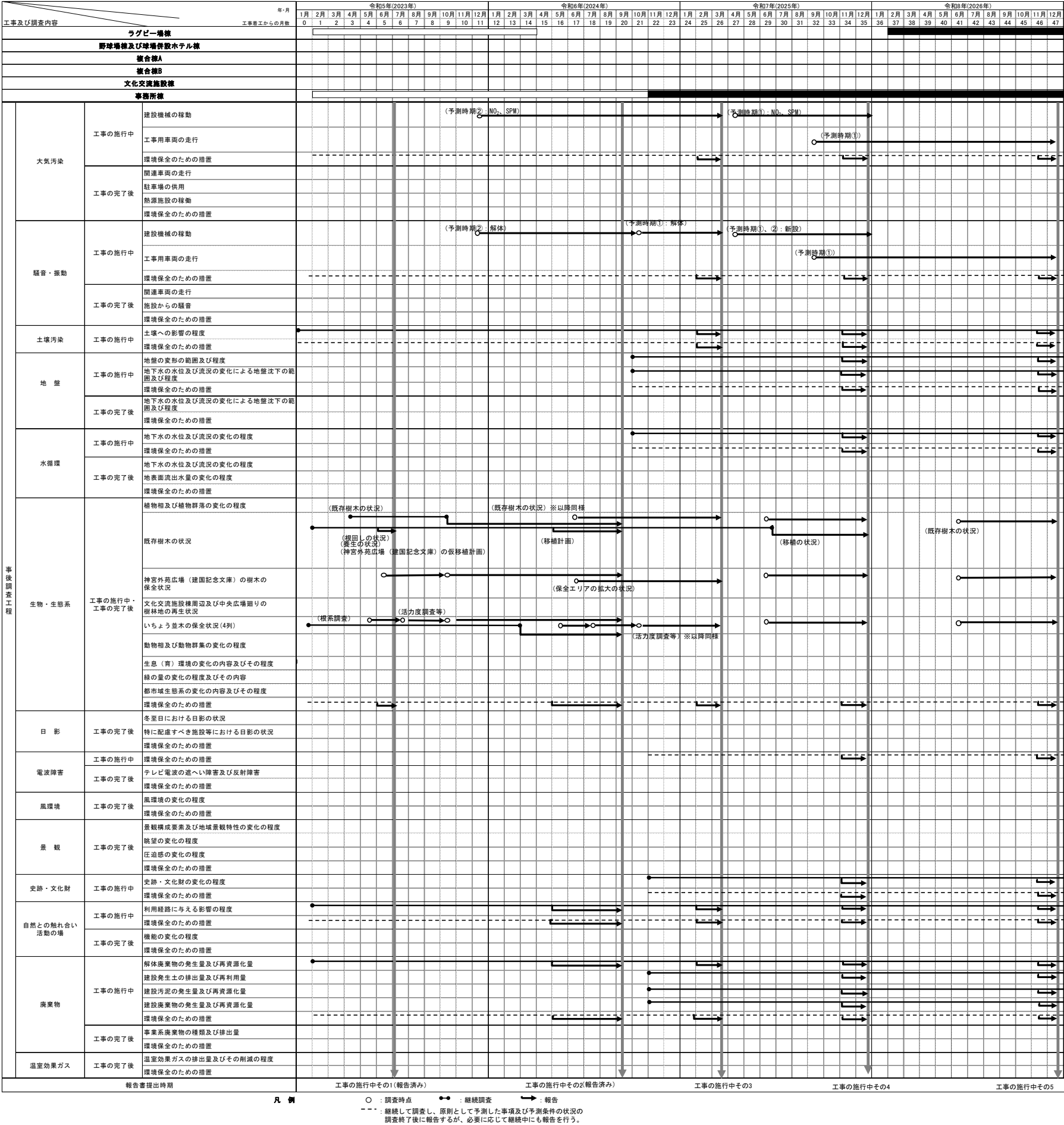
なお、事務所棟に係る解体工事については未実施であり、今後の工事の予定及びそれに伴う事後調査の予定については決まり次第、変更届を提出して報告する予定である。

別添表-3(1) 事後調査のスケジュール【変更後】



注 1) 事務所棟に係る解体工事については未実施であり、今後の工事の予定及びそれに伴う事後調査の予定については決まり次第、変更届を提出して報告する予定である。

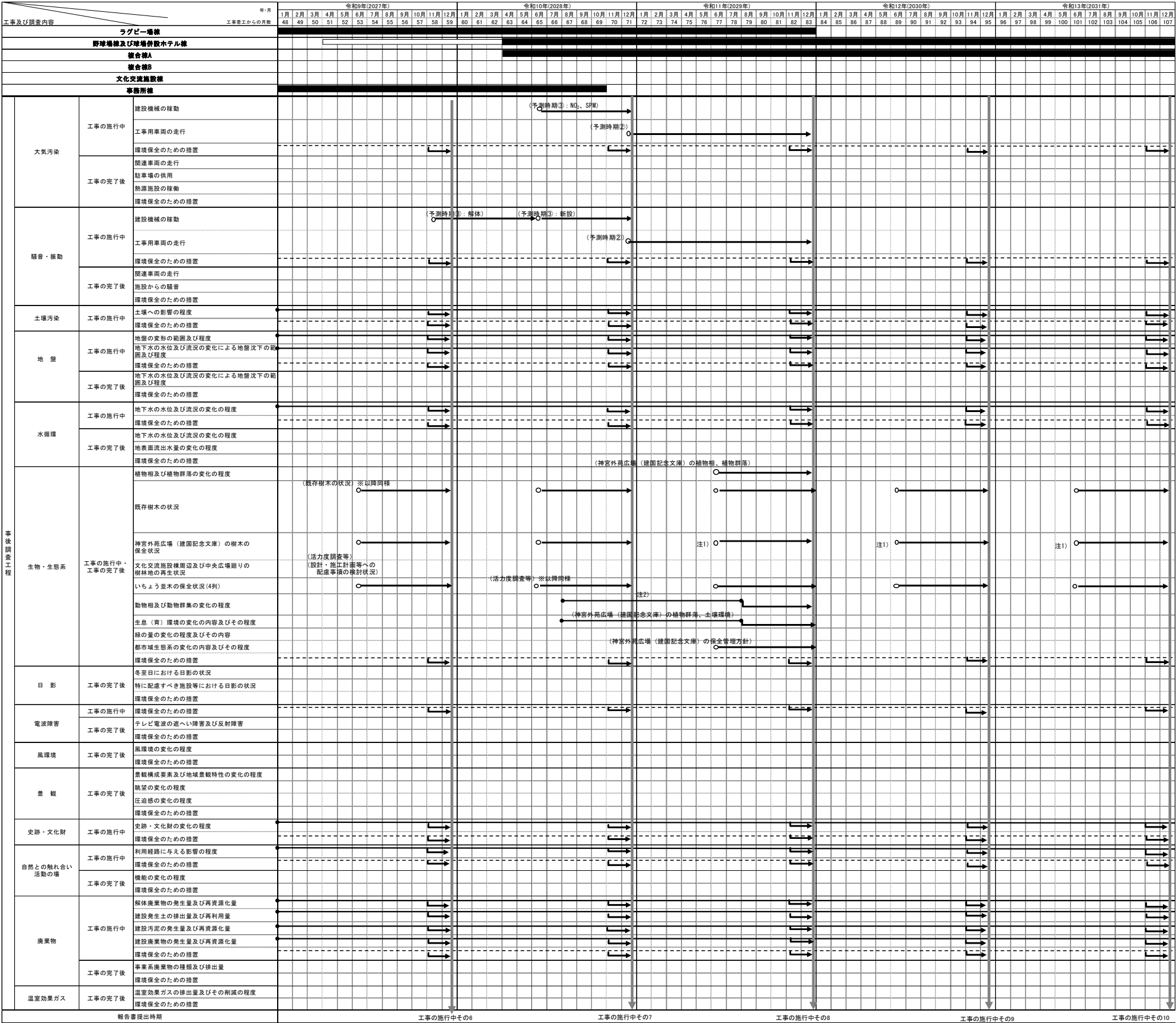
別添表-3(2) 事後調査のスケジュール【変更前】



別添表-4(1) 事後調査のスケジュール【変更後】

工事及び調査内容		令和9年(2027年)												令和10年(2028年)												令和11年(2029年)												令和12年(2030年)												令和13年(2031年)												令和14年(2032年)																																																																										
		5月 52	6月 53	7月 54	8月 55	9月 56	10月 57	11月 58	12月 59	1月 60	2月 61	3月 62	4月 63	5月 64	6月 65	7月 66	8月 67	9月 68	10月 69	11月 70	12月 71	1月 72	2月 73	3月 74	4月 75	5月 76	6月 77	7月 78	8月 79	9月 80	10月 81	11月 82	12月 83	1月 84	2月 85	3月 86	4月 87	5月 88	6月 89	7月 90	8月 91	9月 92	10月 93	11月 94	12月 95	1月 96	2月 97	3月 98	4月 99	5月 100	6月 101	7月 102	8月 103	9月 104	10月 105	11月 106	12月 107	1月 108	2月 109	3月 110	4月 111																																																																											
ラグビー場線																																																																																																																																								
野球場線及び球場併設ホテル線																																																																																																																																								
複合線A																																																																																																																																								
複合線B																																																																																																																																								
文化交流施設線																																																																																																																																								
事務所線																																																																																																																																								
事後調査工程	大気汚染	工事の施工中	建設機械の稼働	(予測時期③：NO _x 、SPM)																																																																																																																																				
			工事用車両の走行	(予測時期②)																																																																																																																																				
		工事の完了後	環境保全のための措置																																																																																																																																					
			関連車両の走行 駐車場の供用 熱源施設の稼働 環境保全のための措置																																																																																																																																					
	騒音・振動	工事の施工中	建設機械の稼働	(予測時期①：雑音) (予測時期③：新設)																																																																																																																																				
			工事用車両の走行	(予測時期②)																																																																																																																																				
		工事の完了後	環境保全のための措置																																																																																																																																					
			関連車両の走行 施設からの騒音 環境保全のための措置																																																																																																																																					
	土壌汚染	工事の施工中	土壌への影響の程度																																																																																																																																					
			環境保全のための措置																																																																																																																																					
	地盤	工事の施工中	地盤の変形の範囲及び程度																																																																																																																																					
			地下水の水位及び流況の変化による地盤沈下の範囲及び程度																																																																																																																																					
		工事の完了後	環境保全のための措置																																																																																																																																					
			地下水の水位及び流況の変化による地盤沈下の範囲及び程度 環境保全のための措置																																																																																																																																					
	水循環	工事の施工中	地下水の水位及び流況の変化の程度																																																																																																																																					
			環境保全のための措置																																																																																																																																					
		工事の完了後	地下水の水位及び流況の変化の程度																																																																																																																																					
			地表面流出水量の変化の程度 環境保全のための措置																																																																																																																																					
	生物・生態系	工事の施工中・工事の完了後	植物相及び植物群落の変化の程度	(既存樹木の状況 ※以降同様) (神宮外苑広場（建園記念文庫）の植物相、植物群落)																																																																																																																																				
			既存樹木の状況	(移植様封樹木の状況)																																																																																																																																				
神宮外苑広場（建園記念文庫）の樹木の保全状況			注1)																																																																																																																																					
文化交流施設構内周及び中央広場周辺の樹林地の再生状況			(活力度調査等) (設計・施工計画等への配慮事項の検討状況)																																																																																																																																					
いちよう並木の実況状況(4列)			注2)																																																																																																																																					
動物相及び動物群落の変化の程度																																																																																																																																								
生態（青）環境の変化の内容及びその程度			(神宮外苑広場（建園記念文庫）の植物群落、土壌環境)																																																																																																																																					
緑の量の変化の程度及びその内容																																																																																																																																								
都市域生態系の変化の内容及びその程度			(神宮外苑広場（建園記念文庫）の保全管理方針)																																																																																																																																					
環境保全のための措置																																																																																																																																								
日影			工事の完了後	冬至日における日影の状況																																																																																																																																				
				特に配慮すべき施設等における日影の状況 環境保全のための措置																																																																																																																																				
電波障害			工事の完了後	テレビ電波の遮へい障害及び反射障害																																																																																																																																				
				環境保全のための措置																																																																																																																																				
風環境	工事の完了後	風環境の変化の程度																																																																																																																																						
		環境保全のための措置																																																																																																																																						
景観	工事の完了後	景観構成要素及び地域景観特性の変化の程度																																																																																																																																						
		眺望の変化の程度																																																																																																																																						
		圧迫感の変化の程度																																																																																																																																						
		環境保全のための措置																																																																																																																																						
史跡・文化財	工事の施工中	史跡・文化財の変化の程度																																																																																																																																						
		環境保全のための措置																																																																																																																																						
自然との触れ合い活動の場	工事の完了後	利用経路に与える影響の程度																																																																																																																																						
		機能の変化の程度 環境保全のための措置																																																																																																																																						
廃棄物	工事の完了後	解体廃棄物の発生量及び再資源化量																																																																																																																																						
		建設発生土の排出量及び再利用量																																																																																																																																						
		建設汚泥の発生量及び再資源化量																																																																																																																																						
		建設廃棄物の発生量及び再資源化量																																																																																																																																						
		環境保全のための措置																																																																																																																																						
		事業系廃棄物の種類及び排出量 環境保全のための措置																																																																																																																																						
温室効果ガス	工事の完了後	温室効果ガスの排出量及びその削減の程度																																																																																																																																						
		環境保全のための措置																																																																																																																																						
報告書提出時期		工事の施工中その6 工事の施工中その7 工事の施工中その8 工事の施工中その9 工事の施工中その10																																																																																																																																						
凡 例		○：調査時点 ⇄：継続調査 →：報告 - - -：継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。																																																																																																																																						

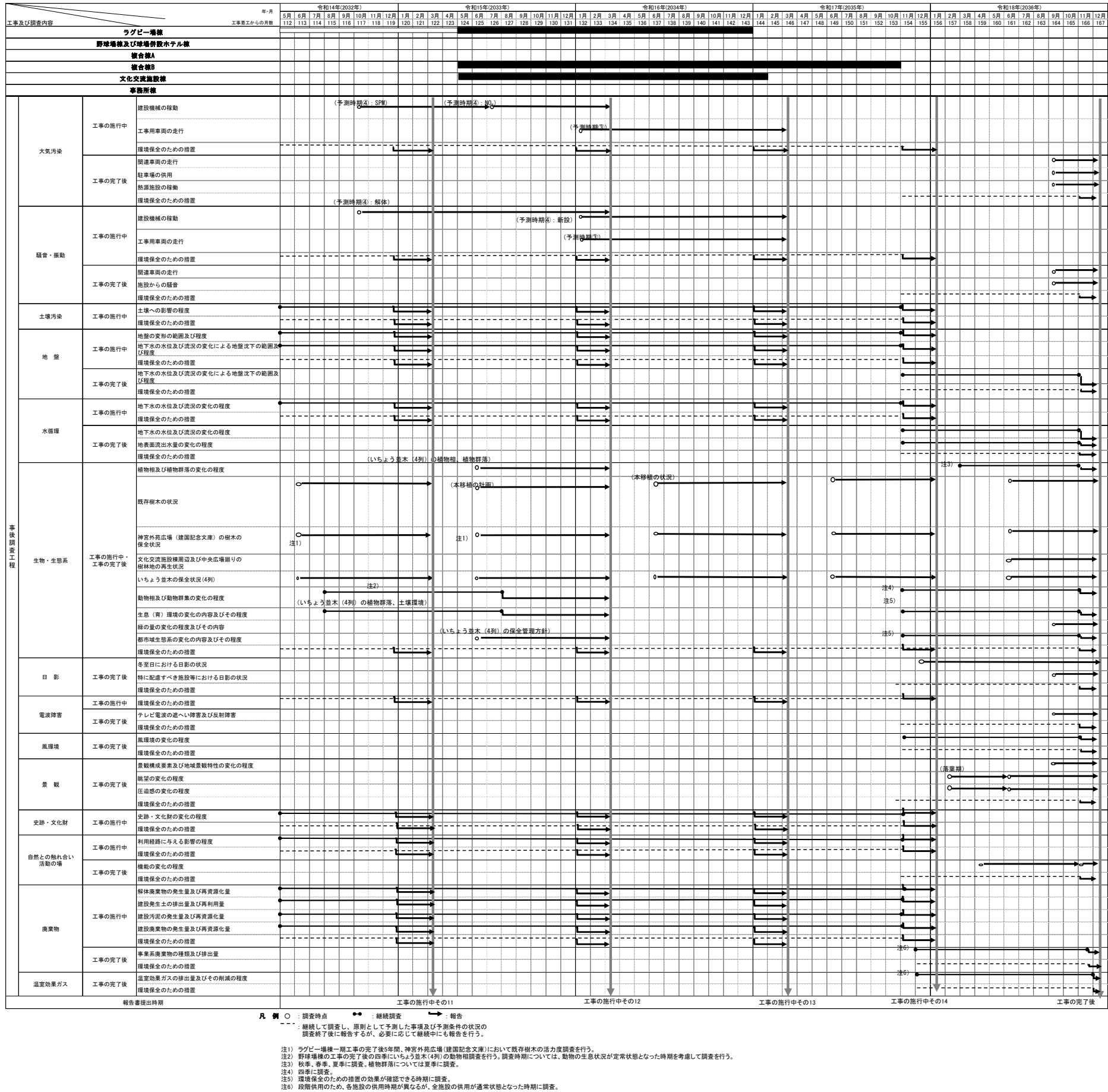
別添表-4(2) 事後調査のスケジュール【変更前】



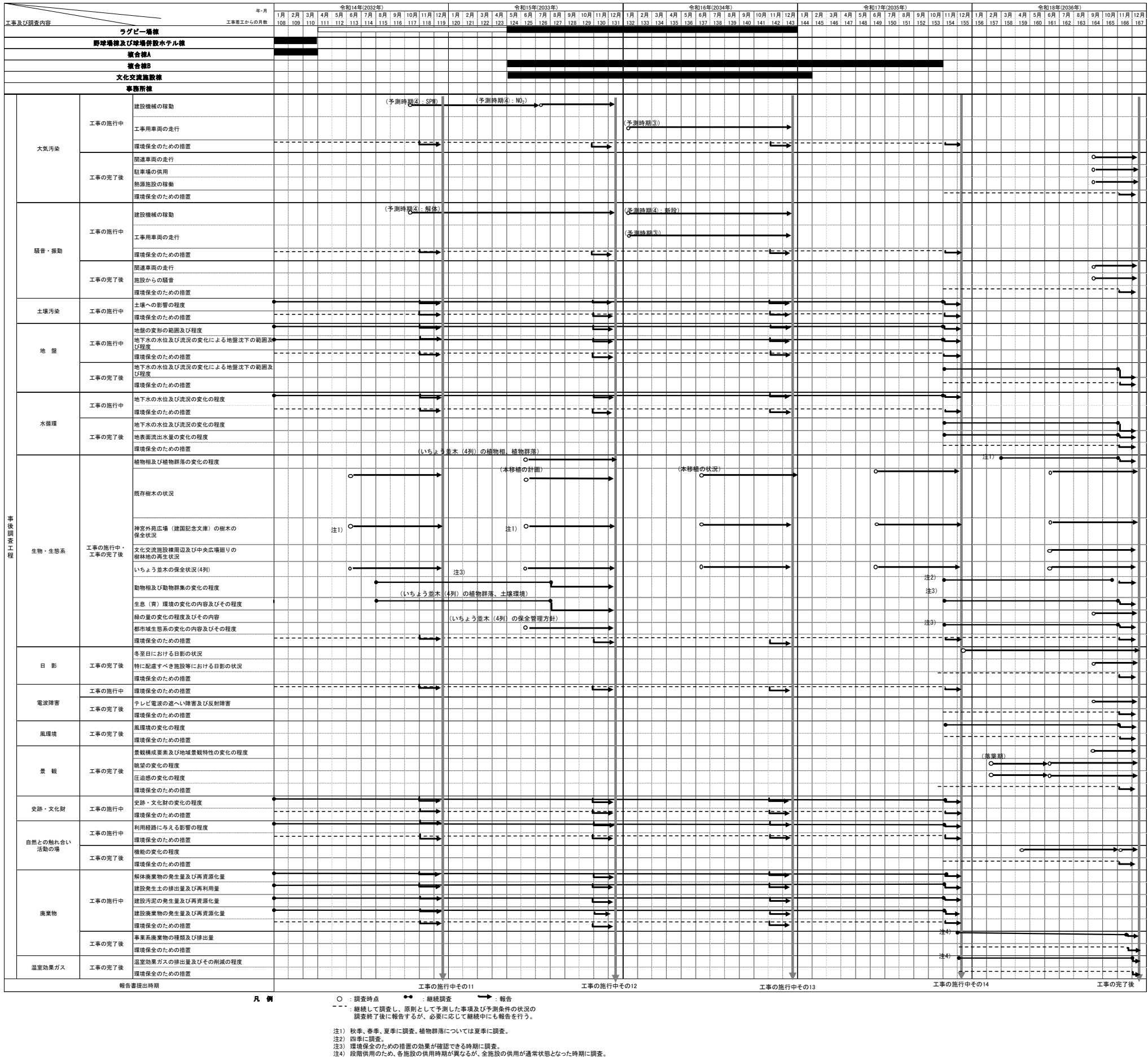
○：調査時点
――：継続調査
――：継続して調査し、原則として予測した事項及び予測条件の状況の調査終了後に報告するが、必要に応じて継続中にも報告を行う。

注1) ラグビー場棟一期工事の完了後5年間、神宮外苑広場(建國記念文庫)において既存樹木の活力度調査を行う。
注2) ラグビー場棟二期工事の完了後の四季に神宮外苑広場(建國記念文庫)の動物相調査を行う。
注3) 野球場棟の工事の完了後の四季にいちよう並木(4列)の動物相調査を行う。

別添表-5(1) 事後調査のスケジュール【変更後】



別添表-5(2) 事後調査のスケジュール【変更前】



資 料 編

目 次

■大気汚染・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 119～122
■騒音・振動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 123～124
■毎木調査エリア図及び枯損等一覧表・・・・・・・・	p. 125～139
■樹木調査診断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 140
■いちよう並木（4列）等の毎木調査結果一覧	
・5月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 141～150
・7月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 151～160
・10月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 161～170
■いちよう並木（4列）等の毎木調査結果の推移	p. 171～173
■2024年10月時点で活力度Cとなったいちようの評価	p. 174～177

■ 大気汚染

(1) 建設機械の稼働に伴う大気汚染の調査結果

調査項目：二酸化窒素 (NO₂)

2023年	12/19 (火)	12/20 (水)	12/21 (木)	12/22 (金)	12/23 (土)	12/24 (日)	12/25 (月)	合計	有効 数	平均	最低	最高	単位：ppm 同左起日
1 時	0.032	0.028	0.043	0.020	0.007	0.013	0.021	0.164	7	0.023	0.007	0.043	12/21
2 時	0.029	0.023	0.042	0.023	0.007	0.017	0.023	0.164	7	0.023	0.007	0.042	12/21
3 時	0.017	0.016	0.035	0.021	0.010	0.018	0.027	0.144	7	0.021	0.010	0.035	12/21
4 時	0.013	0.014	0.030	0.020	0.012	0.013	0.029	0.131	7	0.019	0.012	0.030	12/21
5 時	0.011	0.018	0.026	0.026	0.018	0.016	0.030	0.145	7	0.021	0.011	0.030	12/25
6 時	0.012	0.020	0.016	0.025	0.015	0.019	0.031	0.138	7	0.020	0.012	0.031	12/25
7 時	0.016	0.026	0.016	0.018	0.020	0.018	0.028	0.142	7	0.020	0.016	0.028	12/25
8 時	0.022	0.030	0.024	0.023	0.030	0.020	0.032	0.181	7	0.026	0.020	0.032	12/25
9 時	0.024	0.026	0.026	0.016	0.028	0.017	0.036	0.173	7	0.025	0.016	0.036	12/25
10 時	0.025	0.028	0.025	0.015	0.022	0.023	0.031	0.169	7	0.024	0.015	0.031	12/25
11 時	0.020	0.027	0.014	0.020	0.016	0.018	0.034	0.149	7	0.021	0.014	0.034	12/25
12 時	0.017	0.024	0.010	0.022	0.009	0.014	0.036	0.132	7	0.019	0.009	0.036	12/25
13 時	0.016	0.021	0.005	0.014	0.009	0.017	0.034	0.116	7	0.017	0.005	0.034	12/25
14 時	0.020	0.043	0.013	0.010	0.015	0.017	0.034	0.152	7	0.022	0.010	0.043	12/20
15 時	0.024	0.044	0.012	0.007	0.019	0.017	0.070	0.193	7	0.028	0.007	0.070	12/25
16 時	0.031	0.044	0.012	0.013	0.024	0.023	0.051	0.198	7	0.028	0.012	0.051	12/25
17 時	0.028	0.059	0.016	0.016	0.037	0.025	0.060	0.241	7	0.034	0.016	0.060	12/25
18 時	0.030	0.055	0.014	0.013	0.042	0.028	0.046	0.228	7	0.033	0.013	0.055	12/20
19 時	0.032	0.054	0.026	0.014	0.045	0.028	0.047	0.246	7	0.035	0.014	0.054	12/20
20 時	0.029	0.047	0.009	0.009	0.049	0.020	0.047	0.210	7	0.030	0.009	0.049	12/23
21 時	0.032	0.045	0.010	0.013	0.033	0.028	0.044	0.205	7	0.029	0.010	0.045	12/20
22 時	0.030	0.050	0.010	0.006	0.018	0.026	0.043	0.183	7	0.026	0.006	0.050	12/20
23 時	0.027	0.052	0.018	0.005	0.020	0.029	0.032	0.183	7	0.026	0.005	0.052	12/20
24 時	0.032	0.048	0.021	0.005	0.016	0.027	0.026	0.175	7	0.025	0.005	0.048	12/20
合計	0.569	0.842	0.473	0.374	0.521	0.491	0.892	4.162					
有効数	24	24	24	24	24	24	24		168				
平均	0.024	0.035	0.020	0.016	0.022	0.020	0.037			0.025	0.016	0.037	12/25
最低	0.011	0.014	0.005	0.005	0.007	0.013	0.021			0.017	0.005		
最高	0.032	0.059	0.043	0.026	0.049	0.029	0.070			0.035		0.070	12/25 15時
同上起時	1時	17時	1時	5時	20時	23時	15時			19時			
	19時												
	21時他												
	計4時間帯												

調査項目：浮遊粒子状物質 (SPM)

2023年	12/19 (火)	12/20 (水)	12/21 (木)	12/22 (金)	12/23 (土)	12/24 (日)	12/25 (月)	合計	有効 数	平均	最低	最高	単位：mg/m ³ 同左起日
1 時	0.012	0.015	0.027	0.000	0.001	0.012	0.017	0.084	7	0.012	0.000	0.027	12/21
2 時	0.011	0.015	0.032	0.000	0.003	0.006	0.013	0.080	7	0.011	0.000	0.032	12/21
3 時	0.004	0.015	0.023	0.010	0.006	0.006	0.017	0.081	7	0.012	0.004	0.023	12/21
4 時	0.005	0.014	0.018	0.001	0.007	0.008	0.027	0.080	7	0.011	0.001	0.027	12/25
5 時	0.005	0.013	0.009	0.000	0.000	0.008	0.012	0.047	7	0.007	0.000	0.013	12/20
6 時	0.005	0.012	0.007	0.006	0.000	0.007	0.020	0.057	7	0.008	0.000	0.020	12/25
7 時	0.006	0.016	0.007	0.005	0.004	0.007	0.020	0.065	7	0.009	0.004	0.020	12/25
8 時	0.006	0.014	0.005	0.007	0.004	0.005	0.013	0.054	7	0.008	0.004	0.014	12/20
9 時	0.009	0.014	0.006	0.006	0.006	0.011	0.018	0.070	7	0.010	0.006	0.018	12/25
10 時	0.005	0.019	0.007	0.002	0.007	0.013	0.013	0.066	7	0.009	0.002	0.019	12/20
11 時	0.006	0.018	0.003	0.004	0.007	0.013	0.016	0.067	7	0.010	0.003	0.018	12/20
12 時	0.004	0.015	0.007	0.006	0.008	0.010	0.020	0.070	7	0.010	0.004	0.020	12/25
13 時	0.005	0.005	0.007	0.006	0.004	0.013	0.004	0.044	7	0.006	0.004	0.013	12/24
14 時	0.010	0.021	0.012	0.004	0.009	0.007	0.017	0.080	7	0.011	0.004	0.021	12/20
15 時	0.011	0.020	0.011	0.010	0.010	0.011	0.012	0.085	7	0.012	0.010	0.020	12/20
16 時	0.021	0.021	0.007	0.007	0.006	0.019	0.009	0.090	7	0.013	0.006	0.021	12/19, 12/20
17 時	0.016	0.034	0.005	0.006	0.005	0.011	0.018	0.095	7	0.014	0.005	0.034	12/20
18 時	0.017	0.026	0.006	0.000	0.001	0.016	0.019	0.085	7	0.012	0.000	0.026	12/20
19 時	0.016	0.028	0.007	0.005	0.007	0.023	0.020	0.106	7	0.015	0.005	0.028	12/20
20 時	0.018	0.024	0.003	0.003	0.047	0.021	0.030	0.146	7	0.021	0.003	0.047	12/23
21 時	0.022	0.049	0.003	0.004	0.011	0.023	0.025	0.137	7	0.020	0.003	0.049	12/20
22 時	0.027	0.037	0.002	0.005	0.006	0.017	0.033	0.127	7	0.018	0.002	0.037	12/20
23 時	0.023	0.034	0.007	0.002	0.006	0.016	0.013	0.101	7	0.014	0.002	0.034	12/20
24 時	0.016	0.028	0.003	0.003	0.007	0.017	0.013	0.087	7	0.012	0.003	0.028	12/20
合計	0.280	0.507	0.224	0.102	0.172	0.300	0.419	2.004					
有効数	24	24	24	24	24	24	24		168				
平均	0.012	0.021	0.009	0.004	0.007	0.013	0.017			0.012	0.004	0.021	12/20
最低	0.004	0.005	0.002	0.000	0.000	0.005	0.004			0.006	0.000		
最高	0.027	0.049	0.032	0.010	0.047	0.023	0.033			0.021		0.049	12/20 21時
同上起時	22時	21時	2時	3時 15時	20時	19時 21時	22時			20時			

(3) 気象の状況

調査地点：東京京管区気象台

調査期間：令和5年12月19日（火）～12月25日（月）

調査項目：風向

時	日（曜）	19日 （火）	20日 （水）	21日 （木）	22日 （金）	23日 （土）	24日 （日）	25日 （月）	測定数
0:00～1:00		北西	北西	北西	西北西	北西	西北西	西	7
1:00～2:00		北	北西	南西	西北西	西北西	北	北西	7
2:00～3:00		北西	西北西	南西	西	北	北	北西	7
3:00～4:00		北北東	西北西	西南西	西	西北西	北北西	西	7
4:00～5:00		北	北北西	南南西	北北東	北	北北東	北西	7
5:00～6:00		北北西	西北西	南南西	北	北北西	北東	西北西	7
6:00～7:00		北西	西北西	南西	北東	北西	北北西	北西	7
7:00～8:00		北	西北西	南西	北	西北西	北北東	北西	7
8:00～9:00		北	西	西南西	北西	西	北	北西	7
9:00～10:00		北	南南東	西南西	西北西	北北西	西北西	北東	7
10:00～11:00		北北西	西南西	南西	南東	東	西北西	北	7
11:00～12:00		北北東	南	南南西	南東	南南東	北西	北北東	7
12:00～13:00		北	南	南西	南南東	南	北西	北東	7
13:00～14:00		北東	南南東	南西	南	南南東	北	南南東	7
14:00～15:00		北北東	北東	南西	南	北東	北北東	北北西	7
15:00～16:00		北東	南	南西	南南西	南南東	南	北	7
16:00～17:00		南南東	南	南西	南	南	北	北	7
17:00～18:00		南南東	南	北西	北西	南	北北東	北北東	7
18:00～19:00		北北西	南南東	西北西	西北西	西	北	北北西	7
19:00～20:00		北	南南東	北西	西北西	北西	北北西	北西	7
20:00～21:00		北	北北東	北西	北西	北西	北西	西北西	7
21:00～22:00		北北西	北	西北西	北西	北西	西北西	北西	7
22:00～23:00		北北西	北	西南西	北西	北西	北西	北西	7
23:00～24:00		西北西	北北東	北北西	北西	北西	北西	北西	7
最多風向		北	西北西	南西	北西	北西	北	北西	北西
最多風向出現率		33.3%	20.8%	41.7%	25.0%	29.2%	25.0%	41.7%	22.0%
静穏率		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
測定数		24	24	24	24	24	24	24	168

調査地点:東京管区気象台

調査期間:令和5年12月19日(火)～12月25日(月)

調査項目:風速

									単位:m/s			
時	日(曜)	19日 (火)	20日 (水)	21日 (木)	22日 (金)	23日 (土)	24日 (日)	25日 (月)	最高	最低	平均	測定数
	0:00～1:00	1.5	3.0	0.8	1.0	3.5	1.5	1.5	3.5	0.8	1.8	7
	1:00～2:00	1.8	2.9	2.9	1.6	1.8	2.1	1.9	2.9	1.6	2.1	7
	2:00～3:00	2.1	2.4	4.0	1.9	1.0	1.1	0.9	4.0	0.9	1.9	7
	3:00～4:00	1.6	0.9	2.0	2.6	2.0	1.3	0.8	2.6	0.8	1.6	7
	4:00～5:00	1.4	1.7	3.2	1.5	1.0	1.2	1.4	3.2	1.0	1.6	7
	5:00～6:00	1.5	1.3	3.8	2.0	1.9	1.9	1.8	3.8	1.3	2.0	7
	6:00～7:00	1.7	1.4	1.7	1.5	1.0	1.5	1.0	1.7	1.0	1.4	7
	7:00～8:00	1.5	1.9	2.7	1.5	1.3	1.7	1.4	2.7	1.3	1.7	7
	8:00～9:00	0.8	1.3	4.1	1.7	0.8	1.5	1.3	4.1	0.8	1.6	7
	9:00～10:00	1.7	0.9	2.8	1.0	1.0	2.4	1.8	2.8	0.9	1.7	7
	10:00～11:00	2.0	1.3	3.5	3.7	0.8	1.8	1.1	3.7	0.8	2.0	7
	11:00～12:00	1.6	1.8	2.9	4.0	3.0	1.6	2.0	4.0	1.6	2.4	7
	12:00～13:00	1.4	1.4	4.0	2.7	2.1	1.7	2.4	4.0	1.4	2.2	7
	13:00～14:00	1.9	1.7	4.5	3.8	3.3	1.8	1.5	4.5	1.5	2.6	7
	14:00～15:00	2.0	1.4	5.2	4.2	1.5	1.8	0.9	5.2	0.9	2.4	7
	15:00～16:00	2.1	2.0	3.5	2.9	1.5	0.7	1.8	3.5	0.7	2.1	7
	16:00～17:00	1.6	2.4	1.9	1.5	1.1	1.9	2.0	2.4	1.1	1.8	7
	17:00～18:00	0.9	2.2	2.1	4.0	2.3	2.0	1.7	4.0	0.9	2.2	7
	18:00～19:00	0.8	2.4	2.6	3.3	1.3	0.6	1.2	3.3	0.6	1.7	7
	19:00～20:00	1.8	1.2	3.2	2.7	1.3	0.9	2.2	3.2	0.9	1.9	7
	20:00～21:00	1.5	1.3	2.3	5.1	2.7	1.2	2.7	5.1	1.2	2.4	7
	21:00～22:00	1.6	1.8	2.4	4.3	1.0	2.6	3.1	4.3	1.0	2.4	7
	22:00～23:00	1.0	1.2	1.2	4.5	2.8	1.8	2.1	4.5	1.0	2.1	7
	23:00～24:00	2.8	1.4	1.3	3.5	1.6	1.6	3.5	3.5	1.3	2.2	7
	最高	2.8	3.0	5.2	5.1	3.5	2.6	3.5	5.2			
	最低	0.8	0.9	0.8	1.0	0.8	0.6	0.8		0.6		
	平均	1.6	1.7	2.9	2.8	1.7	1.6	1.8			2.0	
	測定数	24	24	24	24	24	24	24				168

■ 騒音・振動

(1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音の調査結果

調査日：令和5年12月20日(水)

[単位：dB]

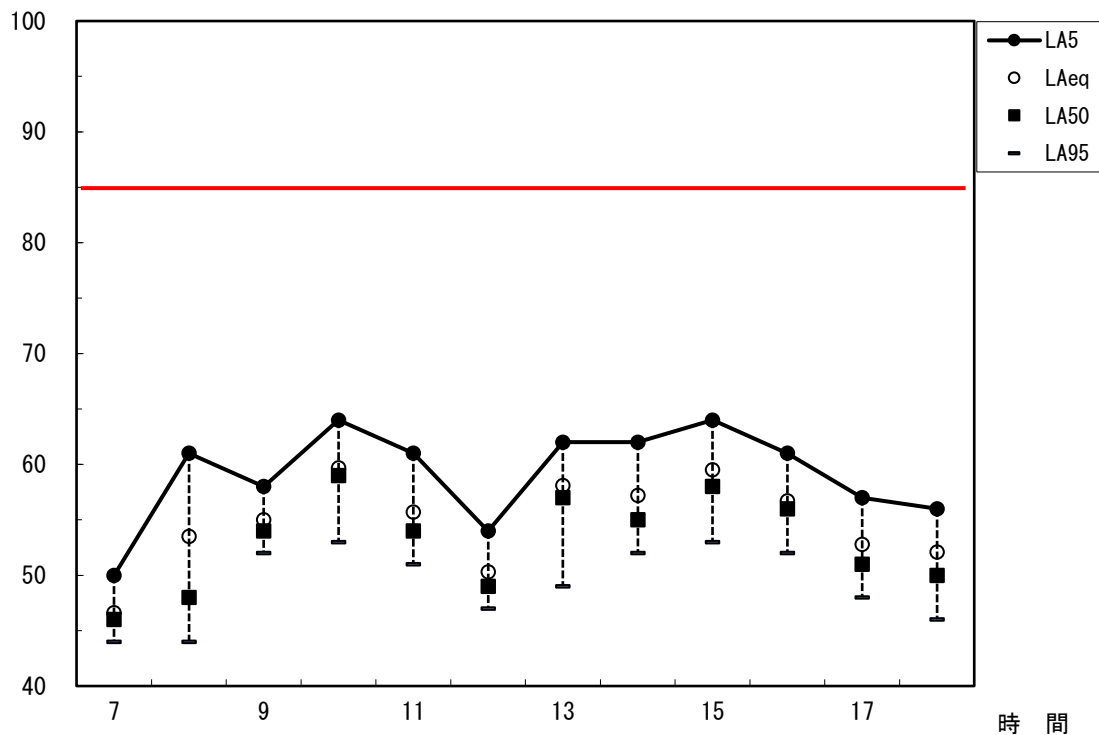
測定時間	等価騒音レベル	時間率騒音レベル		
	L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A50}	L_{A95}
7:00～8:00	46.6	50.0	46.0	44.0
8:00～9:00	53.5	61.0	48.0	44.0
9:00～10:00	55.0	58.0	54.0	52.0
10:00～11:00	59.7	64.0	59.0	53.0
11:00～12:00	55.7	61.0	54.0	51.0
12:00～13:00	50.3	54.0	49.0	47.0
13:00～14:00	58.1	62.0	57.0	49.0
14:00～15:00	57.2	62.0	55.0	52.0
15:00～16:00	59.5	64.0	58.0	53.0
16:00～17:00	56.7	61.0	56.0	52.0
17:00～18:00	52.8	57.0	51.0	48.0
18:00～19:00	52.1	56.0	50.0	46.0
全時間平均	56	59	53	49

注1) 全時間の等価騒音レベルは、エネルギー平均値である。

2) 全時間の時間率騒音レベルは、算術平均値である。

3) 太枠は最大値を示す。

騒音レベル[dB]



注) 赤線は、環境確保条例による指定建設作業に適用する騒音の勧告基準（85dB）を示す。

(2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動の調査結果

調 査 日：令和 5 年 12 月 20 日(水)

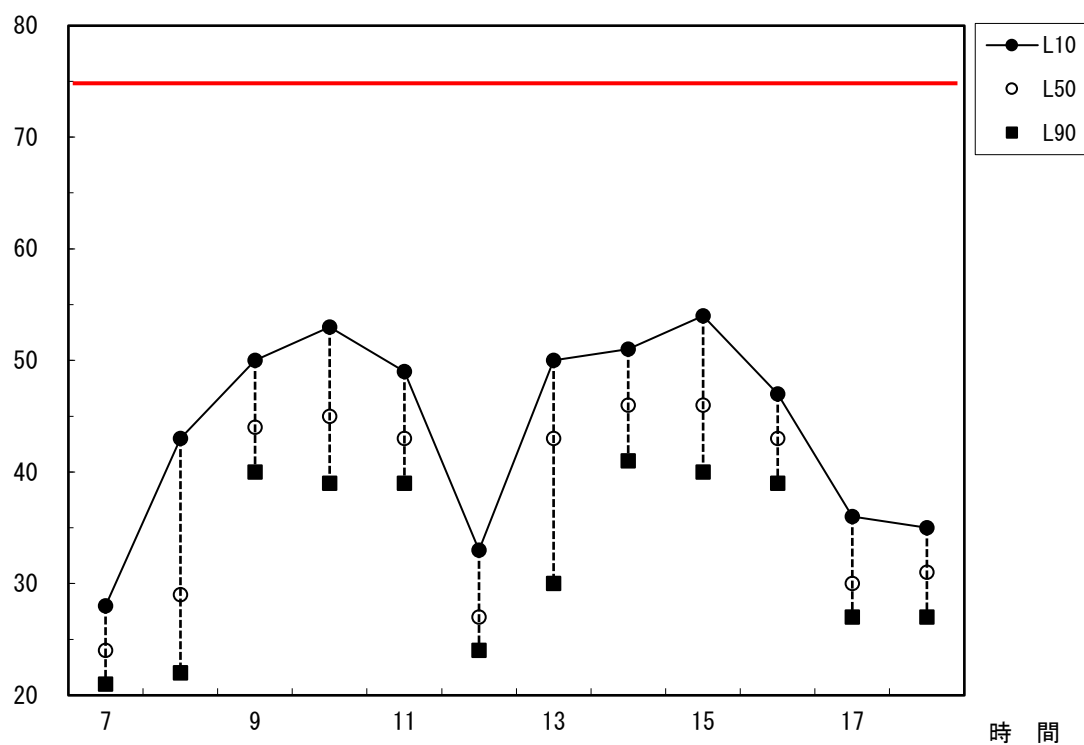
[単位：dB]

測定時間	時間率振動レベル		
	L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀
7:00～8:00	28.0	24.0	21.0
8:00～9:00	43.0	29.0	22.0
9:00～10:00	50.0	44.0	40.0
10:00～11:00	53.0	45.0	39.0
11:00～12:00	49.0	43.0	39.0
12:00～13:00	33.0	27.0	24.0
13:00～14:00	50.0	43.0	30.0
14:00～15:00	51.0	46.0	41.0
15:00～16:00	54.0	46.0	40.0
16:00～17:00	47.0	43.0	39.0
17:00～18:00	36.0	30.0	27.0
18:00～19:00	35.0	31.0	27.0
全時間平均	44	38	32

注 1) 全時間の時間率振動レベルは、算術平均値である。

2) 太枠は最大値を示す。

振動レベル[dB]



注) 赤線は、環境確保条例による指定建設作業に適用する振動の勧告基準（75dB）を示す

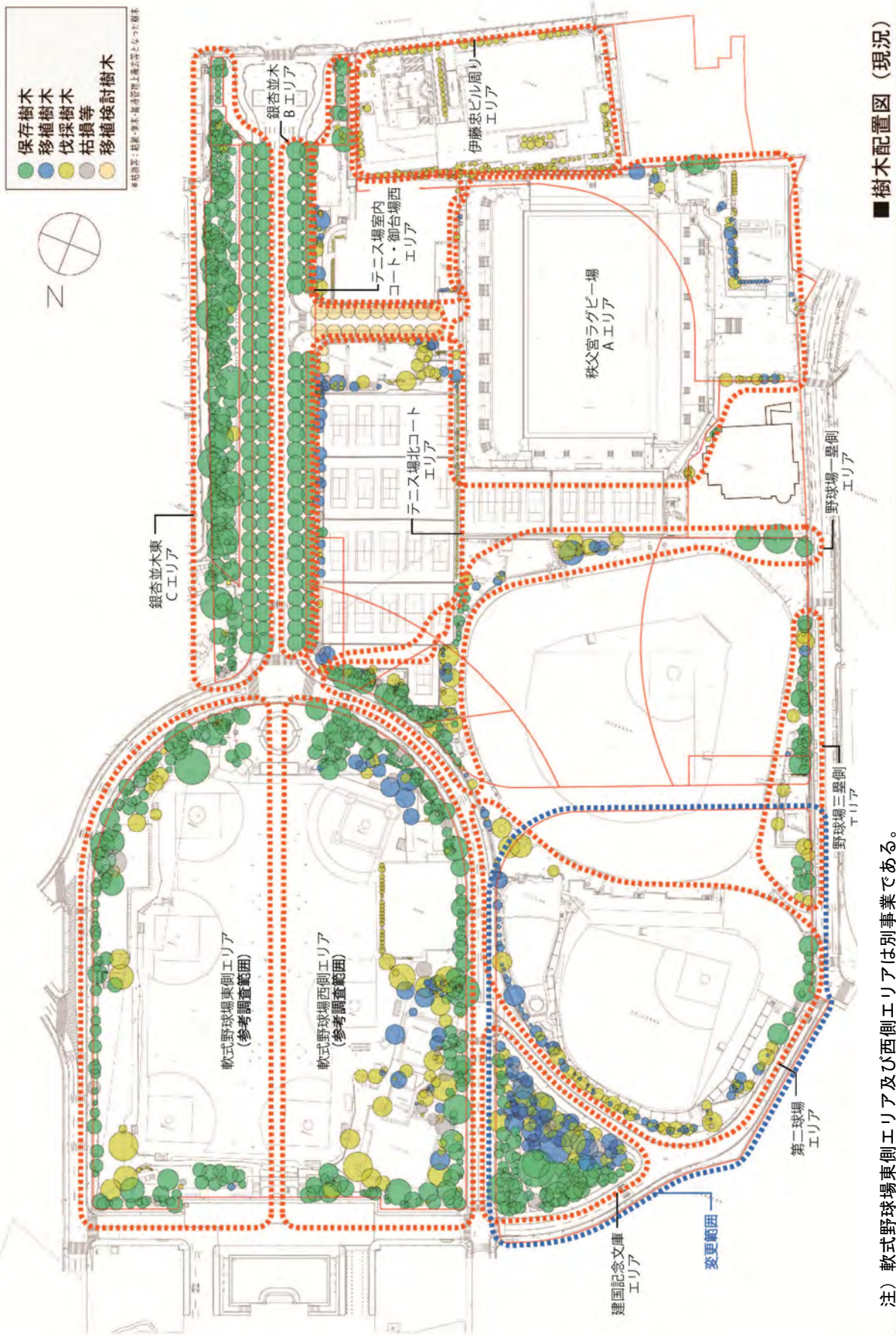
■毎木調査エリア図及び枯損等一覧表

計画地全体の存置、移植、伐採樹木の配置は、資料図-1～14 に示すとおりである。

このうち、令和 6 年 9 月以降に枯損等となった樹木は、資料表-1 に示すとおりである。

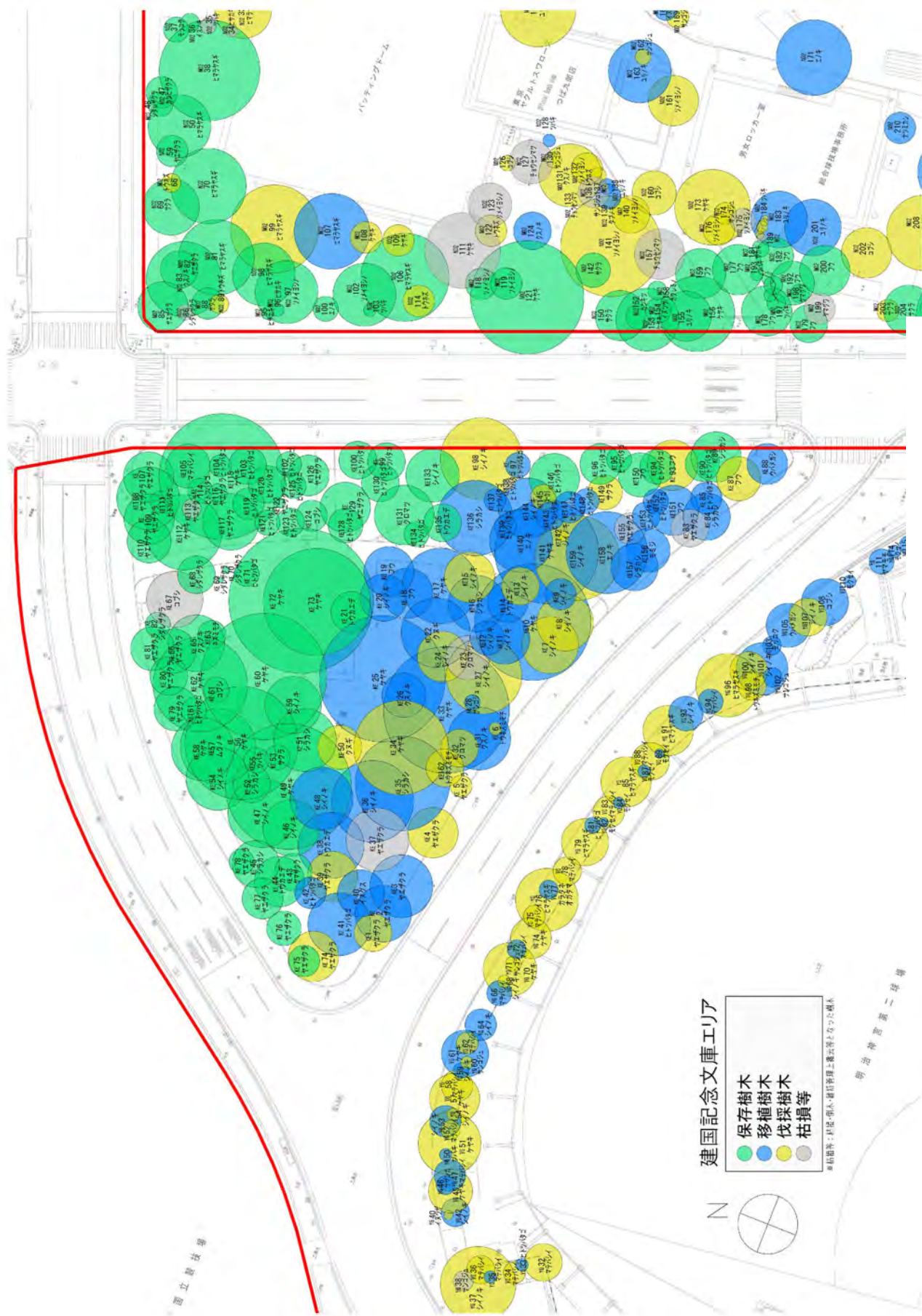
資料表-1 令和 6 年 9 月以降に枯損等となった樹木一覧

エリア	枯損等樹木	備考
建国記念文庫	KE-001 ヤエザクラ（伐採対象樹木）	
建国記念文庫	KE-004 ヤエザクラ（伐採対象樹木）	
野球場 3 塁側	Y01-011 マテバシイ（存置対象樹木）	令和 5 年の樹木調査における所見は下記のとおり。 ⇒根本・幹 H0.1m～4.0m に開口空洞（大）（芯達）あり。被害が進行中であり、幹折れの可能性あり。枝にてんぐ巣病の症状が多数あり。土留め壁が根元にあり。
野球場 3 塁側	Y01-041 シイノキ（伐採対象樹木）	
野球場 3 塁側	Y01-043 シイノキ（伐採対象樹木）	

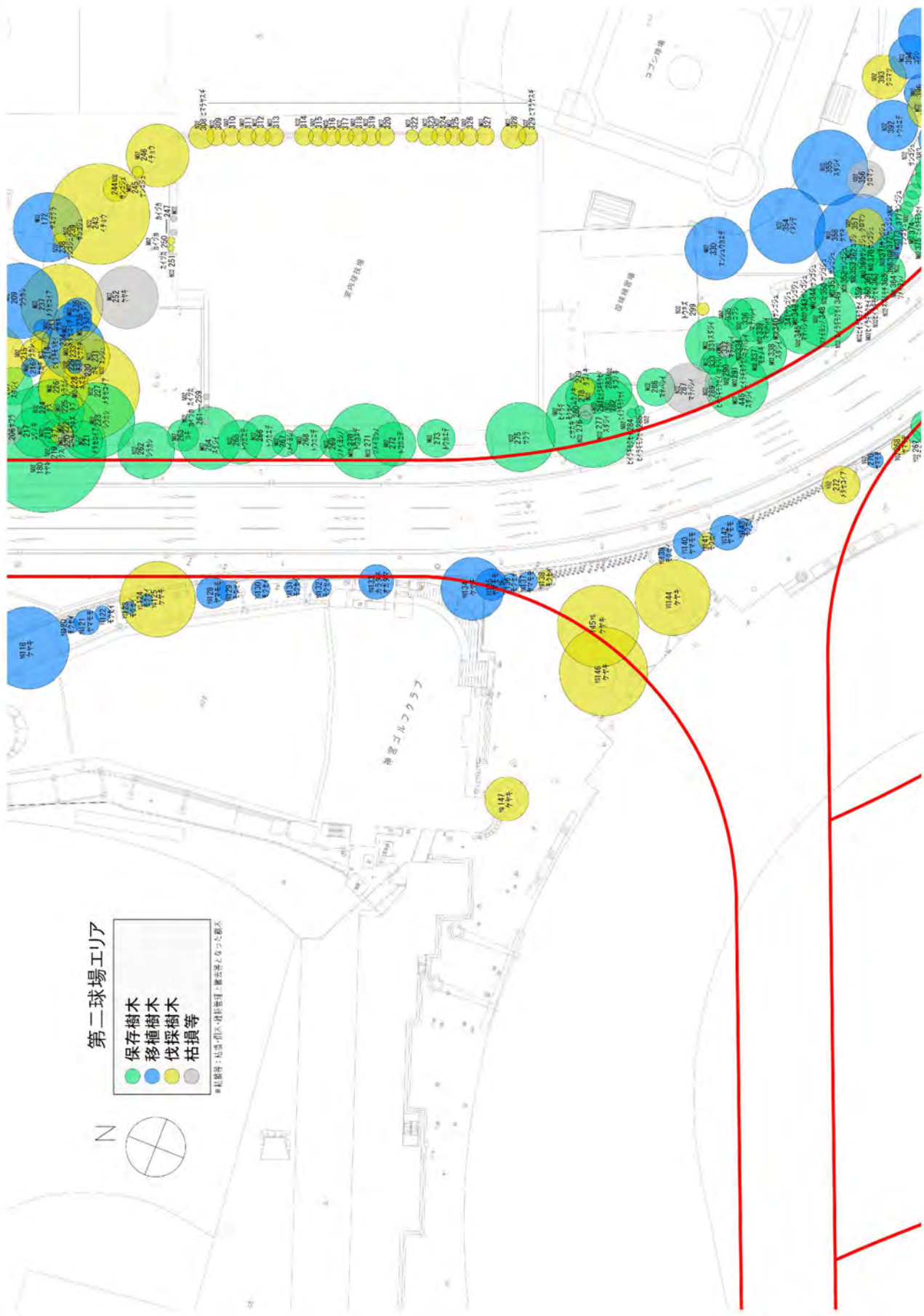


注) 軟式野球場東側エリア及び西側エリアは別事業である。

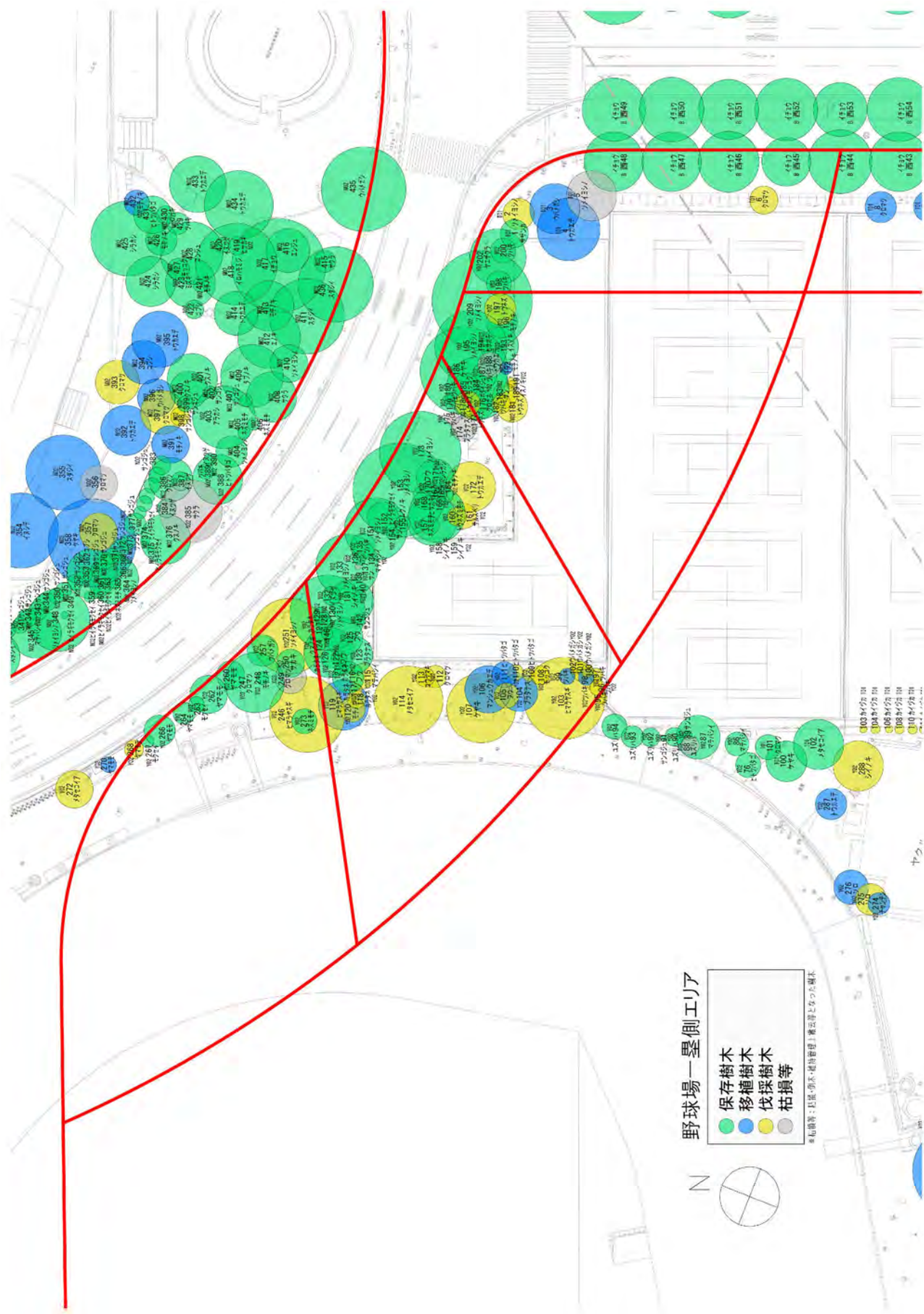
資料図-1 毎木調査エリア (計画地全体)



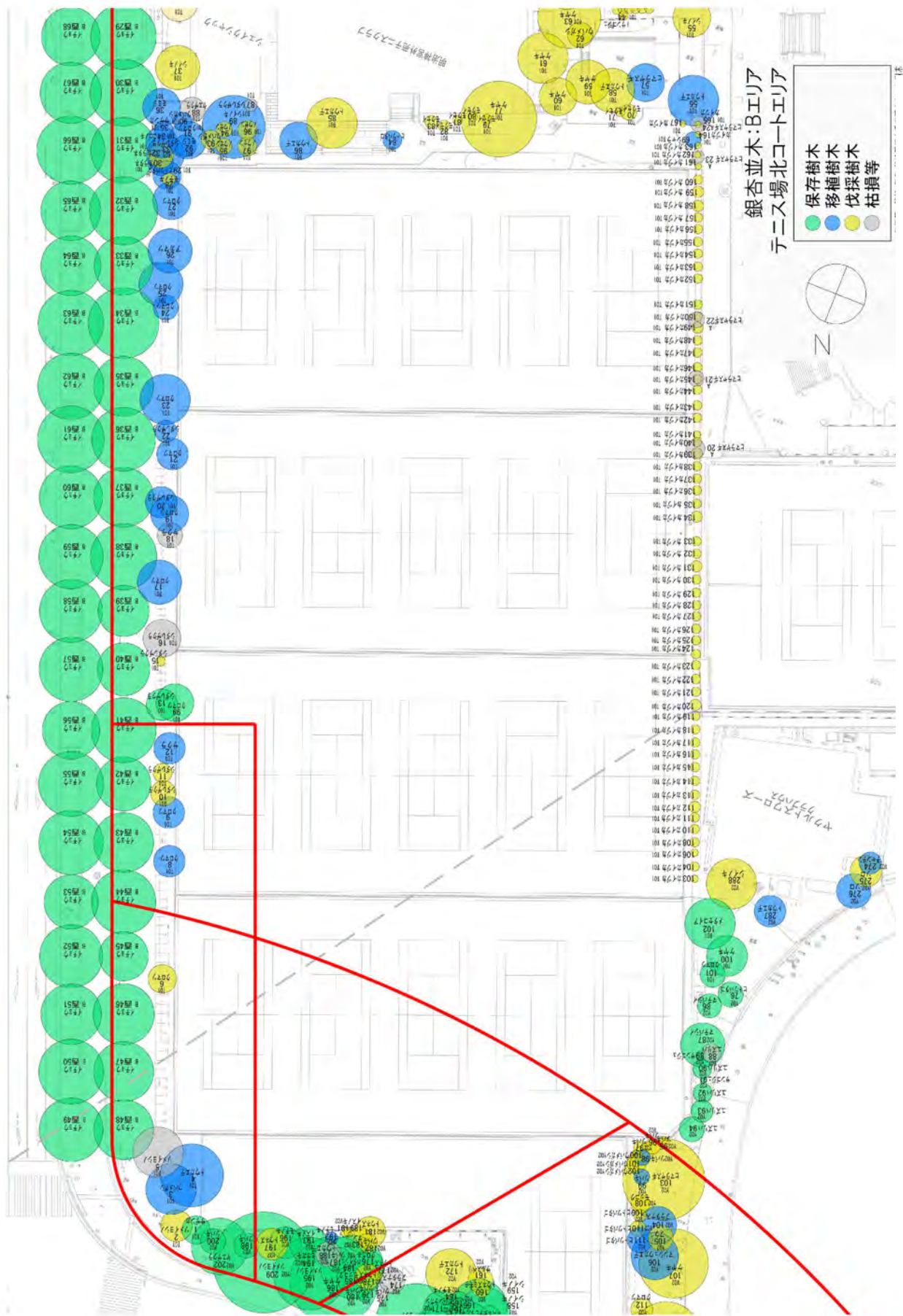
資料図-2 毎木調査エリア（建国記念文庫エリア）



資料図-4 毎木調査エリア（第二球場エリア）



資料図-7 毎木調査エリア（野球場一塁側エリア・テニス場北コートエリア・银杏並木Bエリア）





資料図-11 毎木調査エリア（秩父宮ラグビー場 A エリア 伊藤忠ビル周りエリア）

銀杏並木:Bエリア
銀杏並木東:Cエリア



※枯損等：状況・樹種・樹齢等により異なる

目上ー山崎交差点付近

北山一丁目交差点



資料図-12 毎木調査エリア（銀杏並木Bエリア 銀杏並木東Cエリア）

銀杏並木:Bエリア
銀杏並木東:Cエリア

- 保存樹木
- 移植樹木
- 伐採樹木
- 枯損等
- 移植検討樹木

※図面は、現地調査・地籍調査と照合されたもの



北側山一丁目アパート

北側山一丁目アパート



資料図-13 毎木調査エリア（銀杏並木Bエリア 銀杏並木東Cエリア）

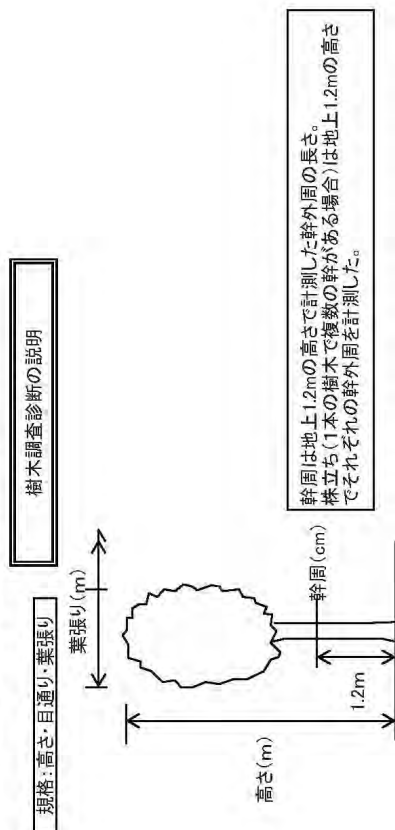
樹木調査診断

活力度：樹勢・樹形等

1. 調査方法
外観による樹勢・樹形の評価調査と問題となる欠損・腐朽の有無、程度、木髓による幹空洞部分診断、等を外観調査から行った。
傾斜診断には枝の伸長、大枝・幹の欠損、樹皮の代謝、胴吹き・ヒコバエ等を加味して判定した。
枝・大枝・幹の枯損・腐朽は影響がある場合は備考に記載した(キノコも含める)。
活力度に関する評価項目は別紙記載の項目を行った。
2. 調査結果

調査結果を保存の可否と移植の可否、問題点と外観の特徴を記載した。

結果を下記の基準により、結果一覧にまとめた。



活力度調査
樹勢・樹形・枝伸長さ、大枝・幹の欠損・傷、梢端の枯損、枝葉の密度、葉形、葉の大きさ
葉色、ネクロシス各項目を1~4で評価(梢端の枯損に幹・大枝枯損も含める)

保存
活力度を主にしながら、樹種特性及び樹形等を総合的に加味した。

移植
移植の可・難・不可について評価する。保存の必要性の高・中に限った。
保存低については移植は不可判定とした。

参考項目
根元構造物の有無は移植評価の参考、片枝樹形(相互被圧含む)項目は樹勢、樹形の参考として記載

備考
外観からの特徴や特筆すべき点を記載した。

ネクロシスは壊死のことであるが、病害虫、汚染等による被害も加えた解釈とした。
(実際のネクロシスはほとんど無いため、病害虫、汚染等による被害を加えた判断とした。)

活力度の評価は落葉樹の葉の調査後、全ての項目の平均評価点を算出記載した。

評価	A	B	C	D
評価点	1.00~1.75	1.76~2.50	2.51~3.25	3.26~4.00
状態	両項、正常なもの	普通、正常に近い	悪化のかなり進んだもの	顕著に悪化の進んでいるもの

活力度測定項目				
樹勢	1 旺盛な生育状態を示すが、あまり目立たない	2 幾分影響を受けているが、あまり目立たない	3 異常が明らかに認められる	4 生育状態が極めて劣悪である
樹形	1 自然樹形を保っている	2 若干の乱れはあるが自然樹形に近い	3 自然樹形がかなり進んでいる	4 自然樹形が壊れ、奇形化している
枝伸長さ	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細かい	枝は極度に短小、しよが状の節間がある
大枝・幹の欠損・傷	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり目立つ	著しく目立つ、傷からの腐朽も著しい
梢端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い
枝葉の密度	正常、枝及び葉の密度バランスがとれている	普通、1に比べてやや劣る	やや疎	枯れ枝が多く葉の発生が少ない。密度が著しく疎
葉形	正常	少し歪みがある	変形が中程度	変形が著しい
葉の大きさ	正常	幾分小さい	中程度の小さい	著しく小さい
葉色	正常	やや異常	かなり異常	著しく異常
ネクロシス	なし	わずかにある	かなり多い	著しく多い
緑量	正常	幾分小さい	中程度の小さい	著しく小さい
褐変	なし	少し	かなり多い	全面
落葉	なし	少し	かなり多い	完全落葉

追加診断項目
イ 枝
チ 幹
ヨ 葉
ウ 梢
ン 節
ド 節間
ミ 葉
メ 葉色
ム 葉形
ム ネクロシス
ロ 緑量
ロ 褐変
ロ 落葉

保存の必要性	高・中・低
移植の評価	可
	難
	不可

活力度を主にしながら、樹種特性及び樹形等を総合的に加味して判断する。

移植をする際に活力度を参考に、樹勢・樹形の維持または回復が望める樹木

樹高や目通りが小さく物理的に移植が難しい樹木、または健全に活着することが難しい樹木

難A・B・Cに比べて移植難易度の高さを判断・分類を行い、その内、難A・B評価の樹木を移植対象とする。

樹木の活力度が低い樹木や、根鉢の適切な確保が難しいなど、移植を試みても健全に活着することが望めない樹木

注) 評価書時の診断方法に比べて赤四角で囲んだ診断項目(葉についての診断項目)を追加している。

評点：
 1.0
 1.5
 2.0
 2.5
 3.0
 3.5
 4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日																																
イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧													イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧																			
連番	樹木番号	規格			全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	備 考							
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西	葉張り 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	平均 評点	評価 結果	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ			葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	
1	東1	27.5	237	10.3	10.3	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.38	A	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.39	A	1.35	総合 評価 結果 赤 処置必要 黒 5月調査 緑 7月調査 茶 10月調査	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
2	東2	28.0	227		9.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.45	A	1.50	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
3	東3	29.5	267		10.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.61	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。	
4	東4	29.0	242		9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.61	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。	
5	東5	29.0	248		10.0	1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.64	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)cm。 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm。 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
6	東6	29.0	231		9.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.61	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
7	東7	30.0	200		8.3	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.61	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
8	東8	28.0	227		9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
9	東9	28.0	214		7.7	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.61	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)cm。 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
10	東10	27.5	194		9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
11	東11	28.5	308		9.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.58	大枝付根 開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
12	東12	27.5	210		9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
13	東13	25.0	186		8.5	3.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。 樹冠上部はやや葉色が薄い。		
14	東14	28.0	224		10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.61	大枝 開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
15	東15	29.0	240		9.7	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.58	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
16	東16	29.0	229		9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番	樹木番号	規 格			全 体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	備 考								
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り		大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評価 結果	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変			落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評価 結果				
				東西 南北																						赤 処置必要 黒 5月調査 緑 7月調査 茶 10月調査						
17	東17	29.0	217	9.6	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
18	東18	28.0	195	8.0	8.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A	北側 車道上部の細枝2本に葉の褐変あり。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
19	東19	28.5	247	9.3	10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.56	A	幹 開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。 枯枝 φ4cm L1.5m(車道上部)、車道上部の細枝に葉の褐変 φ2cm L0.5m。 大枝付根 開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
20	東20	27.0	195	8.3	10.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.58	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
21	東21	26.0	184	8.7	8.9	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.85	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
22	東22	28.0	217	9.1	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
23	東23	28.0	190	8.2	10.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
24	東24	27.0	183	9.0	8.9	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.66	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
25	東25	27.5	211	8.8	8.8	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.66	A	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
26	東26	27.5	206	8.6	8.8	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.75	A	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.72	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
27	東27	28.0	231	8.6	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.45	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
28	東28	29.0	203	8.5	8.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
29	東29	28.0	272	9.1	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
30	東30	28.0	200	8.7	7.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
31	東31	29.0	227	7.5	7.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.64	A	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
32	東32	27.5	288	10.4	11.1	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.53	A	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕） H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

※各評価項目の評点は、1.0(問題なし、良好・正常・被害なし)～4.0(問題あり)

評点：
 1.0
 1.5
 2.0
 2.5
 3.0
 3.5
 4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番	樹木番号	規格				全体	先端部 (頂部)										先端部 (頂部)					備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り	(m)	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 評価 結果		
33	東33	28.0	256	8.7	8.7	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.23	A	1.43	A	赤 処置必要 緑 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 (背着性キノコ着生) 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。 イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
34	東34	26.0	335	11.4	14.2	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.29	A		イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
35	東35	27.0	310	12.5	13.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.29	A		イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
36	東36	28.0	225	9.7	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
37	東37	29.5	246	9.2	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.58	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
38	東38	30.0	301	10.2	10.9	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.58	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
39	東39	31.0	263	8.5	8.9	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形に大きな異常なし。
40	東40	29.0	216	9.8	9.7	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
41	東41	29.0	253	9.7	9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
42	東42	30.0	254	8.9	10.7	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
43	東43	30.5	263	8.5	9.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
44	東44	31.0	263	9.3	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
45	東45	29.0	229	8.2	7.7	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		樹勢・樹形に大きな異常なし。
46	東46	31.0	267	8.1	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。
47	東47	29.5	258	9.4	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		樹勢・樹形に大きな異常なし。
48	東48	28.0	280	10.5	11.3	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

評点：
 1.0
1.5
2.0
2.5
3.0
3.5
4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日																																
イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧													全体				先端部（頂部）以外の枝葉							先端部（頂部）							備考	
連番	樹木番号	規格		樹形		樹勢	大枝の欠損	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考		
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張り	(m)																											
				東西	南北																											
49	東49	31.5	257	9.7	9.6	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		赤 処置必要 黒 5月調査 緑 7月調査 茶 10月調査	
50	東50	32.0	266	12.0	10.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
51	東51	31.0	234	9.8	9.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
52	東52	33.0	234	9.2	10.4	1.5	1.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.85	B		大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
53	東53	28.5	199	7.3	6.7	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B		幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m 140×20×15/80(未芯達)。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
54	東54	31.5	237	8.2	10.4	1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
55	東55	30.5	233	9.0	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
56	東56	31.5	237	7.8	8.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
57	東57	31.5	255	9.7	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
58	東58	32.0	240	7.5	8.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
59	東59	32.0	222	9.8	9.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
60	東60	33.5	234	9.6	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
61	東61	32.5	235	9.2	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
62	東62	34.0	246	10.2	10.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
63	東63	31.0	257	10.6	10.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	
64	東64	30.0	237	9.5	9.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A		樹勢・樹形に大きな異常なし。	

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番	樹木番号	規 格				全 体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	備 考
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西	葉張り 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点				
65	東65	31.0	242	9.4	9.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	A	1.69	樹勢・樹形に大きな異常なし。	赤 処置必要 緑 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査		
66	東66	32.0	246	10.0	10.4	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	A	1.72	根元 開口空洞 40×10×20/120cm。 樹勢・樹形に大きな異常なし。			
67	東67	29.0	208	10.1	8.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	A	1.69	樹勢・樹形に大きな異常なし。			
68	東68	30.0	244	9.9	10.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	A	1.69	イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。			
69	西1	26.0	280	10.4	12.7	1.5	1.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	A	1.45	イチョウ並木の最南端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 幹 開口空洞 25×3×20/60cm、損傷被覆材が発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。 やや小さい葉が点在するが、昨年よりも葉色は濃く、着葉量が多い。 2つのカブトの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。 踏圧害あり。			
70	西2	31.0	282	10.4	11.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.45	A	A	1.43	北側大枝付根 開口空洞 12×7×11/24(79)。損傷被覆材が発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。			
71	西3	29.5	233	7.4	8.3	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	A	1.50	キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道 + 30cm。 大枝付根 樹皮欠損 30×8(65)cm、損傷被覆材が発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。			
72	西4	29.5	233	7.4	8.3	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	A	1.66	キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。 大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。 樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形に大きな異常なし。			
73	西5	30.5	274	8.8	10.2	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	A	1.72	樹勢・樹形に大きな異常なし。			
74	西6	33.5	310	9.1	9.1	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	B	1.77	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。			
75	西7	31.5	233	9.4	10.1	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	B	1.87	スダジイと相互被圧あり。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。			
76	西8	32.0	230	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	B	1.90	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。			

注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番	樹木番号	規格				全体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	総合 評価 結果	備考										
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り	(m)		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の伸 長量	枝葉 の密 度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果																
				東西	南北																													赤 緑	処置必要 7月調査	黒 茶 5月調査 10月調査
77	西9	32.0	235	8.3	8.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.93	B	スダジイと相互被圧あり。 大枝 樹皮欠損 100×8(40)cm 枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。			
78	西10	30.0	226	10.1	9.9	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	B	スダジイと相互被圧あり。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。			
79	西11	26.0	294	11.1	10.3	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	西11～28 港区管理。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。 樹勢・樹形に大きな異常なし。				
80	西12	26.0	238	9.8	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。					
81	西13	26.5	243	8.7	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。				
82	西14	25.0	269	10.2	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。				
83	西15	25.0	270	7.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.64	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。					
84	西16	26.0	250	10.8	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。					
85	西17	25.5	270	8.5	9.1	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.69	A	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。 樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形に大きな異常なし。					
86	西18	25.5	256	9.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.66	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形に大きな異常なし。					
87	西19	25.5	253	11.4	10.3	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.64	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形に大きな異常なし。					
88	西20	25.0	298	10.6	10.0	1.5	1.0	2.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.45	A	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。 樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形に大きな異常なし。					
89	西21	24.5	250	9.1	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	B	1.79	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。 樹勢・樹形に大きな異常なし。					
90	西22	24.5	240	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。				
91	西23	25.0	267	10.3	10.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.48	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形に大きな異常なし。					
92	西24	25.0	228	8.1	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。					

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

評点：
 1.0
 1.5
 2.0
 2.5
 3.0
 3.5
 4.0

イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番		樹木番号	規格			全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）									備考				
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評点	評価 結果	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 結果	
93	西25		26.0	219	10.0 8.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	赤 処置必要 黒 5月調査 緑 7月調査 茶 10月調査
																															樹勢・樹形に大きな異常なし。
94	西26		25.5	213	8.5 9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。
95	西27		26.0	203	9.4 9.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形に大きな異常なし。
96	西28		25.0	270	10.8 10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	西11～28 港区管理。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形に大きな異常なし。
97	西29		31.5	270	10.6 10.1	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.94	B	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.0	1.0	2.62	C	2.29	B	大枝付根 樹皮欠損30×30cm 樹冠下部の葉は、密度、大きさに大きな異常なし。 上部2/3は葉量がやや疎。上部の葉にわずかに黄変あり。梢端の枯れ下がりなし。
98	西30		30.5	266	10.2 10.9	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.85	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形に大きな異常なし。葉の黄変なし。
99	西31		29.0	261	9.9 10.9	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.06	B	2.06	B	大枝付根 樹皮欠損30×30cm 枝葉の密度がわずかに疎。 樹勢・樹形に大きな異常なし。葉の黄変なし。
100	西32		30.5	247	10.8 10.7	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.84	B	1.87	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形に大きな異常なし。葉の黄変なし。
101	西33		30.5	231	9.6 9.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.84	B	1.87	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形に大きな異常なし。葉の黄変なし。
102	西34		27.0	229	11.3 11.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.94	B	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	1.0	2.73	C	2.35	B	樹冠の先端部や西側に葉の褐変(初期)あり。 枝葉の密度や樹形に大きな異常なし。
103	西35		27.5	212	9.2 9.7	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.98	B	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。葉の黄変なし。
104	西36		27.5	280	9.8 10.3	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	1.0	2.84	C	2.40	B	樹冠の先端部や西側に葉の黄変、褐変(初期)あり。 枝葉の密度や樹形に大きな異常なし。
105	西37		27.0	248	8.9 10.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.84	B	1.90	B	枝葉の密度がわずかに疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。
106	西38		26.0	240	9.8 11.2	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.78	B	1.85	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形に大きな異常なし。
107	西39		27.0	211	8.2 8.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形に大きな異常なし。
108	西40		27.0	214	8.8 7.8	2.5	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	3.0	2.57	C	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	1.0	2.67	C	2.64	C	樹冠先端部と下部の南西側に葉の黄変、褐変(初期)あり。 枝葉の密度や樹形に大きな異常なし。

(注) 参考として港区道のイチヨウについても調査を行った。

評点：

1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番	樹木番号	規 格			全 体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	備 考
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点				
																						総合 評価 結果 赤 処置必要 黒 5月調査 緑 7月調査 茶 10月調査		
109	西41	29.5	262	9.8	10.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.39	A	1.45	A		樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。		
110	西42	27.0	250	8.9	8.3	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.06	B	1.98	B		枝葉の密度がわずかに疎。樹勢・樹形に大きな異常なし。		
111	西43	28.5	259	9.4	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.89	A	1.74	A		樹冠下部南側に、わずかに葉の黄変(初期)あり。 枝葉の密度や樹形に大きな異常なし。		
112	西44	28.0	304	9.7	10.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.73	A	1.66	A		樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
113	西45	27.5	241	8.2	7.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.64	A		樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
114	西46	28.0	250	10.1	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.73	A	1.56	A		樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。		
115	西47	27.0	269	9.4	9.6	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.73	A	1.58	A		幹の上部が屈曲。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
116	西48	26.5	242	9.0	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.73	A	1.56	A		イチョウ並木の最北端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。		
117	西49	25.0	255	9.7	10.4	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.67	A	1.61	A		イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞H:0.9m 40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。		
118	西50	27.5	248	9.4	11.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.53	A		樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。		
119	西51	25.0	182	9.3	9.8	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.0	2.00	B	1.93	B		樹勢・樹形に大きな異常なし。		
120	西52	27.5	198	9.4	10.6	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.12	B	2.00	B		幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)。 樹勢・樹形に大きな異常なし。		
121	西53	26.5	194	8.5	8.6	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.12	B	2.00	B		幹 開口空洞 H:0.9m 80×17×10/50cm、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形に大きな異常なし。		
122	西54	27.5	190	8.9	11.4	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.12	B	2.03	B		樹勢・樹形に大きな異常なし。		
123	西55	29.0	206	10.5	10.1	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.12	B	2.03	B		樹勢・樹形に大きな異常なし。		
124	西56	20.5	186	8.9	9.2	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	2.00	B	2.11	B		大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)。 樹勢・樹形に大きな異常なし。		

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

評点：
 1.0
 1.5
 2.0
 2.5
 3.0
 3.5
 4.0

イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番	樹木番号	規格				全体	先端部 (頂部)										先端部 (頂部)					備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	東西 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 評価 結果		
125	西57	28.5	252	10.1	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.00	B	赤 処置必要 緑 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	
126	西58	28.0	200	9.9	10.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
127	西59	23.5	198	10.2	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	3.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.07	B	2.11	B	幹 開口空洞H:0.8m80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他 2箇所 葉量がやや疎。	
128	西60	25.0	182	9.4	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.93	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
129	西61	24.0	184	9.6	11.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.93	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
130	西62	24.5	181	10.2	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.93	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
131	西63	27.0	202	9.5	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.93	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
132	西64	29.0	226	10.1	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.90	B	車両接触による枝折れ(車道側)φ3, L=1m. 要切除。 樹勢・樹形に大きな異常なし。	
133	西65	25.5	222	9.5	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.90	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
134	西66	28.5	225	10.4	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.90	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
135	西67	26.5	187	9.7	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.90	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
136	西68	28.5	221	8.7	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.72	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
137	西69	29.0	247	10.5	11.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.79	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
138	西70	28.5	213	10.5	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.79	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
139	西71	28.5	189	9.6	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.85	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	
140	西72	28.0	214	9.1	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.82	B	1.82	B	樹勢・樹形に大きな異常なし。	

(注) 参考として港区道のイチヨウについてでも調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年5月29日～31日

連番	樹木番号	規格			全体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）											備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m) 東西 南北		大枝 幹の欠損	梢端 の欠損	枝の伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評価 点	評価 結果	梢端 の 枯損	枝の伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	稠密	落葉	平均評 点			
141	西73	27.5	208	9.3	10.3	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	総合 評価 結果	赤 緑 処置必要 7月調査 黒 茶 5月調査 10月調査	
																										樹勢・樹形に大きな異常なし。		
142	西74	28.5	232	9.7	11.1	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	総合 評価 結果	赤 緑 処置必要 7月調査 黒 茶 5月調査 10月調査	
																										樹勢・樹形に大きな異常なし。		
143	西75	27.0	213	10.5	10.7	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	総合 評価 結果	赤 緑 処置必要 7月調査 黒 茶 5月調査 10月調査	
																										樹勢・樹形に大きな異常なし。		
144	西76	27.0	248	10.0	9.3	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	総合 評価 結果	赤 緑 処置必要 7月調査 黒 茶 5月調査 10月調査	
																										樹勢・樹形に大きな異常なし。		
145	西77	26.5	229	7.9	9.4	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	総合 評価 結果	赤 緑 処置必要 7月調査 黒 茶 5月調査 10月調査	
																										樹勢・樹形に大きな異常なし。		
146	西78	26.0	261	10.4	12.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	総合 評価 結果	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。 剪定のモザル樹。植栽常幅3.25m。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	

評価点：
 1.0
1.5
2.0
2.5
3.0
3.5
4.0

調査日： 2024年7月26日・30日

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

連番		樹木番号	規 格				全 体		先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)									備 考										
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西	葉張り 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大 き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大 き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評価 結果	総合 評点	総合 評価 結果				
1	東1		27.5	237	10.3	10.3	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	A	1.32	A	赤 処置必要 緑 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	イチョウ並木の最南端に位置。東1〜34東京都管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
2	東2		28.0	227		9.2	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	A	1.32	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし
3	東3		29.5	267	10.4	10.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	A	1.61	A	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし
4	東4		29.0	242	9.8	10.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	A	1.61	A	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)cm。 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm。 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が広がっているため要切除。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
5	東5		29.0	248	10.0	9.5	1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.64	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
6	東6		29.0	231	9.0	9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
7	東7		30.0	200	8.3	9.3	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.61	A	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
8	東8		28.0	227	9.5	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
9	東9		28.0	214	7.7	9.1	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.61	A	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)cm。 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
10	東10		27.5	194	9.3	9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
11	東11		28.5	308	9.9	9.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.58	A	大枝付根 開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
12	東12		27.5	210	9.8	9.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
13	東13		25.0	186	8.5	9.1	3.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	B	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	B	1.79	B	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。 樹冠上部はやや葉色が薄い。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
14	東14		28.0	224	10.0	10.5	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.61	A	大枝 開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
15	東15		29.0	240	9.7	9.7	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	A	1.58	A	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	

注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

評点：
 1.0
 1.5
 2.0
 2.5
 3.0
 3.5
 4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

連番	樹木番号	規 格			全 体	先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)										総合 評価 結果	備 考						
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ			葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点
16	東16	29.0	229	9.3	9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A	赤 処置必要 緑 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
17	東17	29.0	217	9.6	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
18	東18	28.0	195	8.0	8.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
19	東19	28.5	247	9.3	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.56	A	幹 開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
20	東20	27.0	195	8.3	10.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.58	A	大枝付根 開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
21	東21	26.0	184	8.7	8.9	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.85	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹冠中央部の葉量がやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
22	東22	28.0	217	9.1	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
23	東23	28.0	190	8.2	10.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
24	東24	27.0	183	9.0	8.9	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.64	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
25	東25	27.5	211	8.8	8.8	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.66	A	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	
26	東26	27.5	206	8.6	8.8	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.75	A	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.72	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
27	東27	28.0	231	8.6	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.45	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
28	東28	29.0	203	8.5	8.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
29	東29	28.0	272	9.1	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
30	東30	28.0	200	8.7	7.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
31	東31	29.0	227	7.5	7.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.64	A	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

連番	樹木番号	規格			全体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	総合 評点	備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り		大枝 幹の欠 損	梢端 の欠 損	枝の伸 長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉の 大き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果								
				東西 南北																			赤 処置必要 緑 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕） H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
32	東32	27.5	288	10.4	11.1	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.53	A	
33	東33	28.0	256	8.7	8.7	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.23	A	1.43	A	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。（背着性キノコ着生） 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
34	東34	26.0	335	11.4	14.2	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
35	東35	27.0	310	12.5	13.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.29	A	イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
36	東36	28.0	225	9.7	10.2	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.29	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
37	東37	29.5	246	9.2	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.0	1.45	A	1.58	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
38	東38	30.0	301	10.2	10.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.0	1.45	A	1.58	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
39	東39	31.0	263	8.5	8.9	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.67	A	1.72	A	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
40	東40	29.0	216	9.8	9.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
41	東41	29.0	253	9.7	9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
42	東42	30.0	254	8.9	10.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
43	東43	30.5	263	8.5	9.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
44	東44	31.0	263	9.3	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
45	東45	29.0	229	8.2	7.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
46	東46	31.0	267	8.1	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	

(注) 参考として港区道のイチョウについてでも調査を行った。

※各評価項目の評点は、1.0(問題なし、良好・正常・被害なし)～4.0(問題あり)

評点：
 1.0
1.5
2.0
2.5
3.0
3.5
4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

連番	樹木番号	規格			全体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	総合 評点	備考						
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評点	評価 結果	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色				葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果
47	東47	29.5	258	9.4 9.5	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	赤 処置必要 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	樹勢・樹形、概ね異常なし。
48	東48	28.0	280	10.5 11.3	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。
49	東49	31.5	257	9.7 9.6	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77		樹勢・樹形、概ね異常なし。
50	東50	32.0	266	12.0 10.5	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77		樹勢・樹形、概ね異常なし。
51	東51	31.0	234	9.8 9.0	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77		樹勢・樹形、概ね異常なし。
52	東52	33.0	234	9.2 10.4	1.5 1.5	1.5	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.85		大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
53	東53	28.5	199	7.3 6.7	2.5 2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90		幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m 140×20×15/80(末芯達)。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
54	東54	31.5	237	8.2 10.4	1.5 1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77		大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
55	東55	30.5	233	9.0 9.3	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。
56	東56	31.5	237	7.8 8.7	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61		樹勢・樹形、概ね異常なし。
57	東57	31.5	255	9.7 10.0	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。
58	東58	32.0	240	7.5 8.9	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。
59	東59	32.0	222	9.8 9.6	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。
60	東60	33.5	234	9.6 10.0	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。
61	東61	32.5	235	9.2 9.5	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。
62	東62	34.0	246	10.2 10.9	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69		樹勢・樹形、概ね異常なし。

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

連番	樹木番号	規 格			全 体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	総合 評価 結果	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の欠 損	枝の伸 長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小				葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小	葉の 大 小

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

連番	樹木番号	規 格			先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)										総合 評価 結果	総合 評価 結果	備 考			
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	平均 評価 結果	梢端 の 枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	褐変	落葉					平均評 点	評価 結果
77	西9	32.0	235	8.3	8.1	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.95	赤 緑 処置必要 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	スダジイと相互被圧あり。 大枝 樹皮欠損 100×8(40)cm 枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常な
78	西10	30.0	226	10.1	9.9	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	スダジイと相互被圧あり。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
79	西11	26.0	294	11.1	10.3	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.69	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.72	A	西11～28 港区管理。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	
80	西12	26.0	238	9.8	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
81	西13	26.5	243	8.7	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
82	西14	25.0	269	10.2	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
83	西15	25.0	270	7.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.63	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.64	A	樹冠の中部から上部に葉の褐変症状が始めている。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	
84	西16	26.0	250	10.8	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
85	西17	25.5	270	8.5	9.1	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.69	A	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。 樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
86	西18	25.5	256	9.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.57	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.66	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
87	西19	25.5	253	11.4	10.3	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.32	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
88	西20	25.0	298	10.6	10.0	1.0	1.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.44	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.37	A	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。 樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
89	西21	24.5	250	9.1	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	
90	西22	24.5	240	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。葉色やや薄い。	
91	西23	25.0	267	10.3	10.7	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.32	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
92	西24	25.0	228	8.1	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。	

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

※各評価項目の評点は、1.0(問題なし、良好・正常・被害なし)～4.0(問題あり)

イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

規格			全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							備考	
連番	樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の伸 長量	枝葉 の密 度	緑量	葉色	葉の 大 き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 評価 結果	備 考		
93	西25	26.0	219	10.0 8.0	2.0 2.0	2.0	1.5	1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.0 1.0	1.67	A	1.74	A	赤 緑 処置必要 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	樹勢・樹形、概ね異常なし	
94	西26	25.5	213	8.5 9.5	2.0 2.0	2.0	1.5	1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.0 1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。		
95	西27	26.0	203	9.4 9.2	2.0 2.0	2.0	1.5	1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.0 1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。		
96	西28	25.0	270	10.8 10.0	2.0 2.0	2.0	2.0	1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.0 1.0	1.67	A	1.77	B	西11～28 港区管理。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材 発達。 樹勢・樹形、概ね異常なし。		
97	西29	31.5	270	10.6 10.1	2.0 3.0	3.0	2.0	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	3.5 3.5	3.0 3.0	3.5 3.5	3.45	D	2.74	C	大枝付根開口空洞・腐朽60×15(93)cm。 大枝付根開口空洞20×12(90)×15/20cm。 樹冠下部(10mまでは、葉量がやや減少しているが緑量は保たれ ている。 樹冠中間部(26～10m)は、葉量減少、小型化、褐変が見られ、 特に西側で顕著。樹冠先端部(26mより上部)は、ほぼ全て落葉。		
98	西30	30.5	266	10.2 10.9	2.0 2.0	2.0	1.5	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.0 1.0	1.73	A	1.85	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。葉の黄変 なし。		
99	西31	29.0	261	9.9 10.9	2.0 2.0	2.5	1.5	2.0	2.0 2.0	2.5 2.5	2.5 2.5	2.0 2.0	2.5 2.5	2.0 2.0	1.0 1.0	1.0 1.0	2.06	B	2.06	B	大枝付根 樹皮欠損30×30cm。 枝葉の密度がわずかに疎。 樹勢・樹形、概ね異常なし。葉の黄変なし。		
100	西32	30.5	247	10.8 10.7	2.0 2.0	2.0	1.5	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.5 2.0	2.0 2.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.84	B	1.87	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。葉の黄変 なし。		
101	西33	30.5	231	9.6 9.0	2.0 2.0	2.0	1.5	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.5 2.0	2.0 2.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.84	B	1.87	B	樹冠北側15m付近に部分的に褐変葉あり。 樹冠北側に褐変の初期（葉縁の黄変）症状が疎らに見られる。		
102	西34	27.0	229	11.3 11.0	2.0 2.0	3.0	1.5	3.0	3.0 3.0	3.0 3.0	3.5 3.5	3.5 3.5	3.5 3.5	3.0 3.0	3.0 3.0	3.39	D	3.06	C	樹冠頂部10mは全て褐変、落葉しつつある。 西側樹冠の15mより下部は着葉が疎らで褐変も多い。 褐変症状は枝毎に広がっている。			
103	西35	27.5	212	9.2 9.7	2.0 2.0	2.0	1.5	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.5 2.5	2.5 2.5	2.5 2.5	1.5 1.5	1.0 1.0	2.06	B	1.98	B	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に概ね異常な し。 葉の黄変なし。			
104	西36	27.5	280	9.8 10.3	2.5 2.5	2.5	1.5	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	3.5 3.5	3.5 3.5	3.5 3.5	3.0 3.0	3.0 3.0	3.39	D	2.66	C	樹冠先端部約10mの葉は全て褐変し、葉の小型化や着葉量減 少が進んでいる。 樹冠先端部の褐変症状は、西側で下部に広がっている。			
105	西37	27.0	248	8.9 10.0	2.0 2.0	2.0	1.5	2.0	2.0 2.0	2.5 2.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.5 2.0	2.0 2.0	1.0 1.0	1.84	B	1.90	B	枝葉の密度がわずかに疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。			
106	西38	26.0	240	9.8 11.2	2.0 2.0	2.0	1.5	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.5 1.5	2.0 2.0	1.0 1.0	1.78	B	1.85	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。			

(注) 参考として港区道のイチヨウについても調査を行った。

※各評価項目の評点は、1.0(問題なし・良好・正常・被害なし)～4.0(問題あり)

評点：
 1.0
1.5
2.0
2.5
3.0
3.5
4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

連番	樹木番号	規格				全体	先端部（頂部）										先端部（頂部）					備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西	葉張り 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の 伸長量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 評価 結果		
107	西39	27.0	211	8.2	8.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B	1.95	B	赤 5月調査 緑 7月調査 黒 10月調査 茶	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。
108	西40	27.0	214	8.8	7.8	2.5	3.0	1.5	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.78	C	2.79	C		樹冠の先端部と東側は緑量が保たれているが、樹冠の20mより下部の西側は、着葉の多くが褐変、落葉しつつある。 20m以上の先端部にも褐変症状が疎らに生じている。
109	西41	29.5	262	9.8	10.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.45	A		樹冠中間部(約20m)にごく僅かに褐変葉が見られる。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
110	西42	27.0	250	8.9	8.3	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.98	B		枝葉の密度がわずかに疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。
111	西43	28.5	259	9.4	9.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.95	B	1.77	B		樹冠南側10～15mに部分的に褐変葉あり。枝先の落葉症状もわずかに見られる。 枝葉の密度や樹形に概ね異常なし。
112	西44	28.0	304	9.7	10.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A		樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
113	西45	27.5	241	8.2	7.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.64	A		樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
114	西46	28.0	250		9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.56	A		樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
115	西47	27.0	269	9.4	9.6	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.40	A		幹の上部が屈曲。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
116	西48	26.5	242	9.0	10.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.35	A		イチョウ並木の最北端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
117	西49	25.0	255	9.7	10.4	1.0	1.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.35	A		イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞H:0.9m 40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
118	西50	27.5	248	9.4	11.2	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A		樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
119	西51	25.0	182	9.3	9.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		樹勢・樹形に概ね異常はないが、葉量、葉色がやや薄く、成長が進んでいない。
120	西52	27.5	198	9.4	10.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	2.12	B	2.00	B		幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (末芯達)。 樹勢・樹形に概ね異常はないが、葉量、葉色がやや薄く、成長が進んでいない。
121	西53	26.5	194	8.5	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	2.12	B	2.00	B		幹 開口空洞 H:0.9m 80×17×10/50cm、損傷被覆材発達。

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年7月26日・30日

連番	樹木番号	規 格				全 体		先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)							総合 評価 結果	総合 評点	備 考		
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北	(m)	樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大 き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果										
122	西54	27.5	190	8.9	11.4	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	赤 処置必要 黒 5月調査 緑 7月調査 茶 10月調査
123	西55	29.0	206	10.5	10.1	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	樹勢・樹形に概ね異常はないが、葉量、葉色がやや薄く、成長が進んでいない。	
124	西56	20.5	186	8.9	9.2	2.5	2.5	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.35	樹勢・樹形に大きく異常はないものの、全体的に葉がやや小さく、葉色がやや薄い。 先端の屈曲が大きいため、今後、樹冠先端部切除の検討を要す
125	西57	28.5	252	10.1	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.00	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除。 樹勢・樹形、良好。
126	西58	28.0	200	9.9	10.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	幹 開口空洞H:0.8m80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 樹勢・樹形、良好。
127	西59	23.5	198	10.2	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.11	幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他2箇所 葉量がやや疎。
128	西60	25.0	182	9.4	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	樹勢・樹形、概ね異常なし。
129	西61	24.0	184	9.6	11.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	樹勢・樹形、概ね異常なし。
130	西62	24.5	181	10.2	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	樹勢・樹形、概ね異常なし。
131	西63	27.0	202	9.5	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	樹勢・樹形、概ね異常なし。
132	西64	29.0	226	10.1	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	車両接触による枝折れ(車道側)φ3,L=1m、要切除。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
133	西65	25.5	222	9.5	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	樹勢・樹形、概ね異常なし。
134	西66	28.5	225	10.4	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	樹勢・樹形、概ね異常なし。
135	西67	26.5	187	9.7	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	樹勢・樹形、概ね異常なし。
136	西68	28.5	221	8.7	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。

(注) 参考として港区道のイチヨウについても調査を行った。

※各評価項目の評点は、1.0(問題なし・良好・正常・被害なし)～4.0(問題あり)

評点：

1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

連番	樹木番号	規格			全体	先端部 (頂部)										先端部 (頂部)					備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大 き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	評価 結果	総合 評点	総合 評価 結果	赤 置 要 否 5月調査 黒 7月調査 茶 10月調査
137	西69	29.0	247	10.5	11.7	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
138	西70	28.5	213	10.5	11.1	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
139	西71	28.5	189	9.6	9.7	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.85	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
140	西72	28.0	214	9.1	10.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
141	西73	27.5	208	9.3	10.3	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
142	西74	28.5	232	9.7	11.1	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
143	西75	27.0	213	10.5	10.7	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
144	西76	27.0	248	10.0	9.3	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
145	西77	26.5	229	7.9	9.4	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
146	西78	26.0	261	10.4	12.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	イチヨウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。 剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。

注) 参考として港区道のイチヨウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番	樹木番号	規 格				全 体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	備 考
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り	(m)		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点				
1	東1	28.5	237	10.0	10.1	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.32	A	1.32	A	赤 処置必要 緑 7月調査	黒 5月調査 茶 10月調査	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
2	東2	28.5	230		9.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.32	A	1.32	A			樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
3	東3	29.5	276	11.2	10.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.45	A	1.50	A			樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし		
4	東4	29.0	244	10.1	9.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.45	A	1.50	A			樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし		
5	東5	29.0	249	9.6	9.5	1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.64	A			大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68) cm。 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm。 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除。		
6	東6	29.0	233	10.0	9.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.56	A			樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
7	東7	28.5	201	9.2	9.4	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.61	A			幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
8	東8	28.0	228	10.2	9.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.56	A			樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
9	東9	28.0	214	8.1	9.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.61	A			幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230) cm。 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63) cm。		
10	東10	27.5	197	9.9	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.56	A			樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
11	東11	28.5	312	10.7	10.3	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.58	A			大枝付根 開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
12	東12	27.5	212	9.8	9.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.56	A			樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		
13	東13	25.0	187	9.4	9.1	3.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.67	B	1.79	B			樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		
14	東14	28.0	226	11.2	10.3	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.61	A			大枝 開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		
15	東15	29.0	242	11.0	10.1	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.50	A	1.58	A			幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

評点：
 1.0
 1.5
 2.0
 2.5
 3.0
 3.5
 4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番	樹木番号	規 格			全 体		先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)							総合 評価 結果	総合 評価 結果	備 考			
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評価 結果	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変				落葉	平均評 点	評価 結果
16	東16	29.0	230	10.3	9.5	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
17	東17	29.0	217	9.1	10.0	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	2.0	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
18	東18	28.0	195	9.2	8.3	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
19	東19	29.0	248	9.4	9.8	1.5 1.5	2.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.45	A	1.56	A	幹 開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
20	東20	28.0	196	9.5	9.8	1.5 1.5	2.0	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.69	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.50	A	1.58	A	大枝付根 開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
21	東21	26.0	184	9.3	9.2	2.0 2.0	2.0	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.5	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.78	B	1.77	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹冠中央部の葉量がやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。
22	東22	29.0	218	9.3	9.0	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
23	東23	28.0	192	8.5	10.5	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.50	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
24	東24	26.0	183	10.7	9.2	1.5 2.0	1.5	1.5	2.0 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.75	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.50	A	1.64	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
25	東25	27.5	211	8.4	9.2	1.5 2.0	2.0	1.5	2.0 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.82	B	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.50	A	1.66	A	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
26	東26	28.0	207	10.9	8.2	1.5 2.0	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.75	A	1.5	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.67	A	1.72	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
27	東27	28.0	232	9.6	9.7	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.50	A	1.5	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.39	A	1.45	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
28	東28	27.5	204	10.1	9.1	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	2.0	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
29	東29	28.0	277	10.7	10.0	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	2.0	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
30	東30	28.0	200	10.1	7.9	1.5 1.5	1.5	1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.63	A	2.0	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.73	A	1.66	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
31	東31	29.5	230	10.0	8.6	1.5 1.5	2.0	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.0	1.0 1.0	1.0 1.0	1.73	A	1.64	A	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形、概ね異常なし。

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチヨウウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番	樹木番号	規 格			全 体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	備 考			
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯損	枝の 伸長 量	枝葉 の 密度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点							
32	東32	27.5	292	10.2	11.9	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.53	A	赤 処置必要 黒 5月調査 緑 7月調査 茶 10月調査 幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕） H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
33	東33	28.5	251	8.9	9.1	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.23	A	1.43	A	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 性キリ着生 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。
34	東34	26.0	340	12.5	14.3	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	イチヨウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
35	東35	28.0	313	12.1	13.6	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.29	A	イチヨウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
36	東36	28.0	226	10.7	9.3	1.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.37	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。
37	東37	29.5	249	10.0	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.58	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
38	東38	30.5	303	11.0	11.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.58	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
39	東39	31.0	266	9.8	9.6	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.72	A	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
40	東40	29.5	218	10.1	10.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
41	東41	29.5	258	9.9	9.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
42	東42	30.0	257	10.1	10.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
43	東43	30.5	263	8.5	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
44	東44	31.0	265	10.1	11.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
45	東45	29.0	229	8.5	9.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
46	東46	31.5	270	8.6	11.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。

(注) 参考として港区道のイチヨウウについても調査を行った。

※各評価項目の評点は、1.0(問題なし、良好・正常・被害なし)～4.0(問題あり)

評点：
 1.0
 1.5
 2.0
 2.5
 3.0
 3.5
 4.0

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番	樹木番号	規格			全体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	総合 評価 結果	備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評価 結果	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ				葉形
47	東47	30.0	259	9.8 10.0	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
48	東48	28.5	286	11.3 11.3	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.67	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
49	東49	31.5	259	9.4 10.2	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
50	東50	32.5	268	11.8 10.0	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
51	東51	31.0	235	9.1 9.8	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
52	東52	33.0	240	9.0 10.7	1.5 1.5	1.5 1.5	3.0 3.0	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
53	東53	28.5	200	7.4 7.5	2.5 2.0	2.0 2.0	2.5 2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m 140×20×15/80(末芯達)。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
54	東54	31.5	239	8.2 10.6	1.5 1.5	1.5 1.5	3.0 3.0	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。 樹勢・樹形、概ね異常なし。
55	東55	30.5	235	9.1 9.6	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
56	東56	31.5	238	9.1 9.3	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.67	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
57	東57	31.5	261	8.9 10.2	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
58	東58	32.5	242	7.5 9.6	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
59	東59	32.0	226	10.9 10.3	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
60	東60	33.5	235	10.3 10.7	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
61	東61	32.5	237	9.8 10.0	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。
62	東62	34.0	248	10.5 11.0	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	2.0 2.0	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5 1.5	2.0 2.0	1.5 1.5	1.0 1.0	1.84	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日																																								
イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧										全体										先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)							備考			
連番	樹木番号	規格		樹形		樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評点	評価 結果								梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 結果	赤 緑	処置必要 7月調査	黒 茶	5月調査 10月調査
63	東63	31.0	257	10.8	10.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.57	A																						樹勢・樹形、概ね異常なし。		
64	東64	30.5	240	9.3	9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A																						樹勢・樹形、概ね異常なし。		
65	東65	31.5	243	9.7	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A																						樹勢・樹形、概ね異常なし。		
66	東66	32.5	248	9.9	9.7	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A																						根元 開口空洞 40×10×20/120cm。 樹勢・樹形、概ね異常なし。		
67	東67	29.5	208	10.5	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A																						樹勢・樹形、概ね異常なし。		
68	東68	30.5	246	9.9	11.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A																						イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
69	西1	26.0	280	10.9	11.2	1.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.38	A																						イチョウ並木の最南端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 幹 開口空洞 25×3×20/60cm、損傷被覆材が発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
70	西2	31.0	284	10.7	10.3	1.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.38	A																						2つのカフIの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。 踏圧害あり。 北側大枝付根 開口空洞(損傷被覆材が発達)あり。 葉色濃く、樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
71	西3	32.5	270	7.7	9.8	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.0	1.5	1.57	A																						キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道 + 30cm。 大枝付根 樹皮欠損 30×8(65)cm、損傷被覆材が発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。		
72	西4	29.5	233	9.6	9.3	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A																						キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。 大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。 樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		
73	西5	30.5	278	9.9	10.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A																						樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		
74	西6	33.5	313	11.1	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A																						樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		
75	西7	32.0	233	10.1	10.3	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B																						スダジイと相互被圧あり。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。葉色がやや薄い。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		
76	西8	32.0	230	9.8	9.2	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B																						樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。葉色がやや薄い。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。		

(注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番		樹木番号	規 格			全 体		先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)							備 考								
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西	葉張り 南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の欠損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評点	評価 結果	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 結果			
77	西9	32.5	235	8.6	8.8	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.94	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.95	B	スダジイと相互被圧あり。 大枝 樹皮欠損 100×8(40)cm 枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
78	西10	31.5	228	10.2	10.1	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.82	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	B	スダジイと相互被圧あり。 樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
79	西11	26.5	294	11.2	11.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.72	A	西11～28 港区管理。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
80	西12	26.0	235	10.6	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
81	西13	26.5	244	9.7	8.6	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.63	A	1.5	2.0	1.5								1.56	A	1.64	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。 褐変葉はない。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
82	西14	25.0	269	11.3	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。 褐変葉はない。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
83	西15	26.5	272	9.7	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.63	A	1.5	2.0	1.5								1.67	A	1.69	A	樹冠15mより上部に褐変葉あり。 着葉量、樹勢・樹形、概ね異常なし。	
84	西16	26.0	251	10.5	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
85	西17	25.5	273	8.7	10.1	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.75	A	1.5	2.0	1.5								1.56	A	1.69	A	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。 樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
86	西18	26.5	259	9.6	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.66	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
87	西19	25.5	253	9.2	10.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.32	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.62	A	1.43	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
88	西20	25.0	298	11.2	10.5	1.0	1.0	2.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.44	A	1.5	1.5	1.5								1.39	A	1.37	A	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。 葉色濃く、樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
89	西21	24.5	250	9.2	8.6	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
90	西22	24.5	240	7.8	10.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。葉色やや薄い。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
91	西23	25.0	269	10.8	11.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.32	A	1.5	1.5	1.5								1.39	A	1.32	A	樹冠全体に枝葉充実。樹勢・樹形、概ね異常なし。	

(注) 参考として港区道のイチヨウについても調査を行った。

イチヨウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番		樹木番号	規 格				全 体		先端部 (頂部) 以外の枝葉										先端部 (頂部)											備 考				
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西	南北	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	平均 評点	評価 結果	梢端 の枯損	枝の伸長 量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評価 結果	総合 評点			
92	西24		25.0	230	8.9	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	赤 処置必要 緑 7月調査 黒 5月調査 茶 10月調査	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
93	西25		26.0	220	10.6	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形、概ね異常なし	樹勢・樹形、概ね異常なし	
94	西26		26.0	213	9.1	10.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。	樹勢・樹形、概ね異常なし。	
95	西27		26.0	205	9.6	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
96	西28		25.5	273	11.3	9.2	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B	西11～28 港区管理。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材 発達。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	西11～28 港区管理。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材 発達。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	
97	西29		31.5	270	10.5	10.6	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.5	2.00	B	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.45	D	2.74	C	大枝付根開口空洞・腐朽60×15(93)cm、 大枝付根開口空洞20×12(90)×15/20cm。 樹冠頂端部約15mより上部の葉は全て早期落葉し、樹冠中間部 東側に落葉範囲が拡大している。樹冠下部10mは着葉量が保た れている。 葉の褐変症状あり。	大枝付根開口空洞・腐朽60×15(93)cm、 大枝付根開口空洞20×12(90)×15/20cm。 樹冠頂端部約15mより上部の葉は全て早期落葉し、樹冠中間部 東側に落葉範囲が拡大している。樹冠下部10mは着葉量が保た れている。 葉の褐変症状あり。
98	西30		30.5	266	10.7	11.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.78	B	1.87	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。 葉の褐変症状なし。	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。 葉の褐変症状なし。	
99	西31		29.0	264	10.1	11.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	大枝付根 樹皮欠損30×30cm 枝葉の密度がわずかに疎。 樹勢・樹形、概ね異常なし。葉の褐変症状なし。	大枝付根 樹皮欠損30×30cm 枝葉の密度がわずかに疎。 樹勢・樹形、概ね異常なし。葉の褐変症状なし。	
100	西32		30.5	251	10.5	10.2	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	1.0	1.84	B	1.87	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。 葉の褐変症状なし。	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。 葉の褐変症状なし。	
101	西33		30.0	234	9.3	9.4	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.89	B	1.90	B	樹冠頂端部～中間は着葉多く、下部はやや疎ら。 褐変症状が部分的に疎らに見られる。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	樹冠頂端部～中間は着葉多く、下部はやや疎ら。 褐変症状が部分的に疎らに見られる。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	
102	西34		27.0	229	12.4	11.3	2.0	3.0	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.82	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.45	D	3.08	C	樹冠頂端部約10mの葉は全て落葉。 中間部は褐変葉が多く、着葉も疎ら。 樹冠中間～下部の西と南側に褐変葉や早期落葉が多い。	樹冠頂端部約10mの葉は全て落葉。 中間部は褐変葉が多く、着葉も疎ら。 樹冠中間～下部の西と南側に褐変葉や早期落葉が多い。
103	西35		27.5	213	9.8	10.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	2.12	B	2.00	B	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に概ね異常な し。 葉の褐変症状なし。	樹冠下部は枝葉充実。上部はやや疎。樹勢・樹形に概ね異常な し。 葉の褐変症状なし。	
104	西36		27.5	287	9.2	10.3	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.45	D	2.69	C	樹冠頂端部約10mの葉は全て落葉。 中間部は褐変葉が多く、着葉も疎ら。 樹冠下部は僅かに褐変葉あり、着葉量はやや疎らではあるが保た れている。	樹冠頂端部約10mの葉は全て落葉。 中間部は褐変葉が多く、着葉も疎ら。 樹冠下部は僅かに褐変葉あり、着葉量はやや疎らではあるが保た れている。
105	西37		27.0	248	9.3	11.1	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	1.0	1.84	B	1.87	B	枝葉の密度がわずかに疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。	枝葉の密度がわずかに疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。	

注) 参考として港区道のイチヨウについても調査を行った。

評点：

1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番	樹木番号	規格			全体	先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）							総合 評価 結果	備考						
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り 東西 南北		樹形	樹勢	大枝 幹の欠 損	梢端 の枯 損	枝の伸 長量	枝葉 の密 度	緑量	葉色	葉の 大き さ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果											
106	西38	26.5	242	9.1 11.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.84	B	1.87	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。
107	西39	27.0	211	8.6 8.9	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B	枝葉は樹冠全体に均等で、樹勢・樹形、概ね異常なし。	
108	西40	27.0	216	9.4 8.5	2.5	3.0	1.5	3.0	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	3.5	2.95	C	2.93	C	樹冠全体の着葉が疎らで、小さい葉、褐変葉が多い。 頂端部も着葉はあるが、同様の状態。 樹冠全体の南と西側に早期落葉が多い。
109	西41	29.5	264	10.0 11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.45	A	樹冠中間部に一部褐変葉が見られる。 樹勢・樹形、概ね異常なし。	
110	西42	27.0	251	9.6 9.1	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.98	B	枝葉の密度がわずかに疎。樹勢・樹形、概ね異常なし。	
111	西43	28.5	262	10.1 10.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	2.00	B	1.79	B	褐変葉が樹冠の南側全体に見られる。 南側下枝に一部早期落葉あり。 枝葉の密度や樹形に概ね異常なし。
112	西44	28.0	310	9.8 10.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
113	西45	27.5	245	8.9 7.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.64	A	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
114	西46	28.0	253	9.9 9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.73	A	1.56	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
115	西47	27.0	269	9.8 10.1	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.45	A	1.40	A	幹の上部が屈曲。 樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。	
116	西48	26.5	245	9.2 10.2	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.45	A	1.35	A	イチョウ並木の最北端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
117	西49	25.0	257	10.5 11.1	1.0	1.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.35	A	イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞H:0.9m 40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材発達。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
118	西50	27.5	252	9.3 11.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	樹冠全体の枝葉が充実し、葉色も濃く、樹勢・樹形良好。	
119	西51	25.0	183	9.8 10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B	樹勢・樹形に概ね異常はないが、葉量、葉色がやや薄く、成長が進んでいない。	
120	西52	28.0	199	10.6 9.7	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.06	B	1.98	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。	

(注) 参考として港区道のイチョウについてでも調査を行った。

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

調査日： 2024年10月25日～30日

連番		樹木番号	規 格				全 体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）								備 考												
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り				樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の 伸長量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	梢端 の枯損	枝の 伸長量	枝葉 の密度					緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評価 結果	赤 7月調査
121	西53	26.5	194	8.1	7.4	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	1.0	2.06	1.98	B	幹 開口空洞 H:0.9m 80×17×10/50cm、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形に大きな異常はないが、葉量、葉色がやや薄い。 周囲のイチョウに比べ、秋の黄葉が目立つ。						
122	西54	27.5	190	9.0	11.4	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	1.0	2.06	2.00	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
123	西55	28.0	207	10.0	10.3	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	1.0	2.06	2.00	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
124	西56	20.5	186	9.4	9.1	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.50	B	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	2.35	B	大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)。 樹勢・樹形に大きく異常はないものの、全体的に葉がやや小さい。 先端の屈曲が大きいため、今後、樹冠先端部切除の検討を要する。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
125	西57	28.5	252	10.2	10.5	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	2.00	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除。 樹勢・樹形、良好。						
126	西58	28.0	202	10.2	10.4	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	1.95	B	幹 開口空洞H:0.8m80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材発達。 樹勢・樹形、良好。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
127	西59	23.5	198	9.5	10.3	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.07	B	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	2.11	B	幹 開口空洞 H0.6m 100×10×7/45cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他2箇所 葉量がやや疎。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
128	西60	25.0	183	9.4	10.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	1.93	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
129	西61	24.0	186	9.5	11.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	1.93	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
130	西62	24.5	182	10.9	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	1.93	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
131	西63	28.0	202	9.8	10.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	1.93	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
132	西64	29.5	225	10.1	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	1.90	B	車両接触による枝折れ(車道側)φ3, L=1m、要切除。 樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
133	西65	25.5	224	10.0	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	1.90	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						
134	西66	28.5	226	9.5	11.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	1.90	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。						

注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

評点：

1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

イチョウ並木(4列)等の評価調査結果一覧

連番	樹木番号	規格				全体	先端部（頂部）										先端部（頂部）					備考	
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り	(m)	樹形	樹勢	大枝 幹の欠損	梢端 の枯損	枝の 伸長量	枝葉 の密度	緑量	葉色	葉の 大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評 点	評価 結果	総合 評点	総合 評価 結果		
135	西67	27.0	187	10.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	1.90	B	赤 5月調査 黒 7月調査 緑 10月調査 処置必要
136	西68	28.5	222	10.0	10.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
137	西69	29.0	248	9.4	11.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹冠全体の枝葉が充実し、樹勢・樹形良好。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
138	西70	28.5	214	10.7	10.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
139	西71	29.0	190	10.3	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.85	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
140	西72	28.0	216	9.6	11.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
141	西73	27.5	209	9.5	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
142	西74	28.5	233	10.5	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
143	西75	27.5	214	11.3	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
144	西76	27.0	249	11.3	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.79	B	樹勢・樹形、概ね異常なし。 秋の黄葉が始まり、葉色がやや薄い。
145	西77	26.5	232	8.5	9.1	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	樹勢・樹形、概ね異常なし。
146	西78	26.0	264	11.2	12.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.39	A	1.32	A	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。 剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。 樹冠全体の枝葉が充実し、葉色濃く、樹勢・樹形良好。

注) 参考として港区道のイチョウについても調査を行った。

■ いちよう並木（4列）等の毎木調査結果の推移

	2023年			2024年		
	5月	7月	10月	5月	7月	10月
東1	B	B	A	A	A	A
東2	B	B	A	A	A	A
東3	B	B	A	A	A	A
東4	B	B	A	A	A	A
東5	B	B	A	A	A	A
東6	B	B	A	A	A	A
東7	B	B	A	A	A	A
東8	B	B	A	A	A	A
東9	B	B	A	A	A	A
東10	B	B	A	A	A	A
東11	B	B	A	A	A	A
東12	B	B	A	A	A	A
東13	B	B	A	B	B	B
東14	B	B	A	A	A	A
東15	B	B	A	A	A	A
東16	B	B	A	A	A	A
東17	B	B	A	A	A	A
東18	B	B	A	A	A	A
東19	B	B	A	A	A	A
東20	B	B	A	A	A	A
東21	B	B	B	B	B	B
東22	B	B	A	A	A	A
東23	B	B	A	A	A	A
東24	B	B	A	A	A	A
東25	B	B	A	A	A	A
東26	B	B	A	A	A	A
東27	B	B	A	A	A	A
東28	B	B	A	A	A	A
東29	B	B	A	A	A	A
東30	B	B	A	A	A	A
東31	B	B	A	A	A	A
東32	B	B	A	A	A	A
東33	B	B	A	A	A	A
東34	A	B	A	A	A	A
東35	B	A	A	A	A	A
東36	B	B	B	A	A	A
東37	B	B	A	A	A	A
東38	B	B	B	A	A	A
東39	B	B	B	A	A	A
東40	B	B	B	A	A	A
東41	B	B	B	A	A	A
東42	B	B	B	A	A	A
東43	B	B	B	A	A	A
東44	B	B	B	A	A	A
東45	B	B	B	B	B	B
東46	B	B	B	A	A	A
東47	B	B	B	B	B	B
東48	B	B	B	A	A	A
東49	B	B	B	B	B	B

	2023年			2024年		
	5月	7月	10月	5月	7月	10月
東50	B	B	B	B	B	B
東51	B	B	B	B	B	B
東52	B	B	B	B	B	B
東53	B	B	B	B	B	B
東54	B	B	B	B	B	B
東55	B	B	B	A	A	A
東56	B	B	B	A	A	A
東57	B	B	A	A	A	A
東58	B	B	B	A	A	A
東59	B	B	B	A	A	A
東60	B	B	B	A	A	A
東61	B	B	B	A	A	A
東62	B	B	B	A	A	A
東63	B	B	B	A	A	A
東64	B	B	B	A	A	A
東65	B	B	A	A	A	A
東66	B	B	A	A	A	A
東67	B	B	B	A	A	A
東68	B	B	A	A	A	A
西1	B	B	A	A	A	A
西2	B	B	A	A	A	A
西3	B	B	A	A	A	A
西4	B	B	A	A	A	A
西5	B	B	B	A	A	A
西6	B	B	B	B	B	A
西7	B	B	B	B	B	B
西8	B	B	B	B	B	B
西9	B	B	B	B	B	B
西10	B	B	B	B	B	B
西11	B	B	B	A	A	A
西12	B	B	B	A	A	A
西13	B	B	A	A	A	A
西14	B	B	A	A	A	A
西15	B	B	B	A	A	A
西16	B	B	B	A	A	A
西17	B	B	B	A	A	A
西18	B	B	B	A	A	A
西19	B	A	A	A	A	A
西20	B	A	A	A	A	A
西21	B	B	B	B	B	B
西22	B	B	B	B	B	B
西23	B	A	A	A	A	A
西24	B	A	B	B	B	B
西25	B	A	A	A	A	A
西26	B	A	A	A	A	A
西27	B	A	B	A	A	A
西28	B	B	B	A	B	B
西29	C	D	D	B	C	C
西30	B	B	B	B	B	B

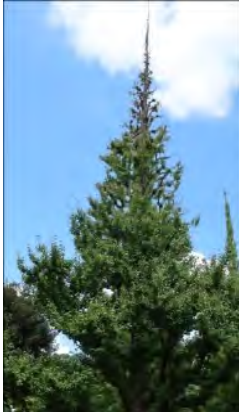
	2023年			2024年		
	5月	7月	10月	5月	7月	10月
西31	B	B	B	B	B	B
西32	B	B	B	B	B	B
西33	B	B	B	B	B	B
西34	B	C	C	B	C	C
西35	B	B	B	B	B	B
西36	B	C	D	B	C	C
西37	B	B	B	B	B	B
西38	B	B	B	B	B	B
西39	B	B	B	B	B	B
西40	C	D	D	C	C	C
西41	B	B	B	A	A	A
西42	B	B	B	B	B	B
西43	B	C	D	A	B	B
西44	B	B	B	A	A	A
西45	B	B	B	A	A	A
西46	B	B	B	A	A	A
西47	B	B	B	A	A	A
西48	B	B	B	A	A	A
西49	B	B	B	A	A	A
西50	B	B	B	A	A	A
西51	B	B	B	B	B	B
西52	B	B	B	B	B	B
西53	B	B	B	B	B	B
西54	B	B	B	B	B	B
西55	B	B	B	B	B	B
西56	B	B	B	B	B	B
西57	B	B	B	B	B	B
西58	B	B	B	B	B	B
西59	B	B	B	B	B	B
西60	B	B	B	B	B	B
西61	B	B	B	B	B	B
西62	B	B	B	B	B	B
西63	B	B	B	B	B	B
西64	B	B	B	B	B	B
西65	B	B	B	B	B	B
西66	B	B	B	B	B	B
西67	B	B	B	B	B	B
西68	B	B	A	A	A	A
西69	B	B	B	B	B	B
西70	B	B	A	B	B	B
西71	B	B	B	B	B	B
西72	B	B	A	B	B	B
西73	B	B	A	B	B	B
西74	B	B	A	B	B	B
西75	B	B	A	B	B	B
西76	B	A	A	B	B	B
西77	B	A	A	B	A	A
西78	B	A	A	A	A	A

樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)		総合評価
			東西	南北	
西29	31.5	270	10.5	10.6	C

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値



撮影日 2024/7/26・30
頂端部落葉、中間部枝先褐変
下部健全



撮影日 2024/8/24
頂端部落葉、その下褐変・一部落葉
下部健全



撮影日 2024/9/25
頂端部完全落葉、その下葉先褐変
下部健全



調査時所見(7月)

樹冠下部(10mまで)は、葉量がやや減少しているが緑量は保たれている。
樹冠中間部(26～10m)は、葉量減少、小型化、褐変が見られ、特に西側で顕著。
樹冠先端部(26mより上部)は、ほぼ全て落葉。



撮影日 2024/10/30



上部完全落葉
中間部も上部落葉、下部は樹勢良好



調査時所見(10月)

樹冠頂端部約15mより上部の葉は全て早期落葉し、
樹冠中間部東側に落葉範囲が拡大している。葉の褐変症状あり。

植栽緑地状況：SHAKE SHACKテラス内

樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)		総合評価
			東西	南北	
西34	27.0	229	12.4	11.3	C

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値



撮影日 2024/7/26・30

頂端褐変進み落葉も多い
中間西側枝も褐変

調査時所見(7月)

樹冠頂部10mは全て褐変、落葉しつつある。
西側樹冠の15mより下部は着葉が疎らで褐変も多い。
褐変症状は枝毎に拡がっている。



撮影日 2024/8/24

上部褐変落葉進む
中間・西側枝褐変



撮影日 2024/9/25

頂端落葉その下褐変
下部の西側強い褐変部有り



撮影日 2024/10/30



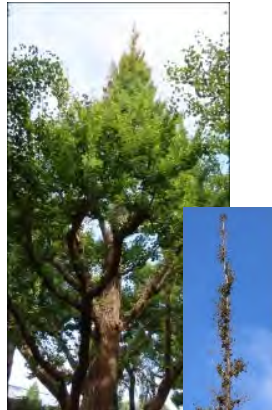
頂部落葉、その下褐変

調査時所見(10月)

樹冠頂端部約10mの葉は全て落葉。中間部は褐変葉が多く、着葉も疎ら。
樹冠中間～下部の西と南側に褐変葉や早期落葉が多い。

樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)		総合評価
			東西	南北	
西36	27.5	287	9.2	10.3	C

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値



撮影日 2024/7/26・30

頂端褐変から落葉多い
その下褐変



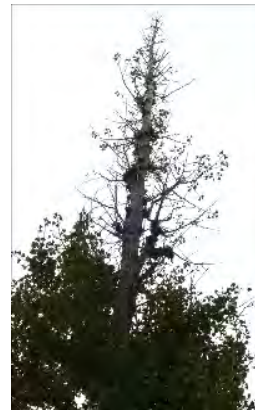
撮影日 2024/8/24

頂端落葉・その下部褐変



撮影日 2024/9/25

頂端落葉・その下部褐変



調査時所見(7月)

樹冠先端部約10mの葉は全て褐変し、葉の小型化や着葉量減少が進んでいる。

樹冠先端部の褐変症状は、西側で下部に広がりつつある。



撮影日 2024/10/30

頂端落葉・その下部褐変



調査時所見(10月)

樹冠頂端部約10mの葉は全て落葉。中間部は褐変葉が多く、着葉も疎ら。

樹冠下部は僅かに褐変葉あり、着葉量はやや疎らではあるが保たれている。

樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)		総合評価
			東西	南北	
西40	27.0	216	9.4	8.5	C

※樹高、幹周、葉張り、評価については10月調査時の値



撮影日 2024/7/26・30

西側下枝褐変進む

頂端は褐変少ない



撮影日 2024/8/24

西側枝の落葉進む

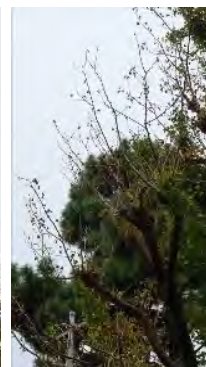
上部は褐変葉あるが枝先が主



撮影日 2024/9/25

頂端褐変だが落葉は少ない

西側は落葉もある



調査時所見(7月)

樹冠の先端部と東側は緑量が保たれているが、樹冠の20mより下部の西側は、着葉の多くが褐変、落葉しつつある。20m以上の先端部にも褐変症状が疎らに生じている。



撮影日 2024/10/30

頂端褐変だが葉は残る



調査時所見(10月)

樹冠全体の着葉が疎らで、小さい葉、褐変葉が多い。頂端部も着葉はあるが、同様の状態。

樹冠全体の南と西側に早期落葉が多い。